



島根半島・宍道湖中海  
ジオパーク



GEOPARKS  
JAPAN  
日本ジオパーク

# 第11回 日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会 〔大会報告書〕

天狗桜と大言浦(松江市島根町)

日御碕(出雲市大社町)

テーマ

今、なぜジオパーク？ 国引きの地から持続可能な地域づくりを考える

2021

10/3(日)～5(火)

〔開催地〕松江市・出雲市

# 目次



ご挨拶(大会を終えて) . . . . .	2
開催概要 . . . . .	3
参加登録者数・視聴者数 . . . . .	5
プログラム開催報告	
オンラインジオツアー、JGC事前相談会、JGN運営会議 . . . . .	6
出雲会場(市民公開講座、JGNブロック別パビリオン、オンライン交流コーナー、物産展、スタンプラリー、ジオパーク展示) . . . . .	7
市町村長セッション . . . . .	11
開会式 . . . . .	13
特別講演 . . . . .	14
基調講演、基調提起 . . . . .	15
昼休憩(地元郷土芸能及び島根半島・宍道湖中海ジオパークPRアニメの動画上映) . . . . .	16
ポスターセッションコアタイム . . . . .	16
オンラインインタープリテーション講座 . . . . .	18
グループトーク . . . . .	18
口頭発表を中心とする分科会 . . . . .	19
昼休憩(地元郷土芸能及び島根半島・宍道湖中海ジオパークPRアニメの動画上映) . . . . .	28
パネルディスカッション . . . . .	28
閉会式 . . . . .	30
大会宣言 . . . . .	31
ポスターセッション . . . . .	32
展示ブース . . . . .	36
プレジオツアー・ポストジオツアー . . . . .	37
実行委員会名簿 . . . . .	43
専門委員会名簿 . . . . .	44
事前アンケート集計結果 . . . . .	45
参加後アンケート集計結果 . . . . .	58
出雲会場来場者アンケート集計結果 . . . . .	91



## ご挨拶（大会を終えて）



第11回日本ジオパーク全国大会  
島根半島・宍道湖中海大会実行委員会  
実行委員長（島根県松江市長）

### 上定 昭仁

第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、史上初のオンライン開催となりましたが、全国から600人を超える皆様にご参加いただき、盛況を収めることができました。

本大会では「今、なぜジオパーク？」をテーマとし、市町村長セッション、各分科会、パネルディスカッション、ポスターセッションなどを通じて、地球、自然、人間の原点にあるジオパークの意義について改めて認識しました。

また、私たちと地球のつながりを意識したうえで、地域の住民、団体、企業、行政の参画を促し連携して活動することの大切さや、各ジオパークとの交流によって得られた「ご縁」を生かし、ジオパーク同士のネットワークを充実強化することの重要性について確認するなど、今後のジオパーク活動における方向性を示すことができました。

そして、ジオパーク活動のより一層の進展によって、地方創生を推進し、持続可能な地域社会を実現する意志を参加者全員で共有できたことは、極めて有益であったと考えております。

本大会にご参加いただいた方々をはじめ、大会の運営に多大なご協力を賜りました日本ジオパークネットワークの皆様、地元関係者の皆様にご心よりお礼を申し上げますとともに、全国のジオパークの益々の発展を祈念いたしております。



日本ジオパークネットワーク  
理事長（新潟県糸魚川市長）

### 米田 徹

第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会を、2021年10月3日から5日までくにびきメッセとビッグハート出雲をメイン会場に開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン主体の内容となりましたが、「今、なぜジオパーク？国引きの地から持続可能な地域づくりを考える」をテーマに、全国のジオパーク関係者が集い、論議し、交流できた有意義な大会であったと感じております。

大会宣言に掲げましたように、ジオパークは「世界が抱える多様な課題に取り組むことができるプログラム」です。いま、私たちが直面する少子高齢化や人口減少、ポストコロナ、自然災害の激甚化等に対し、SDGsも踏まえた持続可能な地域発展を進めるためには、ネットワークを活かしたジオパーク活動が必要です。今後も全国大会や研修会等を通じて、各地域の交流促進とレベルアップを図ってまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



日本ジオパーク委員会  
委員長

### 中田 節也

1年半以上に及ぶコロナ禍で地球上の多くの人々が移動制限されている中、初めてオンラインで開催されたジオパークの全国大会でした。国民の多くが日本経済の底すらも体験し、After コロナで日本をどう立て直し作り替えていくのが今重要になっています。ジオパークについても、新しい自らにあった活動を模索する良い機会となっています。この時期だからこそ見えてきた日頃の膿を取り去って、新しく脱皮する必要があると思います。

オンライン会議のメリットとデメリットがありました。移動を伴わず時間と経費を節約し、鮮明な画面で講演に耳を傾け議論にも参加できるというオンラインならではのメリットがありました。そのおかげで、首長セッションには多くの自治体からの参加者がありました。その一方で、参加者同士の気持ちを通じあうことが難しいというジレンマも残りました。ジオパークに必要な本音をぶつけあうには面談会議がどうしても有利なようです。

会議運営をしていただいた実行委員会や関係者のご尽力に心よりお礼を申し上げます。

## 開催概要

**大会名称** 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会

**目的** 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会は、ジオパーク事業の取り組みを多くの方々に知っていただくとともに、各ジオパークの情報交換や意見交換などを行い、ジオパークの一層の発展・向上につなげることを目的として開催します。

**テーマ** 今、なぜジオパーク？

**サブテーマ** ～国引きの地から持続可能な地域づくりを考える～

**会期** 令和3年10月3日(日)～5日(火)

**会場** くにびきメッセ (3～5日、松江市・オンライン配信会場)  
ビッグハート出雲 (3日、出雲市) ※来場者は島根県民に限定



## 主催

第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会  
一般財団法人自治総合センター

## 共催

特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク(JGN)

日本ジオパーク委員会(JGC)

日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック

山陰海岸ジオパーク推進協議会

室戸ジオパーク推進協議会

一般社団法人 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

四国西予ジオパーク推進協議会

南紀熊野ジオパーク推進協議会

Mine秋吉台ジオパーク推進協議会

萩ジオパーク推進協議会

土佐清水ジオパーク推進協議会

三好ジオパーク構想推進協議会

## 協賛

法人等 (敬称略、五十音順)

アトネスいずも(出雲ターミナル株式会社)	株式会社 グラス	斐川町商工会
出雲ケーブルビジョン株式会社	株式会社 山陰放送松江支社	まつえ北商工会
出雲商工会	株式会社 田部	松江工業高等専門学校
一畑電気鉄道株式会社	株式会社 日新	松江市交通局
一般財団法人 宍道湖西岸森と自然財団 来待ストーン	株式会社 日本旅行TIS松江支店	松江土建株式会社
一般社団法人 出雲観光協会	株式会社 松江情報センター	松江ロータリークラブ
一般社団法人 加賀瀬戸遊覧船	株式会社 メディアスコープ	有限会社 アエラ地域文化デザイン室
一般社団法人 中海・宍道湖・大山圏域観光局	公益財団法人 ホシザキグリーン財団	有限会社 ふたば工芸社
一般社団法人 松江観光協会	荒神谷博物館	有限会社 Plus value
一般社団法人 松江観光協会 美保関町支部	小林病院 小林祥泰	有限会社 ヤマダ看板
株式会社 NCPサプライ 松江支店	島根県農業協同組合	有限会社 吉田工美
株式会社 エムシー・スクエア	田部グループ	
株式会社 オリジナル	中国電力株式会社 島根支社	

個人 (敬称略、五十音順)

阿部 國廣	小川 英二	北原 郁子	錦織 弘之	横原 政治	和田 昇司
荒木 邦明	門脇 和也	桑原 弘道	服部 昌幸	松本 倫枝	渡部美智子
井川 浩介	金折 徹也	河野 美知	榎野 榮一	召古 裕士	
入月 俊明	木内 吾平	高尾 学	船越さちよ	森脇 博之	

## 協力

出雲国ジオガイドの会

## 後援

(敬称略、五十音順)

出雲市	山陰ケーブルビジョン株式会社	中海・宍道湖・大山圏域市長会
出雲市教育委員会	山陰万葉を歩く会、風土記を訪ねる会	西日本旅客鉄道株式会社米子支社
出雲市コミュニティセンター長会	島根県	日本エコビレッジ研究会
出雲商工会議所	島根県地学会	日本海テレビ
出雲大社	島根県立古代出雲歴史博物館	BSS山陰放送
一畑薬師	島根県立三瓶自然館サヒメル	平田商工会議所
一般社団法人 中海・宍道湖・大山圏域観光局	島根県立宍道湖自然館ゴビウス	松江市
NHK松江放送局	島根県立八雲立つ風土記の丘	松江市教育委員会
加賀まるごと博物館	島根半島四十二浦巡り再発見研究会	松江市公民館長会
株式会社 山陰中央新報社	宍道湖魚類研究会	松江商工会議所
株式会社 島根日日新聞	神社ガールズ研究会	松江ロータリークラブ
小泉八雲記念館(島根県松江市)	総務省	八束の遺産を守る会
国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所	中国四国地方環境事務所	
国立大学法人 島根大学	TSKさんいん中央テレビ	



## 参加登録者数・視聴者数



①全国のジオパーク関係者のオンライン参加登録者数：643名（うち有料参加登録者数585名）

②当日のオンライン視聴者数

プログラム		視聴者数
10/2(土)	オンラインジオツアー	121名
10/3(日)	出雲会場市民公開講座	208名
10/3(日)	市町村長セッション	180名
10/4(月)	開会式	415名
10/4(月)	特別講演（小泉 凡）	291名
10/4(月)	基調講演（齋藤 文紀）、基調提起（米田 徹）	249名
10/4(月)	おもてなし動画	101名
10/4(月)	ポスターセッションコアタイム	305名
10/4(月), 5(火)	オンラインインタープリテーション講座	19組 33名
10/4(月) 分科会	保全・保護	111名
	担い手育成（学校教育）	132名
	社会貢献（防災）	121名
	ネットワークの意義・活用（地域内のネットワークづくり）	159名
	合 計	523名
10/5(火) 分科会	保全・保護	74名
	担い手育成（地域住民）	105名
	社会貢献（ユニバーサルデザイン）	66名
	ネットワークの意義・活用（ジオパーク同士のネットワークづくり）	64名
	地域振興（ツーリズム）	148名
合 計	457名	
10/5(火)	おもてなし動画	75名
10/5(火)	パネルディスカッション	259名
10/5(火)	閉会式	208名

③出雲会場来場者数：206名



10/2

オンラインジオツアー

14:00～15:30 島根半島から満喫ジオツアー!

[企画・運営] 島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会

生配信でのオンラインツアーでしたが、出雲縁結び空港でお出迎えする臨場感あふれるスタートとし、車中からの景色を盛り込むなど、実際に当ジオパークにお越しいただいたような雰囲気づくりを行ないました。また、視聴いただいた方々に、行ってみたい!と欲していただけにとともに、当ジオパークの大地の成り立ちを理解してもらえるような構成に努めました。クイズや出雲弁コーナーを盛り込みながら、主要なサイトを巡り、ガイドがリレー方式で当ジオパークの魅力を伝えるとともに、分かりやすくジオサイトを案内しました。

参加後アンケート回答者の92.6%が満足しており、「ガイドの説明が分かりやすかった」、「オンラインでも十分楽しめた」、「オンラインより現地が良い」などの意見をいただきました。

出雲縁結び空港 → 黒松の防風林（築地松） → 出雲大社 → 神迎えの稲佐の浜 → ウミネコを愛する日御碕 → 宍道湖岸を走るローカル電車 → 微小貝の小波海岸 → 神様誕生地の加賀藩戸 → 松江藩港があった桂島 → 松江ビジターセンター

※終了後、チャットによる質疑応答



10/3

オンライン（JGN 等会議）

10:00～12:00 JGC 事前相談会

- 申請の説明・質疑  
（説明 世界申請：大野JGC委員、日本申請：中田JGC委員長）  
2022年審査の流れ及び注意点等
- 活動状況発表及び意見交換  
日本ジオパーク認定申請予定地域のみスライド発表を行い質疑応答  
JGC委員による助言（適宜）
- 事前相談会申込地域
  - ① ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請6地域  
霧島Gp、桜島・錦江湾Gp、南紀熊野Gp、Mine秋吉台Gp、鳥海山・飛島Gp、下北Gp
  - ② 日本ジオパーク申請5地域  
三好、蔵王、上川中部、飛騨山脈、霧島（エリア拡大）

13:00～15:00 JGN 運営会議

- 議題1：全国大会に求めるもの
- 議題2：来年度のJGN事業案、これからJGNで実現したいこと
- 報告事項等
- その他

13:00 ~ 15:45

市民公開講座 (講演、パネルディスカッション) 会場：白のホール

## ①主催者あいさつ

第 11 回日本ジオパーク全国大会

島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 副実行委員長

**飯塚 俊之** (島根半島・宍道湖中海 (国引き) ジオパーク推進協議会副会長、島根県出雲市長)

## ②ジオパーク基礎講座

講師：**入月 俊明** (島根大学 学術研究院 環境システム科学系 教授)

概要：島根半島・宍道湖中海 (国引き) ジオパーク推進協議会会員の入月俊明氏より、ジオパーク活動の内容やジオパークに認定されるまでの流れなど、ジオパークの基礎的な知識や情報について講義いただきました。



## ③講演

演題：「世界の巨石 ～人と関わる大地・文化・観光・ジオサイトの魅力」

講師：**須田 郡司** (写真家、巨石ハンター)

概要：国内外の様々な巨石を訪ね歩いた須田郡司氏が自ら撮影した巨石の写真を紹介しながら、その岩質や地質的背景を解説するとともに、巨石に関わる人・自然・文化・信仰などを魅力的にお話しいただきました。参加者の皆さんに、地質遺産が自然・文化遺産と密接に関係し、地域の人々の生活や文化に根付いていることを伝えていただくことができました。



## ④パネルディスカッション

演題：「出雲地域の大地と文化の関わり」

ファシリテーター：**河野 美知** 神社ガールズ研究会会長 (認定ジオガイド)パネリスト：**平野 芳英** 荒神谷博物館 元副館長**服部 昌幸** 出雲市佐香コミュニティセンター長 (認定ジオガイド)**入月 俊明** 島根大学 学術研究院 環境システム科学系教授

概要：開催地の島根半島・宍道湖中海ジオパーク地域に焦点を当て、ジオパーク活動へ参画し、ジオパークと深い関わりを持っておられる方々をパネリストとして招き、大地の成り立ちとそこから育まれた信仰や文化、そして地域の人々の営みについて、それぞれの活動からお話しいただきました。

ジオパークは、ジオパークに携わる人々のネットワークを大切にしながら、大地とその上に広がる自然や人の営みによって育まれた歴史や文化を守り、地域社会の持続可能な発展に繋げる活動であるとまとめられました。



## アンケート結果について

参加後アンケート回答者の 94.1% が満足しており、「分かりやすく興味深い内容だった」、「大会の趣旨に沿っていたか疑問」などの意見がありました。

会場来場者のアンケートでも、各プログラムについて「良かった」という評価を多くいただきました。



10:00 ~ 17:00

## JGNブロック別パビリオン

**概要：**前回のおおいた大会に引き続き、日本ジオパークネットワーク正会員・準会員地域が6つのブロックに分かれ、パビリオン展示を実施しました。来場者を島根県民に限定したことに伴い、残念ながら全国のジオパーク関係者と来場者の皆さんが直接対話していただく機会を設けることは叶いませんでしたが、創意工夫を凝らして作成された展示物で各ジオパークの特色や活動を紹介していただけただけで、ジオパークの多様性や魅力を来場者の皆さんに伝えることができました。

参加後アンケート回答者の75.4%が満足しており、「楽しく見ることができた」、「オンラインではブロックパビリオンとして見せる効果は無かった」などの意見がありました。

会場来場者のアンケートでも、「全国のジオパークのパンフレットをたくさん見ることができ、行ってみたいくなった」、「物産展では、全国各地のジオパークの産物を買えてよかった」などの意見をいただきました。

### 北海道

**会場：**アートギャラリー

**タイトル：**「北海道ジオパークの四季」写真展

**テーマ：**北海道の「四季」をテーマに、ジオ・エコ・ヒトなどについて紹介

**内容：**○各地域の「四季」をテーマとした写真パネルの掲示  
○写真の内容や各地域の見どころ、魅力について紹介



### 東北

**会場：**アートギャラリー

**タイトル：**いいんでねー!! 東北のジオパーク 2021

**テーマ：**ようこそ! 見たことのない東北のジオパークへ

**内容：**○各地域のポスターやパネルを掲示し、見どころや魅力について紹介  
○「東北のIPPIN」ブースで各地域のジオカードやノベルティ等の配布  
○各地域の名所名物の写真をスライドショーとしてまとめ、モニターで上映



## 関東

会 場：文化サロン

タイトル：関東のジオパークで地球を旅してみませんか？

テーマ：地球の「たから」を見つけに行きたくなるネタがいっぱい！  
訪れてぶらぶら歩いて体験したい食と自然と地形の秘密  
知れば知るほどおもしろい地球と暮らしのストーリー

- 内 容：○各地域の地球の「たから」を、観光者目線でテーマ別にポスターで紹介。  
※ポスターのテーマ  
花めぐり、温泉、ご当地グルメ、絶景図鑑、地酒&ご当地ドリンク、地球のおくりもの「石」、特産品・地場産品、伝統文化
- 関東ブロックの魅力（食文化、楽しみ方など）を映像で紹介。  
ジオパーク秩父のバラエティ番組「秩父ふしぎ発見」の上映。



## 中部

会 場：黒のスタジオ

タイトル：GeoTube ～日本の真ん中から地域を発信！～

テーマ：地域づくり×ジオパーク

- 内 容：○パネルやポスターの掲示、パンフレット等の配布で各地域の魅力を紹介するとともに、大会テーマに沿った「地域づくり」の事例や、島根半島・宍道湖中海ジオパークと各地域との共通点等を紹介。
- 各地域を紹介する映像の上映。



## 中四国近畿

会 場：レセプションスペース

タイトル：ジオの恵み ～「食」で知るジオパーク～

テーマ：大地と密接に関係する「食」を通じて、中四国近畿ブロックの各ジオパークを紹介

- 内 容：○各地域で育まれた食材や伝統の味を、大地の成り立ちや特徴と関連付けながらストーリー性を持ってポスターで紹介。
- 各地域の見どころや魅力を紹介するパンフレットの配布。



## 九州

会場：茶のスタジオ  
 フロ  
 タイトル：九州火山風呂ト

テーマ：九州ジオパークの火山の恵みを満喫

内容：○「温泉」をテーマに各地域が撮影した動画を一本にまとめた映像を上映。  
 ○各地域で見られる火山地形の写真や各地域のポスターを展示。  
 ○各地域のリーフレット等のノベルティの配布。



10:00 ~ 13:00

### オンライン交流コーナー 会場：1階通路

概要：「地域住民との語り合い」を現地ではなく、オンライン上で実現するため、リアルタイムで全国大会が開催されている島根県出雲市の大会会場と全国のジオパークをZOOMで繋ぎ、オンライン上で語り合える場を設け、日本ジオパークネットワーク正会員・準会員のうち、9地域に参加していただきました。

ジオサイトから中継する地域もあり、来場者の方々は全国のジオパーク関係者との交流を楽しんでおられ、是非現地を訪れてみたいとの声も聞かれました。

参加地域：白滝ジオパーク、十勝岳ジオパーク構想、鳥海山・飛鳥ジオパーク、ゆざわジオパーク、南紀熊野ジオパーク、隠岐ユネスコ世界ジオパーク、おおいた豊後大野ジオパーク、三島村・鬼界カルデラジオパーク、島原半島ジオパーク



10:00 ~ 17:00

### 物産展 会場：1階通路

内容：①全国のジオパーク特産品販売（14品）。

②島根半島・宍道湖中海ジオパーク認定ジオブランド商品販売（12品）。

概要：全国14地域から集めたジオパーク特産品と開催地の島根半島・宍道湖中海ジオパークが誇るジオブランド商品を販売する物産展を実施しました。

普段目にするのできない全国のジオパーク特産品に多くの関心が集まり、好評を得ました。参加後アンケート回答者の74.2%が満足と回答されました。

#### 日本ジオパークネットワーク正会員及び準会員地域の特産品販売



#### 島根半島・宍道湖中海ジオパーク認定ジオブランド商品



10:00～17:00

### スタンプラリー 会場：各催し会場

概要：会場全体を見学いただく工夫として、JGNブロック別パビリオン会場とジオパーク展示コーナーを巡るスタンプラリーを実施しました。スタンプを集めた方を対象に抽選会を行い、当選者にはジオパーク関連賞品を贈呈しました。



10:00～17:00

### ジオパーク展示 会場：通路等

概要：会場内の通路等で、ユネスコ世界ジオパークの理念やJGN正会員・準会員地域を紹介するタペストリーを設置するとともに、各種パンフレットやチラシの配布を行いました。



10/3

オンライン

15:00～17:00

### 市町村長セッション

ファシリテーター：島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会 会長 **上定 昭仁**（島根県松江市長）

コメンテーター：**新名 阿津子**（東北公益文科大学公益学部准教授、JGC委員）

パネリスト：とち鹿追ジオパーク推進協議会 会長 **喜井 知己**（北海道鹿追町長）

筑波山地域ジオパーク推進協議会 会長 **五十嵐 立青**（茨城県つくば市長）

苗場山麓ジオパーク振興協議会 会長 **桑原 悠**（新潟県津南町長）

三島村ジオパーク推進連絡協議会 会長 **大山 辰夫**（鹿児島県三島村長）

島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会 副会長 **飯塚 俊之**（島根県出雲市長）

●参加者／JGN正会員及び準会員地域の市町村長

概要：コロナ禍において、大都市圏への人口集中の是正と、人口や産業の地方分散がますます重要となっており、「地方創生」に向けた絶好の機会となっています。

「地方創生」を推進するうえで、感染症や自然災害に強い「持続可能な地域社会の構築」やSDGsの理念をもって取り組むことは欠かすことができません。このような状況の中、2つのテーマについて議論しました。

**テーマ1 市町村長が、ジオパークと行政のトップを兼ねている地域は多く、ジオパーク活動と行政の施策との連携や、ジオパーク運営組織と地域住民または行政内部との連携など各ジオパークの状況について**

パネリストから、ジオパーク資源を活かした取り組み、各ジオパークにおける地域住民や文化財、防災、教育、福祉などの行政各部署との連携、気候変動による自然遺産が失われることへの危機感、ゼロカーボンシティやバイオガスパラントの取り組み、小中一貫校でのジオ科の設置などについて発言がありました。

他の市町村長からは、ジオパークによる情報交換で他の先進事例を知り、自治体の中で活かすことなどについて発言がありました。

**テーマ2 コロナ禍における地方創生や持続可能な地域社会の構築の実現に向けて、ジオパーク運営組織やガイドなどの関係者によるジオパークのネットワーク活動の強化について**

パネリストから、筑波山地域の6市議会で構成されるジオ議連（ジオパーク市議会議員連盟協議会）、様々な市民の参画、ユニバーサルデザインの取り組み、マイクロツーリズムへの転換としてサントリー地域文化賞を受賞した「しかりべつ湖コタン」、修学旅行誘致、近隣ジオパークやブロックジオパークで連携した活動、共感いただける観光客から寄付や協賛を募り自然保護の財源に活用するなど持続可能な財源づくりの検討などについて発言がありました。

他の市町村長からは、SNSで情報発信しながら全国のジオパークを巡る観光客にアワードを発行することや、日本ジオパークは住民との連携によるボトムアップがしっかりできていること、ジオパークを訪れた観光客が別のジオパークに行きたくなる仕組みづくり、中学校の理科の教科書にジオパークが取り上げられたこと、ボトムアップとネットワーク活動が重要であること、財源確保に向けた国におけるジオパーク推進組織の必要性やジオパークのブランド化によるクラウドファンディングの実施などについて発言がありました。

最後に、ファシリテーターである島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会会長の上定松江市長から、ジオパークは教育、防災、観光、福祉などに有意義に活用でき、幅広く施策を展開できること、また、全国のジオパークのネットワーク活動により、多くの知恵が結集できること、国の中の組織や財源が必要であり、どのようにまとまっていくのかも考え、今後も歩みを進めていかなければならないとし、会を終了しました。

参加後アンケート回答者の88%が満足しており、「首長のジオパークに対する考え方や取り組む姿勢が生の声で聞けた」、「他地域の取り組みが参考になった」、「パネリストの事例紹介のみで実質的な議論は少なかった」などの意見をいただきました。また、ファシリテーターを務めた上定会長を評価する意見を多数いただきました。



上定市長

飯塚市長



喜井町長



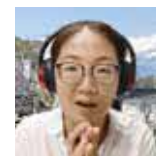
五十嵐市長



桑原町長



大山村長



新名准教授

9:00 ~ 10:00

## 開会式

## 1 主催者・共催者あいさつ

## ①第11回日本ジオパーク全国大会

島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 実行委員長

**上定 昭仁**（島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会会長、島根県松江市長）

## ②日本ジオパークネットワーク

理事長

**米田 徹**（糸魚川ジオパーク協議会会長、新潟県糸魚川市長）

## ③日本ジオパーク委員会

委員長

**中田 節也**

## 2 来賓あいさつ

## ①島根県知事

**丸山 達也**②ジオパークによる地域活性化推進議員連盟  
会長**石破 茂**（衆議院議員）※ビデオレター③ジオパークによる地域活性化推進議員連盟  
事務局長**舞立 昇治**（参議院議員）④日本ジオパーク学術支援連合  
代表**天野 一男**

## 3 祝電披露

## ①細田 博之 衆議院議員

## ②亀井 亜紀子 衆議院議員（当時）

## ③舞立 昇治 参議院議員



## 4 JGN認定証授与

エリア拡大により新規認定された桜島・錦江湾ジオパークと、新規認定された土佐清水ジオパークに、中田 JGC 委員長から認定証が授与され、米田 JGN 理事長とともに記念撮影を行いました。

## ①桜島・錦江湾ジオパーク



## ②土佐清水ジオパーク



## 5 JGN表彰

日本におけるジオパーク活動の普及発展に寄与し、その貢献が特に顕著な個人もしくは団体に対し贈られるもので、日本ジオパークネットワーク理事会の厳正な審査を経て、立山黒部ジオパークと伊豆大島ジオパークの2地域が表彰されました。評価されたグッドプラクティスを発表いただいた後、米田 JGN 理事長から表彰状が授与され、中田 JGC 委員長とともに記念撮影を行いました。

### ①立山黒部ジオパーク



### ②伊豆大島ジオパーク



### アンケート結果について

開会式に参加後アンケート回答者の 91.9% が満足しており、「オンラインならではの工夫がされていた」、「スムーズな運営だった」、「松江市長の気概と発信力が光っていた」、「もう少し島根らしさが欲しかった」、「パフォーマンスがなく残念だった」などの意見をいただきました。

10/4

オンライン

10:05 ~ 10:45

### 特別講演

ラフカディオ・ハーン

講演：小泉 八雲、「ジオ」へのまなざし

講師：小泉 凡 小泉八雲記念館館長（島根県立大学短期大学部名誉教授）

概要：小泉八雲は今から130年前の松江に443日間滞在し、五感でとらえた山陰地方の風土と文化を克明に描出しました。小泉八雲の文学を「ジオ」の視点から読み直すことで、新しい文学への解釈、意味付けになります。それは同時に、地域資源として文学をどのように生かすことができるのかを考えるきっかけとなり、ひいては、ジオパークの来訪者の楽しみ方を拡げることにつながります。

持続可能な共生社会に向けて、文学は、「鑑賞」「研究」「顕彰」の枠を超えて、社会に広く生かすべきであり、また、八雲のオープン・マインド（他者（異なる人種や文化）への公平で愛のある眼差し）な精神の発信と実践により SDGs の実現を図ることができます。八雲は、松江の風景に「陰」と「移ろい」を見出しました。それは日本文化の本質を理解する上で、大きな役割を果たし、自然が文化（人間）に及ぼす影響の大きさを理解できたのです。

参加後アンケート回答者の 94.4% が満足しており、「ジオパークを文学的な視点から眺める新鮮な体験であった」、「文学とジオのつながりが興味深かった」、「ジオパークとの関連性をあまり感じる事ができなかった」などの意見をいただきました。また、運営側のアクシデントにより動画が繋がらなかったことで、不満や不参加があげられました。



10:55 ~ 11:35

## 基調講演

講演：過去から将来への沿岸環境と人新世

講師：齋藤 文紀 国立大学法人 島根大学 研究・  
学術情報機構エスチュアリー研究センターセンター長(JGC委員)

概要：冒頭、齋藤教授が日本代表を務める IGCP（地質科学国際研究計画）  
について説明されました。

続いて、人間活動によって地球システムは大きく影響を受け、地質時代の時代を区分する大きな変化と同じように変容、変貌、変化しており、「人新世（じんしんせい）」という言葉が発せられているように、地球規模の現象で1950年頃から「大加速」と呼ばれる大きな変化が起きているとされました。

海水準変動と沿岸環境については、世界の海水準は今が最も高く、縄文前期から中期には日本列島は約2°暖かかったとされ、その当時の世界の海水準は今よりも低く、現在の沿岸地形、特に平野は、過去6千年間の安定した海水準の環境の下で形成されました。人間活動による地球温暖化は、より長期間にわたって地球環境に影響し続け、2100年に39cm、2300年に海水準が1~2m上昇した日本を想像しなくてはならないとされました。

参加後アンケート回答者の79.3%が満足しており、「海水域の上昇など地球環境変動の切実さを認識できた」、「今、なぜジオパーク?のテーマに一番即している内容だった」、「講演内容が難しかった」という意見をいただきました。



11:35 ~ 12:05

## 基調提起

講演：みんなでつくる「ジオパークネットワーク」

講師：米田 徹 日本ジオパークネットワーク理事長

概要：日本ジオパークの立ち上げから関わり、JGN理事長として活動を牽引されてきた米田理事長に、これまでの10年のジオパーク活動への想いや今後の活動の展望などについて講演いただきました。

これまでの成果・評価として、広辞苑に「ジオパーク」が掲載されたことや、ジオパークによる地域活性化推進議員連盟の設立、ユネスコ正式事業化、ジオパークの認知度向上などを述べられました。

今後の課題・まとめとして、「ベースは個々のジオパークの活動であり、各地域でしっかりとジオパーク活動をすること」、「JGNは、地域の連携を重視し、ネットワーク活動を通じて地域を支える組織であり、成果を共有し、更なる発展をめざすこと」、「認定審査、再認定審査は活動地域のためであり、審査は活動の更なる発展の場で、JGC審査員等とともに、地域にとってより良い選択をすること」、「JGNの役割は、集まって、議論を重ね、実践して、成果を持ち寄り、更なる活動の発展を通じて、持続可能な地域社会を実現すること」とされました。

最後に「あなたは本気で地域の発展を目指しているのか?そのために何をするのか?」を基本的にジオパーク活動に取り組んでほしいとされました。

参加後アンケート回答者の90.8%が満足しており、「JGN立ち上げの経緯や、これまでの成果、今後の展望が示されて良かった」、「ネットワークの意義を改めて考えた」、「新鮮味はあまりなかった」などの意見をいただきました。





12:05 ~ 13:00

昼休憩（地元郷土芸能及び島根半島・宍道湖中海ジオパークPRアニメの動画 上映）

1 松江市美保関町郷土芸能動画

正調 関の五本松節保存会 本部道場

- ①正調 関の五本松節
- ②ホーライエッチャ
- ③しげさ節
- ④関の五本松節踊り



2 島根半島・宍道湖中海ジオパークPRアニメ動画

「ジオジオ!美味しいもの巡り」



13:00 ~ 13:50

ポスターセッションコアタイム

ポスターセッションコアタイムは、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使用して実施し、13グループ33組が発表しました。

参加後アンケート回答者の58.2%が満足と回答しており、「現地の雑踏の中で聴くのは違い、オンラインなのでしっかり説明を聴くことができた」など評価する意見がある一方、「時間が少なかった」、「聴講者が少なかった」、「時間管理する人が必要だった」など、運営上の問題について意見をいただきました。

グループ	時間	区分	テーマ	氏名	所属	タイトル
1	13:05 ~ 13:25	ポスターセッションコアタイム	1. 活動事例 (保全・保護)	岩出 昌	大雪山カムインタラジオパーク構想推進協議会	北海道旭川市神居古潭峡谷の奇岩「魔神の頭」の流木撤去作業と今後の展望
	13:25 ~ 13:45	ポスターセッションコアタイム	1. 活動事例 (保全・保護)	大井 信三	筑波山地域ジオパーク推進協議会	里山ジオツアーの勧め
2	13:05 ~ 13:25	ポスターセッションコアタイム	1. 活動事例 (保全・保護)	肥沼 隆弘	秩父まるとジオパーク推進協議会	ジオパーク秩父におけるサイト保全方針～天然記念物保存活用計画とジオパーク保全計画の策定に向けて～
	13:25 ~ 13:45	小中高大学生発表	1. 活動事例 (保全・保護)	佐々木 聡史	島根大学大学院 総合理工学研究科	島根半島・宍道湖中海ジオパーク～学生から見た4年間～
3	13:05 ~ 13:20	ポスターセッションコアタイム	2. 活動事例 (担い手育成)	香取 拓馬	糸魚川ジオパーク協議会	地元山岳会と共働したジオトレイルの魅力発信～糸魚川ジオパーク梅海新道の例～
	13:20 ~ 13:35	ポスターセッションコアタイム	2. 活動事例 (担い手育成)	小島 隆夫	苗場山麓ジオパーク振興協議会	ガイドによる情報発信
	13:35 ~ 13:50	ポスターセッションコアタイム	2. 活動事例 (担い手育成)	中野 加織里、日比野 剛	白山手取川ジオパーク推進協議会	10年間の教育活動の成果を分析する
4	13:05 ~ 13:20	ポスターセッションコアタイム	2. 活動事例 (担い手育成)	藤田 尚子	萩ジオパーク推進協議会	生徒と考えたい!地球の気もち～専門員と学ぶ大地と人のイイ関係～
	13:20 ~ 13:35	ポスターセッションコアタイム	2. 活動事例 (担い手育成)	餅田 修一、脇坂 弘明、橋本 登志雄、古河 尚訓、普照 豊	白山手取川ジオパーク推進協議会	白山手取川ジオパーク学習支援員の活動
	13:35 ~ 13:50	ポスターセッションコアタイム	5. 活動事例 (地域振興)	芝崎 浩子	南紀熊野ジオパークガイドの会	ジオパークガイドで有名観光地をより深く楽しく!～JR西日本『WEST EXPRESS 銀河』における『橋杭岩』ガイドの取り組み事例～
5	13:05 ~ 13:20	ポスターセッションコアタイム	4. 活動事例 (ネットワークの意義・活用)	王生 透	(一社)立山黒部ジオパーク協会	ジオパークってなに?という人へのアプローチについて

5	13:20～ 13:35	ポスターセッション コアタイム	4.活動事例（ネットワークの意義・活用）	倉林 実央	島原市地域 おこし協力隊	島原半島ユネスコ世界ジオパークにおける “火山 funfan プロジェクト”の取り組み
	13:35～ 13:50	ポスターセッション コアタイム	4.活動事例（ネットワークの意義・活用）	檜崎 知行	Mine 秋吉台 ジオパーク 推進協議会	大嶺炭田資料活用に関する産・官・学・民の 協同作業の成果と副産物
6	13:05～ 13:20	ポスターセッション コアタイム	6.最近の学術研究成果	太田(小矢野) 悠造	鳥取県立山陰 海岸ジオパーク 海と大地の自然館	山陰海岸ジオパークにおける専門家を招聘した海洋 生物相調査
	13:20～ 13:35	ポスターセッション コアタイム	6.最近の学術研究成果	仲山 暢	島根大学、自然 科学研究科、環境 システム科学専攻	島根半島沿岸における熱帯性大型有孔虫の定着実態
	13:35～ 13:50	小中高大 学生発表	6.最近の学術研究成果	野田 美空	松江工業高 等専門学校	シジミにおけるマイクロプラスチックの摂取量と アミノ酸への影響調査
7	13:05～ 13:20	ポスターセッション コアタイム	6.最近の学術研究成果	松原 誠	防災科学技術 研究所/地震 学会ジオパーク 支援委員会	「防災科研 地震だねっと!」「防災科研 揺れてるねっ と!」の展開と活用、地震学習会「ジオパーク活動 で使える地震学5:『ジオパーク』×『活断層』& 地震学会秋季大会ジオパークオンライン巡検
	13:20～ 13:35	ポスターセッション コアタイム	6.最近の学術研究成果	吉瀬 毅	桜島・錦江湾 ジオパーク	鹿児島県始良市のジオストーリー 帖佐鍋倉の銅山 製鉄業について
	13:35～ 13:50	小中高大 学生発表	6.最近の学術研究成果	濱田 真実	島根大学	島根半島・宍道湖中海ジオパークにおける中新世 魚鱗化石について
8	13:05～ 13:50	ポスターセッション コアタイム	6.最近の学術研究成果	山口 弘幸	鎮西学院大学	島原半島ユネスコ世界ジオパークにおける ユニバーサルデザイン・ジオツアーの整備検討
		ポスターセッション コアタイム	6.最近の学術研究成果	山口 弘幸	鎮西学院大学	島原半島ユネスコ世界ジオパークにおける ユニバーサルツーリズム研修と検討課題
		ポスターセッション コアタイム	6.最近の学術研究成果	山口 弘幸	鎮西学院大学	南紀熊野ジオパークにおける ユニバーサルデザイン・ジオツアーの整備検討
9	13:05～ 13:20	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	岩本 直哉	銚子ジオパーク 推進協議会	古代における銚子周辺の重要性と 海跡湖「榑海」にまつわる伝説について
	13:20～ 13:35	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	荻野 慎諳	恐竜渓谷 ふくい勝山ジ オパーク	古志の八岐大蛇は、越の国の自然現象? 地元の古い文献を科学的視点で読み返してみよう
	13:35～ 13:50	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	金山 恭子	鳥取県立山陰 海岸ジオパーク 海と大地の自然館	『鷲峰山と大山の背比べ』を地球科学的に 検討してみた
10	13:05～ 13:25	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	谷口 海愛	伊豆大島ジ オパーク推進委 員会	伊豆大島ジオパーク「カッパと水の物語」
	13:25～ 13:45	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	成田 浩一、 中嶋 亮	豊岡市環境 経済部 大交 流課	豊岡盆地とアミノヒボコ伝説
11	13:05～ 13:25	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	野村 律夫	島根半島・宍道湖 中海(国引き)ジ オパーク推進協議会	Geomythology (地球神話) をジオパークに活かす ための背景 ～地域の地球神話を科学的に深め、 地域に合ったプログラム作りをしよう～
		ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	野村 律夫	島根半島・宍道湖 中海(国引き)ジ オパーク推進協議会	地球神話でみる島根半島・大船山の謎 ～なぜ、水の神が生まれ坐す山となったのか～
	13:25～ 13:45	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	小河原 孝彦、 小林 猛生	糸魚川ジ オパーク協議会	ジオパークと神話の世界
12	13:05～ 13:25	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	古川 広樹	浅間山ジ オパーク推 進協議会 事務局	浅間山夜分大焼の図は史実を誇張したものか
	13:25～ 13:45	ポスターセッション コアタイム	7.ジオパークにある神話・ 伝説	メイスーザン、 近藤 綾子	白山手取川ジ オパーク推 進協議会	白山手取川ジオパークに伝わる伝説
13	13:05～ 13:15	小中高大 学生発表	2.活動事例(担い手育成)	林 愛美、 谷口 優奈	高知県立室 戸高等学校	私たちにできること ～地震災害から命を守るために～
	13:15～ 13:25	小中高大 学生発表	2.活動事例(担い手育成)	二本柳 若菜、 中村 琴、 今美 実	青森県立大 湊高等学校	下北ジオパークにおける課題研究の取り組み
	13:30～ 13:40	小中高大 学生発表	2.活動事例(担い手育成)	秋田ひなた、飯谷莉里、 小西菜穂、 田島 汰一、本谷 梨菜	石川県立鶴 来高等学校	白山手取川ジオパークを未来へ! ～価値発信と持続可能性～
	13:40～ 13:50	小中高 大学生発表	5.活動事例(地域振興)	中村 孝、池部 莉央、 熊野舞桜、品川 葵	山口県美祿市立 秋芳中学校	水をテーマに考える自然保護と自然活用

ガイド講習会	オンラインインタープリテーション講座
日時	10月4日(月) 13:00～17:30、10月5日(火) 9:00～12:00
企画・運営	萩ジオパーク推進協議会
講師	一般社団法人をかしや 菊間 彰 代表理事 環境教育事務所 Linoworks 仲上 美和 代表
概要	コロナ禍で観光業やガイド業が軒並み大打撃を受けています。しかしオンラインでツアーを実施しガイドするという新しい手法が生まれ、大きな可能性も見えてきました。本講座では、オンラインではあるが、体験(アクティビティ)を通してメッセージを伝える技術「インタープリテーション」に触れ、楽しく安全に、お客様が主役となる場作りを体験・実習しました。
内容・まとめ	本講座のオリエンテーションに続き、オンライン会議システム(Zoom)の操作に慣れつつ、オンラインによるアイスブレイクを行いました。萩ジオパークのジオガイドが屋内外のオンラインインタープリテーションを実演し、オンラインであっても五感を使って楽しむことができることを体感しました。 菊間氏による小講義『「知識を伝える」から「感動が伝わる」へ』を受け、参加者自身の実演に入りました。『やってみよう!オンラインインタープリテーション(その1)「他己紹介、他の地域の魅力伝えます!」』として、3地域ごとにブレイクアウトルームに分かれ、地域の魅力を聞き取り、「五感・体験」を大事にして伝えることを意識して実演、振り返りを行いました。 2日目は『やってみよう!オンラインインタープリテーション(その2)「自己紹介、自分の地域の魅力を伝えよう!」』として、2グループに分け、前日の実演を踏まえて10分以内で自身の地域をプレゼンし合い、互いの手法のいいところを学びあい、講師がフィードバックしました。 お客様に伝えたいことが伝わるためには、「五感・体験」を用いる手法が有効で、そのためには、情報をそぎ落としていくことが重要であり、その難しさも体感しました。

## アンケート結果について

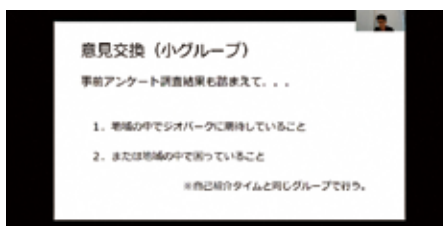
参加後アンケート回答者の94.4%が満足しており、「ガイドへの意識付けとして有効だった」、「講師のアドバイス、指摘事項が理解しやすかった」、「実践的で勉強になった」などの意見をいただきました。

14:00～15:00

## グループトーク

グループトークに続いて開催する分科会を担当する中四国近畿ブロックのジオパークに進行いただきました。これからのジオパーク活動の進め方や考え方、引き続いて開催する口頭発表を中心とする分科会に関する内容などについて、参加者同士が意見交換や情報共有を行いました。議論にあたって、大会開催前に行った事前アンケート結果を利用したグループもありました。

参加後アンケート回答者の65.1%が満足と回答しており、「他地域の取り組みが分かって良かった」、「交流できて良かった」など評価する意見がある一方、「時間が短かった」、「オンラインではコミュニケーションがとりにくかった」、「続く分科会のプレトークだった」、「大会事務局とグループトーク運営担当者との連携が十分でなかった」など、運営上の問題について意見をいただきました。



## 口頭発表を中心とする分科会

分科会 1-1	<b>【保全・保護】 ジオパークで考える海ごみ問題</b>
日時	10月4日(月) 15:00～17:30
企画・運営	山陰海岸ジオパーク推進協議会
ファシリテーター	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 川村 教一 教授、佐野 恭平 助教
概要	海ごみ問題に取り組むジオパーク関係者に、現状の課題や解決への取り組み事例などを紹介してもらい、各関係者および参加者との意見交換や議論から今後の海ごみ問題への取り組みを共有し、ジオパークプログラムにおける保全活動について考えました。
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基調提起 一般財団法人 JEAN 小島 あずさ 理事</li> <li>2 口頭発表 <ol style="list-style-type: none"> <li>①山陰海岸ジオパーク 丸田 智代子 ジオガイド 『山陰海岸ジオパーク活動報告。海、浜を守る事は、地域を守る事』</li> <li>②隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 池永 遼介 地質研究員 『海ごみ問題に対する隠岐ジオパークの取り組み紹介』</li> <li>③伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク 齊藤 武 ジオガイド 『子どもたちと描く1000年後の未来』</li> <li>④海と大地の自然館 松本 和彦 学芸員 『どうしよう!海ごみ問題 中山間地の取り組み(八東川クリーンアップ大作戦)』</li> </ol> </li> <li>3 会場との意見交換</li> </ol>
まとめ	海洋ごみ問題の現状や今後の課題、問題解決の重要性など参加者と共有しつつ、各地のジオパークにおける取り組み事例の紹介と質疑により議論を深めました。海ごみ問題の解決には、漂着ごみの回収だけでなく、河川を通じた陸域のごみとのつながりを知ることや、そもそもごみを出さない、ごみとなるものを買わないことなど、まずは多くの人に知ってもらうことが重要です。また、ICC(International Coastal Cleanup: 国際海岸クリーンナップ)では、ごみ回収の際に、一定の指標に基づいたごみの種類や量などのデータ収集を行っており、近年では、国内でもこの活動に参加している地域が多数あります。これらの取り組みをジオパークのネットワークで広く活用することで、データの定量化や、地域ごとのごみの現状把握、地域間での比較・時系列の変化を可視化することが可能となり、これからの海ごみ問題に対する問題解決の方法の幅を広げていくことが期待されます。

### 分科会の流れ

- ・イントロダクション 【10分】
- ・基調提起 一般社団法人JEAN 理事 小島あずさ氏 【30分】
- ・事例発表 山陰海岸UGGp ジオガイド 丸田智代子氏 【20分】
- ・同 隠岐UGGp 研究員 池永遼介氏 【20分】
- ・同 伊豆半島UGGp ジオガイド 齊藤武氏 【20分】
- ・同 海と大地の自然館 職員 松本和彦氏 【20分】
- ・総合討論とまとめ 【20分】



分科会 1-2	<b>【担い手育成（学校教育）】ジオパークで目指したい教育ってなに？</b>
日時	10月4日（月）15:00～17:30
企画・運営	室戸ジオパーク推進協議会
ファシリテーター	室戸ジオパーク推進協議会 中村 昭史 地理専門員
班別協議協力者	日本ジオパーク委員会 大野 希一 委員（島原半島ジオパーク推進協議会事務局次長）
概要	ジオパークの教育は単に地形や地質を学ぶことではありません。「いまなぜジオパーク教育」なのか。社会に求められている子供たちの教育に、ジオパークがどのように貢献できるのか、また現在移行が進んでいる新学習指導要領への対応など、学校側・教員側のニーズを的確に把握し、ジオパークならではの教育をどのようにうまく進めていくことができるのかを議論しました。班別協議では、基調講演や事例発表を受け、「これからの学校教育に向けてジオパークが貢献できること」を話し合いました。
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 分科会の趣旨説明</li> <li>2 基調提起 『新学習指導要領で目指される教育の方向性と学校教育への導入アプローチ』 芝浦工業大学工学部 谷田川 ルミ 教授 芝浦工業大学建築学部 栗島 英明 教授 新学習指導要領の導入が進む現在、求められている教育にジオパークはどのように貢献することができるのか。また、多忙を極める学校現場とジオパークとの連携をいかにうまく進めることができるのか、ESD教育プログラムの導入事例を挙げながら解説しました。</li> <li>3 事例発表 ①三好ジオパーク構想推進協議会 殿谷 梓 ジオパーク専門員 『何のため、誰のためのジオパーク学習なのかを三好から考える』 ②室戸ジオパーク推進協議会事務局 小笠原 翼 国際交流専門員 『地域内の持続可能な教育を維持するためにジオパークができること』 実際に学校側との連携を進めているジオパーク学習の例と、そこで出てきた課題について2地域からの報告を行いました。</li> <li>4 班別協議・協議内容報告 テーマ『これからの学校教育に向けてジオパークが貢献できること』</li> <li>5 総評 日本ジオパーク委員会 大野 希一 委員</li> </ol>
まとめ	<p>教育はジオパーク活動の柱の一つであり、すでに学校現場と協力して優れたプログラムを提供しているジオパークも多くみられます。一方で、それぞれのジオパークが抱えている事情から学校現場にうまく介入できないまま、逡巡している所も多いです。本分科会では、学校側・教員側のニーズを的確に把握し、ジオパークがこれからの学校教育にいかに貢献していけるかを話し合いました。</p> <p>基調講演では、現在導入が進んでいる新学習指導要領のねらい（ex. 主体的・対話的で深い学び）に対して、ジオパークが大きく貢献できる可能性や、教員に負担をかけない形でジオパーク学習を進めるための注意点を示唆してもらいました。</p> <p>事例発表では、学校側との連携を図る際の課題やアプローチの工夫などを報告してもらいました。</p> <p>班別協議では、これからの学校教育に対してジオパークが提供できること、学校側へ働きかける際に抱えている課題、課題に対する解決策等を議論してもらいました。協議の中から、単発ではなくカリキュラムの中にジオパーク学習を導入していくことの重要性や、ガイドが学校教育に関わるための体制づくり案、学習指導要領に沿うプログラムをJGN内で共有し、互いに活用できるように仕組みづくり案などが提起されました。</p>

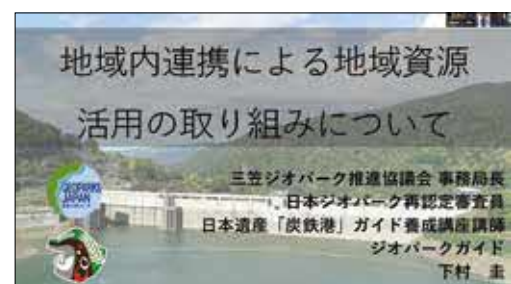
分科会 1-3	<b>【社会貢献（防災）】ジオパークだからこそできる防災・減災活動</b>
日時	10月4日（月）15:00～17:30
企画・運営	四国西予ジオパーク推進協議会
ファシリテーター	東北学院大学 目代 邦康 准教授
概要	ジオパークが、自然災害とどのように向き合うのか、またジオパークで活動する人々は何をしなければいけないのか考えました。
内容	<p>定池祐季氏（東北大学災害科学国際研究所）に基調講演「ジオパークと防災・減災活動」をしていただきました。講演は「当事者性と防災・減災活動」、「防災・減災の考え方」、「ジオパーク / ジオパーク以外での防災・減災活動の例」、「ジオパークと防災」といった内容で、支援のあり方や「生活防災」の概念、国内外の被災地における災害伝承・防災教育活動についてご紹介いただきました。</p> <p>分科会参加者は、基調講演を聞いたあとに、防災・減災活動についての自身の立場や考えをまとめてもらいました（Google Formsを利用）。その回答はその場でファシリテーター、運営スタッフで共有しました。総合討論時には、その回答を基に自然災害との向き合い方について議論を進めました。</p> <p>参加者の多くは、防災・減災への関心の高い自治体職員やジオパーク認定地域の協議会事務局職員でした。回答の多くは、自然災害との向き合い方に対する熱心な記述でした。平常時の防災・減災活動として、具体的な訓練や対策が多く挙げられていました。さらに、ウォーキングやサイクリングを通じて、身の回りの風景や河川、坂などに反映されている地形の特徴に関心を持ったということも挙げられていました。</p>
まとめ	<p>総合討論の時間内で、参加者の記述内容を分析し、それを踏まえた上で議論することは難しかったです。そのため大会終了後、ファシリテーター、講演者、運営を担当した四国西予ジオパークスタッフでアンケート記述を読み、その上で鼎談を行い、それを収録し、資料とともにオンラインで配信しました。</p> <p>本分科会を通して得られた結論は、ジオパークならではの防災・減災活動を育むためには、それぞれの地域に置ける立場の多様性や、様々な災害種別の理解を深めることが重要であるということです。</p> <p>なお、分科会進行に不手際があり、参加者の皆様へはご迷惑をかけました。改めてお詫び申し上げます。</p>

スケジュール	
15:00	開会
15:05	基調講演 東北学院大学 目代 邦康 准教授
15:10	基調講演「ジオパークと防災・減災活動」 東北大学災害科学国際研究所 定池 祐季 助教
16:05	質疑応答
16:10	休憩
16:15	ワークテーマ説明（目代・嶺山） 「自分は何者か？ジオパークという場において、自然災害とどう向き合うのか。自分は何ができるのか。何をしたいのか。」
16:25	ワークの実施
17:00	ワークの共有（進行：目代）
17:25	小野：閉会挨拶



分科会 1-4	<b>【ネットワークの意義・活用（地域内のネットワークづくり）】</b> 地域内のパートナーシップで何ができるのか
日時	10月4日（月）15:00～17:30
企画・運営	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会
ファシリテーター	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 長田 樹 事務局員 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 ヴォウォンセン・ヤゴダ 専門員
概要	ジオパーク活動はトップダウンではなく、地域の組織、企業や住民と連携しながらボトムアップで取り組んでいく必要があります。本分科会では推進的な取り組みを行っている4地域の事例を発表し、それらを参考に参加者と意見交換しながら地域内のネットワークのあり方と重要性について考えました。
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ファシリテーターによる課題提起</li> <li>2 推進的な取り組みを行う地域による事例発表 <ol style="list-style-type: none"> <li>①三笠ジオパーク推進協議会 下村 圭 事務局長 『地域内連携による地域資源活用の取り組みについて』</li> <li>②栗駒山麓ジオパーク推進協議会 長谷川 唯 専門員 『栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」の取り組みを通じた地域振興について』</li> <li>③（一社）立山黒部ジオパーク協会 山瀬 裕子 専門員 『市内散策「ブラとやま」 -NPO法人、大学との連携による町並みの魅力再発見-』</li> <li>④山陰海岸ジオパーク推進協議会 浅田 英亮 事務局員 『地元の宿泊業者との連携した取り組みについて』</li> </ol> </li> <li>3 意見交換及びまとめ</li> </ol>
まとめ	本分科会では、地域とのパートナーシップを推進的に取り組んでいる地域に発表していただき、地域内との連携により生まれる効果について事例を紹介いただきました。また、オンラインでの開催でありましたが、会の内容が一方的な発表で終わりではなく、発表者と参加者が活発な質問や意見交換が出来るようにブレイクアウトルームを活用して行いました。これにより、多くの参加者の質問に対応することができ、また発表者と参加者だけでなく、参加者同士の意見交換も行うことが出来ました。意見交換を行う中で、ジオパークには多種多様な専門家が関わるため、多面的な見方で活動に取り組むことができ、その地域にしかない価値を見出すことと行政と協力団体だけでなく、協力団体間同士の横のつながりも可能にする利点があります。一方で地域ごとにパートナーシップの認識も様々であること、パートナーシップを行う上で、双方にメリットがないと長続きしないなどの意見も挙がりました。パートナーシップを行うには地域内で何を目標として、連携していくかを明確にしておくために相互間の対話が大切であることを全体で共有しました。

<p>分科会の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分科会のテーマ説明、課題提起（5分）</li> <li>2. 4地域による事例発表（60分） ～5分休憩～</li> <li>3. 質疑応答（35分）</li> <li>4. グループによる意見交換（30分）</li> <li>5. まとめ（15分）</li> </ol>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



## 口頭発表を中心とする分科会

分科会 2-1	<b>【保全・保護】 ジオパークでの湿地の価値の評価と保全の実際</b>
日時	10月5日(火) 9:30～12:00
企画・運営	JGN 運営会議保全ワーキンググループ
ファシリテーター	筑波山地域ジオパーク推進協議会 富永 紘平 ジオパーク専門員 南紀熊野ジオパーク推進協議会 野口 和典 事務局員
概要	湿地の多面的な価値の評価方法を共有し、ジオパークプログラムにおける湿地での保全活動、持続可能なツーリズム、教育活動とは何かについて考えました。
内容	<p>1 問題提起</p> <p>日本には、広大な湿地を持つ(持っていた)ジオパークがいくつもある(例えば、筑波山地域 Gp の霞ヶ浦、男鹿半島・大潟 Gp の八郎潟、島根半島・宍道湖中海 Gp の宍道湖・中海)。</p> <p>これらでは大規模な地形改変等が行われています(いました)が、ジオパークとしてそうしたことについての評価はしておらず、またジオパークとしての保護・保全活動で顕著なものはほぼありません。本分科会では、湿地の多面的な価値の評価方法を共有し、ジオパークプログラムにおける湿地の保全活動、持続可能なツーリズム、教育活動とは何かについて考えました。(SDGs 15.5,15.9,15.a)</p> <p>2 基調講演</p> <p>広島大学大学院 人間社会科学研究科 浅野 敏久 教授</p> <p>3 事例発表</p> <p>① 中海自然再生協議会 国井 秀伸 会長(島根大学名誉教授) 『宍道湖・中海干拓淡水化事業中止から自然再生の開始まで』</p> <p>② 大潟村干拓博物館 船木 信一 館長 『大潟村にハクガンが来る意味と意義』</p> <p>③ 筑波山地域ジオパーク推進協議会 富永 紘平 ジオパーク専門員 『筑波山地域ジオパークにおける霞ヶ浦の保全の現状』</p> <p>④ 栗駒山麓ジオパーク推進協議会 田中 誠也 専門員 『伊豆沼・内沼での実践からジオパークの保全を考える』</p> <p>4 参加者との意見交換</p>
まとめ	基調講演や、中海や大潟村による報告により、生物、生態系の保護を基盤として、湿地環境の保護の活動が積み重ねられてきたことが理解できました。保護の対象は、水鳥を含む生物と、その生態系、そしてその生育環境である湿地であり、明確です。その保護活動のツールとしてラムサール条約という仕組みが作られてきました。一方、ジオパークでは、何のために、湿地を保全するのか、明確な答えが得られていません。そうした状況であるため、日本のジオパークにおける保全活動の実践のなかで、湿地環境における積極的な活動がなされてこなかったのではないのでしょうか。本分科会では、ジオパークでの教育活動を通して、湿地を流域単位で捉える、人間活動による地形改変の功罪を考察する等の方法で、保全意識の向上に寄与する可能性が示されました。今後は、ジオパーク外での様々な活動を参考にするとともに、ジオパークにおける湿地の意味を様々な立場から考え、活動の方向性を決めていく必要があるでしょう。

分科会 2-2	<b>【担い手育成(地域住民)】 地域住民との協働</b>
日時	10月5日(火) 9:00～12:00
企画・運営	南紀熊野ジオパーク推進協議会



ファシリテーター	和歌山大学教育学部 此松 昌彦 教授 和歌山大学観光学部 出口 竜也 教授 山陰海岸ジオパーク 今井 ひろこGpガイドコーディネーター
概要	ジオパークにとっての顧客はだれなのか。地元が潤うシステム作りを地域住民と一緒にどのように考えるかなどの議論を促し、担い手として地域でお金を使ってくれる人を育成する必要があるという観点で、持続可能な地域経済活動とは何かについて考えました。
内容	<p>1 基調提起 和歌山大学観光学部 出口 竜也 教授 地域住民のジオパーク活動への参加については、各地域において様々な方法で行われてきました。一方で、地元企業との製品やサービスのブランド化等は、さらなる取り組みができる余地があります。 本分科会では、どのようにステークホルダーとして地元企業を巻き込んでいか、地元が潤うシステム作りを地域住民と一緒にどのように考えるかなどの議論を促し、持続可能な地域経済活動とは何かについて考えました。 (SDG s 8.9 11.a 12.b)</p> <p>問題提起のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手育成とは具体的に誰をどのように育てることなのか？</li> <li>・ジオパークにおけるステークホルダーはどこからどこまでなのか？</li> <li>・地元企業の定義は？</li> <li>・地元企業を巻き込むとは具体的に何を意味するのか？</li> <li>・地元が潤うとは具体的に何がどのようになることなのか？</li> <li>・持続可能な地域経済活動⇒持続可能な地域「経営」活動では？</li> </ul> <p>2 口頭発表</p> <p>① NPO 法人桜島ミュージアム 福島 大輔 理事長 『桜島の資源を活かしたビジネスとジオパーク』 桜島ミュージアムは、桜島をまるごと博物館と考え、地域の魅力と価値を発信し続けることで桜島ファンを増やし、桜島に関わる人が心と暮らしの豊かさを感じられる地域を目指している施設です。当初、助成事業や補助事業を使って地域資源の再発見と活用を行い、ジオパークの基礎を作ってきましたが、それが持続可能でないと実感し、自主事業（ツアーや物品販売）で収入を得るように改革しました。その中の個人向けツアー、修学旅行向けプログラム、地域特産商品の事例について紹介しました。</p> <p>②森林インストラクター／讃岐ジオガイド 横山 昌太郎 「雇われない働き方」「より幸福に暮らせる社会」を目指して仕事を辞めて香川県へ移住しました。これまでの知識を生かした森の案内ガイドをはじめ、地元や県内都市部に在住の人向けのツアーを行っています。まず地域住民が地元の資源で楽しめるツアーを作ることが大切だと思います。地元のジオと食などのつながりを知って知人に伝えることができた、地域経済の循環、他地域への旅ももっと楽しめるようになります。そのような働き方やサービスのあり方に興味を持つ人が担い手候補となれば、地域振興やジオの普及啓発にもつながります。まずは面白いジオツアーを作って、参加してもらうことが大切です。</p> <p>3 パネルディスカッション コーディネーター：和歌山大学教育学部 此松 昌彦 教授 パネリスト：①和歌山大学観光学部 出口 竜也 教授 ②森林インストラクター／讃岐ジオガイド 横山 昌太郎 ③南紀熊野ジオパークガイド 平松 美樹 ゲストハウス南紀くまのいえ管理人</p>
まとめ	<p>ジオパークと企業を比べた時、ジオパークには明確な顧客（ジオパークにとっては地域でお金を使ってくれる人）がないように感じます。ジオパーク（地域）にとって、良いお客さんはどういう人なのかをもっと考える必要があります。観光者と観光客は違う。観光者は観光する者を意味し、観光客は観光で地域にお金を使ってくれる客を意味しています。そして、ジオパークはもっと良い観光客（顧客）を増やすことを意識しないといけないのではないのでしょうか。</p> <p>ジオサイトなどを使って観光客を誘い、適度な数の人に来てもらって、お金を使ってもらい、口コミで人を増やしていきます。そこまでを含めて担い手の育成になります。「担い手」としてお金を使ってくれる顧客を育てる必要があります。例えばジオパークガイドもお客様あつてのガイドなので、担い手としての顧客を育成することが大事です。</p>

分科会 2-3	<b>【社会貢献（ユニバーサルデザイン）】</b> 大自然の驚異に立ち向かう人類 ～多様性とネットワークを活かしたリスク回避～
日時	10月5日（火）9:30～12:00
企画・運営	JGN 運営会議ユニバーサルデザイン（UD）ワーキンググループ
ファシリテーター	兵庫県立大学 大学院 地域資源マネジメント研究科 松原 典孝 講師 霧島ジオパーク・ユニバーサルデザインフォーラム 西島 昭治 ジオパークのユニバーサルデザインを考える会 丸橋 暁
概要	多様性を理解し、受け入れることで、様々なリスクを克服できます。特に、ジオパークは多様性を受け入れ活かす知恵が各地にあり、ネットワークを活用して共有することができます。その例としての島根の事業者の活動を共有し、それを元に、どのようなことが可能なのか議論しました。
内容	<p>1 問題提起</p> <p>地球は過去から現在、そして今後も常に活動し続け、様々な現象を生じさせます。この多様な地球活動に影響された結果、地球各地に多様な人や自然が存在します。また、今後新たなリスクが地球上に生じたときも、多様性に応じた多様な対策が各地でなされます。ジオパークネットワークによって各地がつながる現在では、この多様性を理解し、地球上のネットワークで知識と経験を共有することで、多様性を生かしたリスク回避が可能になります。ユニバーサルデザイン（UD）は、「多様な人たちがともに暮らすこと」を前提に、より一般的に、民族や文化、性、年齢、能力などの差異を問わず、利用できる生活環境をめざすものであり、そもそものバリアを取り払い、「みんな」が心地よく生活できる空間を作ろうとするものです。UDの視点をジオパークに取り入れることで、多様性を理解し、生かすことできる「地球と共生する持続可能な社会」を実現することができます。</p> <p>2 口頭発表</p> <p>①ジオパークのユニバーサルデザインを考える会 丸橋 暁 ジオパークにUDが必要なのは必然性があった</p> <p>②霧島ジオパーク・ユニバーサルデザインフォーラム 西島 昭治 五感で楽しむジオパーク</p> <p>③(有)なにわ旅館 勝谷 有史 代表取締役 IAUD 国際デザイン賞金賞を受賞した旅館づくり</p> <p>④特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい 田中 隆一 代表理事 松江／山陰バリアフリーツアーセンターの取り組み</p> <p>3 参加者との意見交換</p> <p>口頭発表で共有した事例を参考に、各ジオパークで、どのようなことが可能なのか、議論しました。議論の手順は以下のようになりました。</p> <p>①ブレイクアウトルームに割り振られた後、それぞれの班で班長を決める。</p> <p>②班長が司会者となり、まず、班員が、班内で自己紹介をしたうえで、今回の霧島および島根の事例について感想を述べる。班長はそれをメモする。</p> <p>③一周回ったら、班員が、次に、自分の地域で取り組んでいる事例とこんなことができるのではないかというアイデアを話す。それを班長がメモする。</p> <p>④この2ターンを行った後、メインに戻ってきてもらい、班長がどんな話がなされたのかチャットに書き込み、それを発表する。</p>
まとめ	4件の口頭発表のうち、前半2件はUDワーキンググループのメンバーが、後半2件は島根半島・宍道湖中海ジオパークの事業者が講演しました。丸橋氏は、ユニバーサルデザインで一番大切なことは「みんなの声を聞く」とし、人材活用ではなく人財活用、資源は磨かなければ宝にならない、地域にはいろんな人（人材）が居る、いろいろな人を巻き込んで『人財』になってもらおう!と訴えました。西島氏は、霧島ジオパークでの自身のUDツアーの事例を紹介し、「五感」を生かし、多様な地域の特徴を見出すことで、より魅力の高いジオツアーが提供できることを紹介しました。島根半島の事例では、勝谷氏より、UDを取り入れた旅館の経営について紹介があり、2世代で宿泊できる部屋やバリアフリー化した施設への改装の例やそれを行った結果、客の満足度が上がるとともに客単価と稼働率が上がり、売上向上につながったこと、バリアフリーによって従業員も働きやすい環境になり、従業員のホスピタリティも向上したことなどが共有されました。田中氏は、山陰バリアフリーツアーセンターの活動を紹介、多様な顧客へ対応できることやUDを取り入れて作成した観光パンフレットを発行していること、すでに島根半島・宍道湖中海ジオパークでUDツアーを試みていること、各地にあるバリアフリーツアーセンターなどの相談窓口と連携して、UDツアーが全国的に実施可能であることなどが共有されました。

事例を共有した後の参加者による議論では、全国のジオパークでの実践例などをもとに議論がなされ、特に、ジオパーク担当になる前に担当していた社会福祉分野での活動もそのままジオパークに活かせるという気付きや、事例に上がっていた、例えば客への配慮として行ったバリアフリーが、従業員が働きやすい環境づくりにつながったことへの共感が各参加者から出されました。さらに、口頭発表での事例共有を踏まえ、「みんなを意識し、多様な人の意見を取り込むことが大切である、それを生かすにはつながることが必要、ネットワークでそれができるはずである、それを、みんなで楽しみながらやりたい。また、防災・減災にもUDの視点が必要」との結論に達しました。

UDはジオパーク活動に必要という共通認識が参加者の中でなされ、また、各地にすでにUDに取り組む人や組織が多数存在することも把握できました。しかし、まだまだそれらが十分つながっていません。ジオパークにおけるUDの重要性については、今後とも各地で議論し、課題と展望を共有していきたい。

分科会 2-4	<b>【ネットワークの意義・活用（ジオパーク同士のネットワークづくり）】</b> ネットワークによる多様な連携
日時	10月5日（火）9:30～12:00
企画・運営	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会
ファシリテーター	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 長田 樹 事務局員 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 ヴォウォンセン・ヤゴダ 専門員 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 柴 ひかり 国際推進員
概要	本分科会ではジオパーク間の国際ネットワークを活用して推進的な事業に取り組んでいる4地域の事例を取り上げました。そして、それらの活動が地域にどのように貢献しているか、また、なぜジオパーク同士の関わりが大切なかを参加者と一緒に考えました。
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ファシリテーターによる課題提起</li> <li>2 推進的な取り組みを行う地域による事例発表 <ol style="list-style-type: none"> <li>①桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 柴 ひかり 国際推進員 『コロナ前・コロナ禍の国際ネットワーク活動について』</li> <li>②金沢大学 アイダ ママドワ 准教授 『白山手取川ジオパークおよび白山ユネスコエコパークのエリアをフィールドとした金沢大学の取り組み』</li> <li>③様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会 新井田 清信 学術顧問 『世界ジオパークかんらん岩ネットワークの経過と意義』</li> <li>④糸魚川ジオパーク協議会 ブラウン セオドア 事務局員 竹之内 耕 フォッサマグナミュージアム館長 『有意義な交流活動 糸魚川と香港の姉妹関係』</li> </ol> </li> <li>3 意見交換及びまとめ</li> </ol>
まとめ	<p>2日目の分科会では、ジオパークの国際ネットワークを推進的に活用し、事業に取り組んでいる地域に、それらの取り組みが地域にどのように影響をしているかを事例として紹介していただき、質疑応答、グループに分かれて意見交換を行いました。</p> <p>前日の発表事例や意見交換を通して、各地域内で様々なパートナーシップができていたことが確認できました。なお、全世界にジオパーク仲間がいるプログラムとして、もう一歩進んで、国際連携に取り組むと、乗り越えないといけない壁（予算、言語、文化の違い、役場の制度の違いなど）がある一方で、海外との連携をすることで、得られるメリットもあることを共有しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①視野が広がって、他ジオパークと経験を共有することで自分の地域を比較し、見直す、再発見することができる。</li> <li>②今の若い世代への効果を見ることができないこと。異文化への理解が深まり、子供たちの新しい気づきにつながる。</li> <li>③国際ネットワークを通して、世界中の科学者、住民の方々、仲間を見つけて、同じ目標に向けて一緒に活動することができる。</li> <li>④ユネスコは平和な世界の実現を目指している組織であり、ジオパークはそれに草の根交流のレベルで貢献できると思われる。</li> </ol> <p>最後に、いままでは現地交流の難しかった地域や年に数回しか出来なかった交流が、オンライン会議システムの普及により大人数での参加や、会の回数の増加など効率よく事業をすることが可能となりました。</p>

分科会 2-5	<b>【地域振興（ツーリズム）】ジオツーリズムと地域振興</b>
日時	10月5日（火）9:00～12:00
企画・運営	Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会
ファシリテーター	株式会社ジオ・ラボ 栗原 憲一 代表取締役社長
概要	<p>ジオツーリズムは、特に地質や景観に焦点をあてた自然エリアを訪れ、ツアー参加者の資源の保全への志向性を高める事業です。それはジオサイト（見学場所）への旅行、ジオ多様性の保全、鑑賞と学習を通じた地球科学への理解を促進させます。</p> <p>しかし、ジオパークでは、ジオサイトを守ることで地域を発展させる仕組みがきちんと構築されているのか？本分科会では、資源保護と地域経済の成長を両立させ、持続的な地域の経済的発展を促進する仕組みや課題について議論しました。</p> <p>なお、参加者は事前に「UNESCO Geopark, General presentation -English Version- Guy Martini and Asier Hilario（日本語テロップ付き）」を視聴し、参加することとしました。</p>
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ファシリテーターによる基調提起</li> <li>2 理論の共有 <ol style="list-style-type: none"> <li>①東北公益文科大学 新名 阿津子 准教授</li> <li>② Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会 小原 北士 事務局員</li> </ol> </li> <li>3 ファシリテーターによる目標の共有</li> <li>4 口頭発表 <ol style="list-style-type: none"> <li>① NPO 法人かなべ自然学校 前田 敦司 代表 楽しそう!から始まるガイドの手法</li> <li>②公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 藤本 泰文 研究員 伊豆沼の環境保全の取り組み</li> </ol> </li> <li>5 パネルディスカッション 参加者で各地域の事例を紹介し合い、ジオパークにおけるジオツーリズムのあり方について話し合う。</li> </ol>
まとめ	<p>ジオツーリズムは、地質遺産をはじめとする様々な遺産を保全するため、それらに対する人々の意識向上やメンテナンス、モニタリングといった活動としての一面ももちます。本分科会では、これらの活動をされているお2人に取り組みをご紹介いただいたのちに、参加者が各地域の事例を共有しながら、ジオパークだからこそできる活動について意見を出し合いました。参加者やパネリストからは、様々な遺産に付加価値をつけることができる、地域の特色を説明する手段であるといった意見が出ました。最後にファシリテーターが、地球の記憶の代弁者は地質遺産だけでなく、生物や人間もまたそうであり、ジオパーク活動は、これらの多様性を組み合わせた重層的な取り組みであることや、それらの遺産を保全するための科学的な活動指標の検討が必要であると、本分科会での議論を総括しました。</p>

#### アンケート結果について

参加後アンケート回答者の80%程度が分科会に満足しており、「他ジオパークの取り組みを知ることができたことや情報交換ができて良かった」、「グループ討議が面白かった」、「事例発表がどれも素晴らしかった」、「時間が足りなかった」、「事例紹介が多く、議論が少なかった」、「課題が明確でなかった」などの意見をいただきました。

10/5

オンライン

12:00 ~ 13:00

昼休憩（地元郷土芸能及び島根半島・宍道湖中海ジオパークPRアニメの動画 上映）

- 1 松江市島根町郷土芸能動画

① 潜戸太鼓

息吹  
船出



② 大漁節保存会

島根町音頭 傘踊り

- 2 島根半島・宍道湖中海ジオパークPRアニメ動画

「島根のジオパークが面白すぎて眠れない！」



アンケート結果について

参加後アンケート回答者の95.3%が満足しており、特に吉田くん動画は多くの高評価をいただきました。

10/5

オンライン

13:00 ~ 14:30

パネルディスカッション



ファシリテーター：NPO 法人桜島ミュージアム 福島 大輔 理事長（桜島・錦江湾ジオパーク）

パネリスト：各分科会のファシリテーター等

① 10/4 保全・保護分科会

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 川村 教一 教授  
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 佐野 恭平 助教

② 10/5 保全・保護分科会

糸魚川ジオパーク協議会 小河原 孝彦 学芸員

③ 10/4 担い手育成（学校教育）分科会

室戸ジオパーク推進協議会 中村 昭史 地理専門員

④ 10/5 担い手育成（地域住民）分科会

和歌山大学教育学部 此松 昌彦 教授

⑤ 10/4 社会貢献（防災）分科会

東北学院大学 目代 邦康 准教授

⑥ 10/5 社会貢献（ユニバーサルデザイン）分科会

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 松原 典孝 講師

⑦ 10/4 ネットワークの意義・活用（地域内のネットワークづくり）分科会

⑧ 10/5 ネットワークの意義・活用（ジオパーク同士のネットワークづくり）分科会

隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 長田 樹 事務局員

⑨ 10/5 地域振興（ツーリズム）分科会

株式会社 ジオ・ラボ 栗原 憲一 代表取締役社長

概要：これから 10 年のジオパーク活動について議論を深め、「今、なぜジオパーク？」に対する答えを導き出すためにパネルディスカッションを行いました。

各分科会報告を行った後、ファシリテーターは、「今、なぜジオパーク？」の答えを導き出すために、「今、なぜ「それ」をジオパークでやるのですか？」という視点でディスカッションを進められ、パネリストやファシリテーターからテーマごとに発言がありました。

「保全・保護」……………多様な主体が集まって話がしやすい。現状把握するのに期待できる。教育が大事である。ルールを一緒につくっていくというプロセスがあるからこそ守れるところがある。「つながり」を知ることで守りたくなる気持ちを育てる。

「学校教育」……………新学習指導要領の内容とジオパークが進めようとしていることは似ており、学校の先生が追いつけていないところで、ジオパークから学校に協力できるかもしれず、相乗効果が生まれるかもしれない。学校の先生が利用しやすい状況にしてジオパークを利用してもらえば良い。大地と人と自然の「つながり」を学ぶのがジオ教育である。

「担い手育成（地域住民）」… 地球レベルの「つながり」と紐づけた付加価値の高い資源として利用できる。

「防災」……………これまでの防災が対処療法であったとすれば、ジオパークは漢方療法で、自然のことをよく知ること自分たちがどう生きていくかを つなげていくことができる。防災教育は自然（つながり）を知ることである。

「ユニバーサルデザイン」……………多様な人たちが関わるからこそ、多様な人たちが関わりやすい仕組みをつくっていくユニバーサルデザインは、ジオパークでは取り組みやすいかもしれない。SDGs の理念に沿って「世界はつながっている」そして「私も起点」である。

「ネットワーク」……………小さな団体や地域より、多くの団体等が集まることでできることがある。海外とつながる機会が少ない地方が、交流を広げることができ、その先には視野が広がり、友達ができることで世界平和にもつながる。ネットワーク（つながり）は視野を広げる、多様な視点をもつことができる。

「ツーリズム」……………地球の記憶を伝える、大地と人と自然のつながりという心、軸があれば良い。ストーリー性や全体性が重要である。

最後に、ファシリテーターから、「今、なぜジオパーク？」につながるまとめが示されました。

私たちは、地形・地質や生態系、社会、経済が相互に依存し合った世界で暮らしている。このダイナミックで複雑な「つながり」が地球規模で相互に依存し合っているにも関わらず、我々は概して地域レベル、組織レベルの意識で行動していることが多い。

ジオパークは、地球レベルの「つながり」を意識し、地球の保全・教育・持続可能な開発を一体的に取り扱う活動である。これまでの仕組みや枠組みを超え、地球レベルの「つながり」の視点で私たちの暮らしと環境を豊かにするチャレンジである。

#### アンケート結果について

参加後アンケート回答者の 78.6% が満足しており、「福島大輔さんのファシリテーションが素晴らしかった」、「各分科会の要点が聞けて良かった」、「活発にコメントがあり、有意義な場となっていた」、「時間が短かった」などの意見をいただきました。

14:30～15:00

## 閉会式

## 1 大会宣言

第11回日本ジオパーク全国大会

島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 実行委員長

**上定 昭仁**（島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会 会長、島根県松江市長）

## 2 次回開催地あいさつ

白山手取川ジオパーク推進協議会 会長

**山田 憲昭**（石川県 白山市長）

## 3 閉会あいさつ

第11回日本ジオパーク全国大会

島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 副実行委員長

**飯塚 俊之**（島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会 副会長、島根県出雲市長）

## アンケート結果について

閉会式に参加後アンケート回答者の91.3%が満足しており、「スムーズな進行だった」、「松江市長の挨拶が良かった」、「オンラインの可能性を感じた」などの意見をいただきました。

参加後アンケート回答者の90.5%が大会宣言は適切であると回答しており、「これからのジオパークのあり方に示唆を与える宣言だった」、「島根半島・宍道湖中海ならではの内容も含まれており良いと思った」、「コロナ禍の時代に沿った宣言になっている」、「包括的にまとめているが、具体的に今大会の成果として新たに盛り込まれた内容が含まれておらず、実際の活動推進に生かせない」などの意見をいただきました。

# 大会宣言

ここ出雲地方では、旧暦10月を「神在月（かみありづき）」と呼ぶ。全国の神々が縁結びのために集う「神在月」に、そして、私たちが初めて直面するコロナ禍という世界的な危機にあって、第11回日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会を、オンラインを駆使して開催し、無事に「集う」ことができたのは、私たちの励みとなり大きな自信となった。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常を一変させ、様々な社会問題を引き起こすとともに、気候変動に伴う自然災害の局地化・激甚化により、各地で未曾有の被害が発生しており、国民生活への影響は計り知れない。

また、世界が一体となって取り組むべき持続可能な社会の形成や自然環境の保全、気候変動への対応など、常にグローバルな感覚・視点を持って施策を講じることが求められている。

一方で、コロナ禍や大規模災害を経ることで、テレワークやワーケーションの普及が促され、移住やUIターンの機運が高まっていると同時に、地域の魅力を再発見し愛着を深める好機となっている。

時代が大きく変貌を遂げようとする今、地球、自然、人間の原点にあると言えるジオパークの意義について改めて確認し、これからのジオパーク活動について論じ合えたことは極めて有益であった。

市町村長セッションでは、コロナ時代のジオパーク活動や地域振興のあり方、活動に必要な財源や推進体制などについて議論を交わした。また、各分科会では、海ごみ問題や湿地における保全活動、ジオパークならではの目指すべき教育のあり方、ステークホルダーとしての地元企業を巻き込んだ持続できる地域経済の構築、地域団体・住民との連携やジオパークの国際ネットワークを生かした活動、災害体験の伝承等を通じたジオパークによる防災・減災などについて議論し、今後のジオパーク活動における方向性を示すことができた。

ジオパークは、世界が抱える多様な課題に積極果敢に取り組むことのできるプログラムである。私たちは、今大会を通じて、その課題解決のために、地球とのつながりを意識したうえで、地域の住民、団体、企業、行政の参画を促し連携して活動することの大切さや、各ジオパークとの交流によって得られた「ご縁」を活かし、ジオパーク同士のネットワークを充実強化することの重要性について確認した。

これらを踏まえ、ジオパーク活動のより一層の進展によって、地方創生を推進し、持続可能な地域社会を実現することを、ここに宣言する。

令和3年10月5日

第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会

実行委員長 島根県松江市長

上 是 昭 仁





## ホームページ掲載

### ポスターセッション

8つのテーマと小中高生、大学生発表を設定し、延べ75作品のポスターデータまたは動画の提出があり、大会ホームページで閲覧できるようにしました。

参加後アンケート回答者の91.3%が満足しており、「時間を気にせずにじっくりポスターを見ることができた」などの意見をいただきました。

#### ①活動事例（保全・保護）

	タイトル	氏名・所属	内容
1	下北ジオパークにおける保全モニタリングの取り組み	石川 智 [下北ジオパーク推進協議会]	下北ジオパークでは、地域資源の保全を目的に下北ジオパーク保全管理計画を策定し、定期的なモニタリングを実施することを定めている。モニタリングの手法と従事予定者を対象に開催した勉強会について紹介する。
2	北海道旭川市神居古潭峡谷の奇岩「魔神の頭」の流木撤去作業と今後の展望	岩出 昌 [大雪山カムイミナラジオパーク構想推進協議会]	近年の豪雨により被害をうけていた、アイヌ伝承にまつわる奇岩「魔神の頭」の流木撤去作業が実現した。これを機に、伝承や奇岩の認知度拡大と教育・観光分野での活用を、継続した保全の取り組みと併せて進めたい。
3	里山ジオツアーの勧め	大井 信三 [筑波山地域ジオパーク推進協議会]	筑波山地域の「里山」は山地と平野との境にあって、緩やかな丘陵や上位台地が高原のような空間を作っている。この里山の癒される空間と景観が訪問者に心地よさをもたらしている。
4	ジオパーク秩父におけるサイト保全方針～天然記念物保存活用計画とジオパーク保全計画の策定に向けて～	肥沼 隆弘 [秩父まるとジオパーク推進協議会]	ジオパーク秩父では、「ジオサイトの選定と保全・活用方針の明確化」が重要課題として指摘されている。今回は、令和2年3月に策定された天然記念物保存活用計画とジオパークの保全計画策定の進捗について報告する。
5	伊吹小・中学校ジオサイト学習の取り組み	篠原 五良 [観音寺市立伊吹小学校(讃岐ジオパーク構想推進準備委員会)]	伊吹小・中学校の児童・生徒12名は2017年度からジオサイト学習に取り組んでいる。本年度は「伊吹島はなぜイリコの島になったのか」を課題に、イリコ産業、職住分離の生活について勉強している。
6	ゆざわジオパークを対象とした環境DNAの調査	高柳 春希 [湯沢市ジオパーク推進協議会]	保全を大切にしているジオパークにおいて、サイトに生息する動植物を明らかにすることは重要だが、調査には多くの労力がかかるため、難しいのが現状である。この課題を克服するため、環境DNAに着目する。
7	島根半島・宍道湖中海ジオパーク～学生から見た4年間～	佐々木 聡史 [島根大学大学院 総合理工学研究所]	島根半島・宍道湖中海ジオパークは2017年12月22日に日本ジオパークに認定された。学生の立場から認定前と認定後の変化を報告し、今後のジオパーク発展のため改善点等を議論したい。

#### ②活動事例（担い手育成）

	タイトル	氏名・所属	内容
1	白山手取川ジオパークを未来へ！～価値発信と持続可能性～	秋田 ひなた、板谷 莉里、小西 菜穂、田島 汰一、本谷 羽菜 [石川県立鶴来高等学校]	石川県立鶴来高等学校は、ジオパークフィールドワークや手取川歩行などジオパークを肌で学ぶ学習活動に取り組んでいる。本発表では白山手取川ジオパークの持続可能性と価値発信のあり方を高校生の視点から発表する。
2	SUGAO GEO プロジェクト	大分県豊後大野市立菅尾小学校6年生 [大分県豊後大野市立菅尾小学校]	私たちが描く豊後大野の未来「にぎやかな笑い声と笑顔あふれる町豊後大野」を創るために何ができるのか。この未来を実現するために取り組んでいるSUGAO GEOプロジェクトを紹介する。
3	地元山岳会と共働したジオトレイルの魅力発信～糸魚川ジオパーク梅海新道の例～	香取 拓馬 [糸魚川ジオパーク協議会]	登山道管理の担い手を育成するため、地元山岳会と共働した特別展・野外イベントなどを開催した。その成果として、子どもたちが山の魅力に触れる機会を創出し、官民連携の新たなネットワークの構築に繋がった。
4	下北ジオパークにおける課題研究の取り組み	二本柳若菜、中村 琴、今美 実 [青森県立大湊高等学校]	私たちは下北ジオパークに関する課題研究に取り組んでいます。その中で、講演会の実施や全国ジオパークと下北ジオパークの調査と報告書の作成を行い、ジオパークを活性化させるための問題点や改善点を考えた。
5	宿泊型体験学習「しもきたジオキャンプ」の取り組み	北川 桐香 [下北ジオパーク推進協議会]	学習やアクティビティを通して、楽しみながら地域の魅力を学ぶ1泊2日の宿泊型体験学習「しもきたジオキャンプ」の目的と、実施したプログラムについて紹介する。
6	ガイドによる情報発信	小島 隆夫 [苗場山麓ジオパーク振興協議会]	ガイドの活動は、地域住民へのジオパークの啓発活動に大きく貢献している。特に、ガイドの役員による活躍は顕著である。ここでは、ガイドが主になって企画し実践した数例を紹介する。
7	カードゲームを使った中高生向けSDGs 出前授業	小長谷 誠、藤原 勇樹 [山陰海岸ジオパーク推進協議会]	ジオパークエリアの中学校・高校でSDGs 出前授業を実施している。ゲームを楽しみながらSDGsの本質に気づくことができ好評である。授業のまとめにジオパークが取り組む海洋プラスチック問題を紹介している。
8	ジオパーク活動は地域のSDGsの担い手育成につながる！	高田 正澄 [筑波山地域ジオパーク推進協議会]	ジオパークとSDGsは、ユネスコが推進している国際的なプログラムである。参加者が、単に知識を得る場ではなく、実際に体験して感じる・考える・そしてそれらをお互いに共有するジオパーク活動の事例を紹介する。
9	2020年度の島根大学ジオパークプロジェクトセンターの取り組みについて	辻本 彰、入月 俊明、会下 和宏、大平 寛人、瀬戸 浩二、松本 一郎、ジオパークプロジェクトセンター教員一同 [島根大学 ジオパークプロジェクトセンター]	本センターでは、島根県の2つのジオパークエリアにおける研究を推進し、大学でのジオパーク学の授業の実施や成果の地域への還元を行っている。本発表では、主に2020年度に行った取り組みについて報告する。
10	讃岐ジオパーク構想の人材育成について	鶴田 聖子 [讃岐ジオパーク構想推進準備委員会]	香川大学公開講座では2016年度からジオガイドを養成し2019年度から「讃岐ジオガイドによる讃岐ジオサイト探訪」を開始した。またジオガイドが中心になって「讃岐ジオパーク構想推進準備委員会」を立ち上げた。

11	10年間の教育活動の成果を分析する	中野 加織里 〔白山手取川ジオパーク推進協議会〕	当協議会が発足してから10年の中で教育活動に力を入れて取り組み、子供から大人まで幅広い世代を対象に様々な活動を行ってきた。今回はエリア内中学生・教員を対象としたアンケートを実施し、活動の成果を分析した。
12	私たちにできること -地震災害から命を守るために-	林 愛美、谷口 優奈 〔高知県立室戸高等学校〕	数学の授業を活用し、地震津波発生時にあらゆる世代、あらゆる条件の方が安全に避難するために、データを用いて分析し、実地調査を行った。実地調査結果は室戸市防災対策課に共有し、次の研究課題も示した。
13	生徒と考えたい!地球の気もち ~専門員と学ぶ大地と人のイイ関係~	藤田 尚子 〔萩ジオパーク推進協議会〕	萩ジオパークでの専門員による出前授業の魅力を伝えたい。
14	白山手取川ジオパーク学習支援員の活動	餅田 修一、脇坂 弘明、橋本 登志雄、 古河 尚訓、普照 豊 〔白山手取川ジオパーク推進協議会〕	ジオパーク学習支援員は退職教員で構成され、小中学生のジオ遠足ばかりでなくエリア内の豊かな自然やそこで育まれた生活・文化のつながりを、地域学習に活かせるようにボランティアで活動している。

### ③活動事例（社会貢献：防災等）

	タイトル	氏名・所属	内容
1	コロナ禍におけるジオツーリズム・教育旅行の取り組み	下村 圭、荒井 康輔、 菅谷 琴乃、植家 祐慈、松原 凧沙 〔三笠ジオパーク推進協議会〕	コロナ禍において、過去最大の入込数を記録したことの検証と感染防止対策、オンラインツアー等の取り組みなど今後の課題を提示し、長期化が予想される with/after コロナ時代の展望を発表する。
2	自然災害伝承の活用 -男鹿半島・大潟ジオパークの例-	高尾 実可子、渡部 公成、竹内 弘和 〔男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会〕	当地域には自然災害伝承碑が6基あり、防災・減災教育、ジオツアーに活用している。自然災害伝承碑の情報を整理するガイドの会のワーキンググループの活動、自然災害伝承碑をガイドした事例などを紹介する。
3	十勝岳ジオパーク構想における火山防災	中村 有吾 〔十勝岳ジオパーク推進協議会〕	十勝岳ジオパーク構想は、北海道美瑛町および上富良野町をエリアとし、両町の境界には活火山・十勝岳が存在する。当 Gp 構想では、防災を中心とした活火山との共生が、自然・文化の基盤となっている。
4	私たちのまわりの土砂災害を防ぐために	奈良井 舜、石丸 真緒、市後崎 敬太、今村 祐実、 萩野 陽、黒田 ゆいか、多田 遼太郎、 馬庭 海斗、三上 航平、矢野 舜也 〔松江市立第二中学校〕	島根県は全国でも有数の土砂災害多発地域である。土砂災害は、土石流、がけ崩れ、地すべりの3つに分けられる。本研究は、それぞれの土砂災害を防ぐための工夫について調べて、まとめたものである。

### ④活動事例（ネットワークの意義・活用）

	タイトル	氏名・所属	内容
1	全国のジオパークパンフレット 持ち帰り数の調査	荒関 智彦 〔男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会〕	令和元年の5月の10連休の間、男鹿半島・大潟ジオパークエリア内の拠点施設にて全国のジオパークのパンフレットの平置きコーナーを設置。お客さんによるパンフレット持ち帰り数の推移を調査した。
2	ジオパークってなに?っていう人への アプローチについて	王生 透 〔(一社)立山黒部ジオパーク協会〕	ジオパークの裾野を広げるために行った、飲食店で食事しながら地域の話話を語らうジオカフェ、女性目線で楽しむ「女子旅行計画中」ポスターの制作、SNSでの「#立山黒部に来られ」キャンペーン等について報告する。
3	島原半島ユネスコ世界ジオパークにおける “火山 funfan プロジェクト”の取り組み	倉林 実央 〔島原市地域おこし協力隊〕	火山に興味を持ち、いずれは火山研究者を志す子供達を増やす為、火山に親しみ、楽しむことを目的としたプロジェクト。火山と食を同時に楽しむメニューの開発や、火山女子ネットワークの構築などの取り組みについて。
4	大嶺炭田資料活用に関する産・官・学・ 民の協同作業の成果と副産物	檜崎 知行 〔Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会〕	宇部興産の関係会社には、百年に及ぶ大嶺炭田の資料が、企業の枠組みを越えて残されている。それを電子化するための、企業、ジオパーク事務局、大学の研究者、地元住民の協同を、ガイドの立場から報告する。

### ⑤活動事例（地域振興）

	タイトル	氏名・所属	内容
1	水をテーマに考える自然保護と自然活用	池部 莉央、熊野 舞桜、品川 葵 〔山口県美祿市立秋芳中学校〕	「水」をテーマに地元や日本の他地域、世界の水との付き合い方を学んだ。学習から得た知見を基に、地元秋芳洞の植生問題や世界の水問題について、その解決策を議論し考えた。
2	ジオパークガイドで有名観光地をより深く楽しく! -JR西日本『WEST EXPRESS 銀河』における『橋杭岩』ガイドの取り組み事例-	芝崎 浩子 〔南紀熊野ジオパークガイドの会〕	JR西日本の特別列車『WEST EXPRESS 銀河』紀南コースにおけるジオサイト『橋杭岩』観光、そこでジオパークガイドと地域行政、周辺の民間業者が一体となって取り組む『おもてなし』について紹介する。
3	ジオパーク拠点施設の来館者の傾向と 今後の運営課題	土佐清水市市立公園*ジオパーク推進課 〔土佐清水ジオパーク推進協議会〕	2020年3月に開館した足摺宇和海国立公園国立公園電車ビジターセンターは、土佐清水ジオパーク構想地域の拠点施設としての役割も持つ。当施設の来館者の推移や傾向を分析し、より効果的な拠点施設運営について考察する。
4	ジオパークにおける健康ウォーキングの可能性 伊豆半島の松崎町雲見地区での事例	永井 結登 〔静岡大学〕	松崎町雲見地区でジオ、温泉、ウォーキングを組み合わせたツアーを企画した。少子高齢化が進み、住民の健康問題も重要視されている中で、ジオサイトを巡りながら健康増進に努める取り組みになっている。

⑥最近の学術研究成果（ジオ、エコ、ヒト、融合研究）

	タイトル	氏名・所属	内容
1	山陰海岸ジオパークにおける専門家を招聘した海洋生物相調査	太田（小矢野）悠造 [鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館]	山陰海岸ジオパーク西部（鳥取県）では、年々海のアクティビティが盛んに行われ、海洋生物に触れる機会が増加しているが、海洋生物調査がほとんど行われてこなかった。発表者は専門家を招聘し、生物相調査を行った。
2	出雲地方の化石	片寄 太耀 [島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程]	僕は毎年自由研究で化石の研究をしています。より化石が生きていた当時の環境を知るために、出雲市、松江市の8ヶ所で化石を採集し現生種を調べたりして当時の環境を考え、島根県東部の地図を作り直しました。
3	出雲市西部の中新統大森層に記録された堆積環境の変化	酒井 哲弥 [島根大学総合理工学部]	出雲市西部の中新統大森層（水中火山活動に伴う堆積岩、陸上で噴いた安山岩やデーサイト溶岩、川や海で堆積した礫岩や砂岩）に記録された堆積環境の変化と、その時代に起きた反転テクトニクスとの関係を議論します。
4	島根県東部宍道湖における斐伊川東流とそれ以降の環境変遷	瀬戸 浩二 [島根大学 エスチュアリー研究センター]	宍道湖は現在、低塩汽水湖であるが、それは斐伊川東流イベントによってもたらされたと考えられている。その年代はほぼ定説化されていたが植物片の年代測定によって約350年程度古くなることが明らかとなった。
5	島根半島沿岸における熱帯性大型有孔虫の定着実態	仲山 暢 [島根大学、自然科学研究科、環境システム科学専攻]	熱帯性大型有孔虫アンフィステジナ属の日本海沿岸における多産限界である島根半島沿岸で、潜水による有孔虫の定点調査を実施した。その結果、冬季においても小型個体が産出したため、定着していることが示唆される。
6	シジミにおけるマイクロプラスチックの摂取量とアミノ酸への影響調査	野田 美空 [松江工業高等専門学校]	宍道湖は、多くのシジミが採取できることから日本でも有数のシジミの産地である。そこで、本研究では、シジミによるマイクロプラスチック取得量と摂取によるアミノ酸量変化について調査した。
7	島根半島・宍道湖中海ジオパークにおける中新世魚鱗化石について	濱田 真実 [島根大学]	本研究では島根県下部～中部中新統の成相寺層、川合～久利層が分布する9地域において新たに魚鱗化石が産出した。また、これまで分類学的研究が全く行われていなかった魚鱗化石を8つの分類群にタイプ分けした。
8	阿蘇ジオパーク 阿蘇湧水群の電気伝導度と地域の関わり	藤原 慎之介 [熊本県立高森高等学校・阿蘇ジオパーク推進協議会]	我々は水と地域との関連性を見つけることを目的として、11か所の水源と7か所の温泉水について電気伝導度とpHの測定を行った。その結果、阿蘇の湧水には、二種類の系統の水が存在していることが分かった。
9	「防災科研 地震だねっ!」「防災科研 揺れてるねっ!」の展開と活用、地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学5:『ジオパーク』×『活断層』&地震学会秋季大会ジオパークオンライン巡検	松原 誠 [防災科学技術研究所/地震学会ジオパーク支援委員会]	地震学会ジオパーク支援委員会が開催する地震学習会や秋季大会ジオパーク巡検へのお誘いと共に、「防災科研 地震だねっ!」「防災科研 揺れてるねっ!」を紹介し、地震のデータのジオパークでの活用を探る。
10	島原半島ユネスコ世界ジオパークにおけるユニバーサルデザイン・ジオツアーの整備検討	山口 弘幸 [鎮西学院大学]	島原半島地域の観光振興とユニバーサルツーリズムの推進を目的に、ユニバーサルデザイン・ジオツアーの企画開発の検討を行った。調査結果を踏まえた情報整備のあり方やコース設置の検討課題等について報告する。
11	島原半島ユネスコ世界ジオパークにおけるユニバーサルツーリズム研修と検討課題	山口 弘幸 [鎮西学院大学]	ユニバーサルデザイン・ジオツアーにおける対応力向上を目的に、他地域のジオパークと連携した認定ジオガイドへの企画研修を実施した。研修の実際やアンケート調査の結果を踏まえた検討課題等について報告する。
12	南紀熊野ジオパークにおけるユニバーサルデザイン・ジオツアーの整備検討	山口 弘幸 [鎮西学院大学]	南紀熊野ジオパークのユニバーサルデザイン化の推進を目的に、ユニバーサルデザイン・ジオツアーの企画開発の検討を行った。調査結果を踏まえた推進に向けた課題や対応力向上の方向性について報告する。
13	鹿児島県始良市のジオストーリー 帖佐鍋倉の鋼山製鉄業について	吉瀬 毅 [桜島・錦江湾ジオパーク]	桜島・錦江湾ジオパークは、2021年にエリアが拡大した。この新しいエリアで、錦江湾奥地域全体を物語るジオストーリーが出来上がった。本発表では、新しく加わったジオストーリーについて紹介する。

⑦ジオパークにある神話・伝説を科学の目で見て語ってみよう

	タイトル	氏名・所属	内容
1	古代における銚子周辺の重要性と海跡湖「榑海」にまつわる伝説について	岩本 直哉 [銚子ジオパーク推進協議会]	古代の銚子周辺は、ヤマト王権にとり重要な地域だった。銚子の猿田神社では海跡湖「榑海」と下総国・上総国の名前の由来にまつわる伝説があり、銚子周辺での中央政権の勢力確立が元になっている可能性がある。
2	古志の八岐大蛇は、越の国の自然現象? 地元の古い文献を科学的視点で読み返してみよう	荻野 慎諧 [恐竜渓谷ふくい勝山]	現代型の科学以前の自然現象は、ときとして怪異現象として記録されている。怪異の科学的視点からの再検討は、地史に興味を持つきっかけともなりうる。一例として、出雲と関りが深い八岐大蛇について再考してみた。
3	『鷲峰山と大山の背比べ』を地球科学的に検討してみた	金山 恭子 [鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館]	鷲峰山は鳥取県鳥取市のシンボリックな山です。この地域には鷲峰山(920m)と大山(1729m)が背比べしたという伝説がいくつか残っている。このお話を地球科学の視点から見てみたいと思う。
4	広澤寺とその境内にある乳神大イチョウについて	高柳 春希 [湯沢市ジオパーク推進協議会]	火山性ガスの噴出する川原毛地獄は、灰白色に化した大地への畏怖を基とする信仰心だけでなく、信仰の中で植樹されたイチョウから派生する乳信仰も生んだ。こうした大地をもとに築かれた信仰について詳説する。
5	豊岡盆地とアメノヒボコ伝説	成田 浩一、中嶋 亮 [豊岡市環境経済部大交流課]	5千年前に海だった豊岡盆地は、弥生海退により陸地になったが、水害が多く人が住めない土地だった。それが現在では人もコウノトリも住めるまちなったことに、「アメノヒボコ伝説」が関係しているのかもしれない。
6	Geomorphology（地球神話）をジオパークに活かすための背景 ～地域の地球神話を科学的に深め、地域に合ったプログラム作りをしよう～	野村 律夫 [島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会]	神話は非論理的・非科学的なものといえることが多い。しかし、現在、「Geomorphology」は、地球科学の学際的研究対象として、ジオサイトの保全、防災教育やジオツーリズムへとジオパーク活動の主要なテーマになりつつある。
7	地球神話でみる島根半島・大船山の謎ーなぜ、水の神が生まれ坐す山となったのかー	野村 律夫 [島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会]	島根半島中央部の標高327mの大船山は、神名樋山とよばれ、神の宿る山であった。この山に鎮座する水の神の伝承について、地球神話学の観点に従って、神が宿ると古代の人々が考えた背景を地質学的に考察した。

8	浅間山夜分大焼之図は史実を誇張したものか	古川 広樹 [浅間山ジオパーク推進協議会 事務局]	天明三年浅間山噴火の様子を記録した「浅間山夜分大焼之図」には、火口から巨大な火柱を上げる浅間山の姿が描かれている。実際にこのような噴火が浅間山で起こったのだろうか。火口周辺の地形から考察する。
9	白山手取川ジオパークに伝わる伝説	メイ・スザン、近藤 敦子 [白山手取川ジオパーク推進協議会]	白山手取川ジオパークでは、活動開始当初より、伝説や民話などをジオパークのストーリーに関連づけながら伝えてきた。今回は、その中からいくつかを、伝説・民話の原文と現在の視点による解釈について紹介する。
10	おおいた豊後大野ジオパークにおける伝説と水害	吉岡 敏和 [おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会]	おおいた豊後大野ジオパークには数多くの伝説が伝えられているが、そのうちのいくつかは水害や河川の流れといった自然現象を表現したものであることが示唆される。そのような事例を2例紹介する。
11	ジオパークと神話の世界	小河原 孝彦、小林 猛生 [糸魚川ジオパーク協議会]	「世界最古のヒスイ文化発祥地」と呼ばれる糸魚川ジオパーク。神話の時代、ヒスイを身に付けて国々を治めた奴奈川姫、姫にプロポーズした大国主命、そして息子の建御名方命まつわる伝説をひも解く。
12	巨人が山を射抜いた穴 -妙義山・星穴伝説-	関谷 友彦 [ジオパーク下仁田協議会]	妙義山は丘陵地の中に落差 700m の絶壁が聳える、国の名勝である。この絶壁の中腹に、穴が開いており、この穴は昔、矢で射抜かれたという伝説が地域に残されている。

## ⑧その他

	タイトル	氏名・所属	内容
1	五島列島ジオパークチャンネル -その人気に隠されたヒミツ-	岩田 晃一 [五島列島ジオパーク推進協議会]	五島列島ジオパーク推進協議会（長崎県五島市）では、ジオパーク活動の一環として、2020年6月に、YouTube「五島列島ジオパークチャンネル」を開設し、月に1回のペースで動画を投稿している。
2	東三河ジオパーク構想におけるジオサイト調査	加藤 千茶子 [東三河ジオパーク構想推進準備会]	行政職をまきこみジオサイトの現況調査を行った。今回で2回目となるが、継続することで、保全保護や利用整備の基礎データを定期的に取得し活用する仕組みづくりにつなげたい。
3	土佐清水ジオパーク構想の可視化の変遷とこれからのジオパークの空間づくり	作田 愛佳 [土佐清水ジオパーク推進協議会]	2014年よりジオパーク活動を開始してから認定を目指す過程で作成した視覚資料を整理し、ジオパークの伝え方の変遷をたどり、ジオパークとして目指すべき情報の伝え方や空間の作り方について提案する。
4	コロナ禍における地域説明会についての報告	関根 吉則 [佐渡ジオパーク推進協議会]	コロナ禍で人を集める従来型の地域説明会を行うことができなくなったため、その代わりに佐渡ジオパークの見どころを紹介するテレビ番組の放送を開始した。その結果、新たなジオパークファンを獲得することができた。
5	「世界ジオパークを目指している、けど…」 な話	中川 孝典 [Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会]	目指すは世界ジオパーク!なのに…地質は分からない?英語は苦手?ガイドラインは目が滑る?ジオの間に病んでも止むに止まれぬ世界ジオ。それでも頑張る私たち。
6	ジオガイドが語る縄文遺跡	高橋 晃 [三陸ジオパーク(認定ガイド)]	2021年世界文化遺産に登録された三陸ジオパークのジオサイトは川遺跡を例に、縄文文化をストーリー性と他遺跡での活用を考慮し、気候変動と植生変化、海進・海退、火山噴火、災害の視点で語る試みをした。

## ⑨小中高生、大学生発表

	タイトル	氏名・所属	内容
1	島根半島・宍道湖中海ジオパーク ~学生から見た4年間~	佐々木 聡史 [島根大学大学院 総合理工学研究科]	島根半島・宍道湖中海ジオパークは2017年12月22日に日本ジオパークに認定されました。学生の立場から認定前と認定後の変化を報告し、今後のジオパーク発展のため改善点等を議論したい。
2	白山手取川ジオパークを未来へ! ~価値発信と持続可能性~	秋田 ひなた、板谷 莉里、小西 菜穂、 田島 汰一、本谷 羽菜 [石川県立鶴来高等学校]	石川県立鶴来高等学校は、ジオパークフィールドワークや手取川歩行などジオパークを肌で学ぶ学習活動に取り組んでいる。本発表では白山手取川ジオパークの持続可能性と価値発信のあり方を高校生の視点から発表する。
3	下北ジオパークにおける課題研究の取り組み	二本柳 若菜、中村 琴、今美 実 [青森県立大湊高等学校]	私たちは下北ジオパークに関する課題研究に取り組んでいる。その中で、講演会の実施や全国ジオパークと下北ジオパークの調査と報告書の作成を行い、ジオパークを活性化させるための問題点や改善点を考えた。
4	私たちにできること -地震災害から命を守るために-	林 愛美、谷口 優奈 [高知県立室戸高等学校]	数学の授業を活用し、地震津波発生時にあらゆる世代、あらゆる条件の方が安全に避難するために、データを用いて分析し、実地調査を行った。実地調査結果は室戸市防災対策課に共有し、次の研究課題も示した。
5	私たちのまわりの土砂災害を防ぐために	奈良井 舜、石丸 真緒、市後崎 敬太、今村 祐実、 荻野 陽、黒田 ゆいか、多田 遼太郎、 馬庭 海斗、三上 航平、矢野 舜也 [松江市立第二中学校]	島根県は全国でも有数の土砂災害多発地域である。土砂災害は、土石流、がけ崩れ、地すべりの3つに分けられる。本研究は、それぞれの土砂災害を防ぐための工夫について調べ、まとめたものである。
6	水をテーマに考える自然保護と自然活用	池部 莉央、熊野 舞桜、品川 葵 [山口県美祢市立秋芳中学校]	「水」をテーマに地元や日本の他地域、世界の水との付き合い方を学んだ。学習から得た知見を基に、地元秋芳洞の植生問題や世界の水問題について、その解決策を議論し考えた。
7	ジオパークにおける健康ウォーキングの可能性 伊豆半島の松崎町雲見地区での事例	永井 結登 [静岡大学]	松崎町雲見地区でジオ、温泉、ウォーキングを組み合わせたツアーを企画した。少子高齢化が進み、住民の健康問題も重要視されている中で、ジオサイトを巡りながら健康増進に努める取り組みになっている。
8	出雲地方の化石	片寄 太輝 [島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程]	僕は毎年自由研究で化石の研究をしている。より化石が生きていた当時の環境を知るために、出雲市 松江市の8ヶ所で化石を採集し現生種を調べたりして当時の環境を考え、島根県東部の地図を作った。
9	シジミにおけるマイクロプラスチックの 摂取量とアミノ酸への影響調査	野田 美空 [松江工業高等専門学校]	宍道湖は、多くのシジミが採取できることから日本でも有数のシジミの産地である。そこで、本研究では、シジミによるマイクロプラスチック取得量と摂取によるアミノ酸変化について調査した。
10	島根半島・宍道湖中海ジオパークにおける 中新世魚鱗化石について	濱田 真実 [島根大学]	本研究では島根県下部~中部中新統の成相寺層、川合~久利層が分布する9地域において新たに魚鱗化石が産出した。また、これまで分類学的研究が全く行われていなかった魚鱗化石を8つの分類群にタイプ分けした。
11	阿蘇ジオパーク 阿蘇湧水群の電気伝導度 と地域の関わり	藤原 慎之介 [熊本県立高森高等学校・ 阿蘇ジオパーク推進協議会]	我々は水と地域との関連性を見つけることを目的として、11か所の水源と7か所の湧水について電気伝導度とpHの測定を行った。その結果、阿蘇の湧水には、二種類の系統の水が存在していることが分かった。

## ホームページ掲載

### 展示ブース

くにびきメッセ会場での展示ブース出展を募ったところ、8団体から申込みがありましたが、オンライン開催へ変更したことに伴い、中止しました。希望する団体は大会ホームページに動画やPDFデータを掲出しました。

参加後アンケート回答者の84.4%が満足と回答しました。

	所属	ブース名	会場での出展内容	大会ホームページにデータ掲出
1	中国四国地方環境事務所 大山隠岐国立公園管理官事務所	国立公園とジオパーク連携 ～未来へとつづく大地のために～	ジオパークと国立公園の連携に関するパネル展示	○
2	北海道地図株式会社	北海道地図株式会社、 株式会社ジオ・ラボ	JGNの協賛会員として、日本全国のジオパーク活動でご活用いただいている製品・サービスを紹介（下記は一例）。 ●テレプレゼンスシステム「GICS」 遠隔地を結びつつ、あたかも同じ空間にいるかのような自然なコミュニケーションを実現する映像通信装置です。三笠ジオパークの中学生が、このシステムで隠岐ユネスコ世界ジオパークの専門員から講義を受けました。 ●デジタルサイネージ 隠岐ユネスコ世界ジオパークで導入されているもので、隠岐のサイトはもちろん、日本全国・世界のジオパークが紹介されています。	○
3	阿蘇ジオパーク推進協議会事務局	阿蘇ユネスコ世界ジオパーク	阿蘇ジオパーク関係のパンフレット、ポスター、教育活動に関するDVD放映	
4	糸魚川ジオパーク協議会事務局 (糸魚川市商工観光課ジオパーク推進室)	糸魚川ユネスコ世界ジオパーク	・ポスター掲示 ・パンフレットの配布 ・映像放映など	
5	山陰海岸ジオパーク推進協議会	疲れたらおいで 山陰海岸ジオパークでさ待ち合わせしよう	・パネル展示、パンフレットの配架 ・山陰海岸の動画の放映	○
6	佐渡ジオパーク推進協議会	佐渡の見どころ紹介	・ポスター掲示 ・パンフレット2種配布	
7	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科	山陰海岸ジオパークの一部を構成する豊岡市に拠点がある兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科ジオ分野では、地域の地形・地質特性の解明や地域の「地形・地質的要素」「生物学的要素」「人文・社会的要素」の3要素の相互作用解明、住民による地域特性の理解促進やジオパーク活動の支援などに教員や大学院生が取り組んでいる。近年では、「地質に着目した滝の形状分類と形成メカニズムの推定」や「土壌厚簡易測定結果をもとにした住民の防災意識向上の取り組み」、「釜山白から見た中瀬釜山史の解明」、「山陰海岸ジオパーク・京丹後エリアの漁港立地と地形・地質の関係」、「兵庫県新温泉町新市の霊場付近に産する「石のハナ」の正体」、「兵庫県姫路市南東部における地質遺産、地域資源を活用したジオストーリーの構築」などの研究を院生が行っている。今回はこれら研究の成果を中心に紹介する。	○
8	苗場山麓ジオパーク振興協議会 苗場山麓ジオパーク推進室	苗場山麓ジオパーク	・苗場山麓ジオパークの紹介 ・ポスター掲示 ・パンフレット配布など	

中国四国地方環境事務所 大山隠岐国立公園管理官事務所



山陰海岸ジオパーク推進協議会



株式会社ジオ・ラボ



北海道地図株式会社



兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科



## プレジオツアー、ポストジオツアー

全国大会開催前後にジオツアーを催行することとし、プレジオツアーは、島根半島・宍道湖中海ジオパークエリア4本を準備しました。

ポストジオツアーは、島根半島・宍道湖中海ジオパークエリア4コース、隠岐ユネスコ世界ジオパークエリア2コース、山陰海岸ジオパークエリア1コースの計7コースを準備しました。

オンライン開催への変更に伴い、ジオツアーは中止することとし、代わりに島根半島・宍道湖中海ジオパークのオンラインジオツアーを実施しました。(6ページ参照)

### プレジオツアー1

## 大陸分裂の島根半島縦断ツアー

～日本海の幸がモリモリ～

**1名 36,400円 (税込)** 催行人数：20名 (最小催行人数：18名)  
1泊、夕食1回、朝食1回、昼食1回  
※夕食はコロナ対策した宴会場となります。

1部屋1名 洋室シングル

島根半島は、大陸分裂から日本列島形成の経過が地質で見られる場所です。特徴によって4つのエリアに分かれています。その分かれる場所を、出雲国風土記では「折絶（おりたえ）」と呼び、さらに4つの陸塊をそれぞれ綱で引いたのだ。と詠っています。これは偶然なのか？古代人が地質を詳しく観察した結果なのか？謎解き多きツアーです。1日目は、大陸分裂期の美保関、遊覧船で日本海抜大期の海底火山の跡を見学。2日目は、大きな褶曲や折絶を見て、明治時代に小泉八雲が遊覧した大社湾をクルーズ船で日御崎へ。旅の終わりは古代出雲の輝きを出雲大社と博物館でたっぷり味わいます。

### 島根半島・宍道湖中海ジオパーク

**10月2日(土) (1日目)**



美保関灯台



加賀の瀬戸遊覧船

**10月3日(日) (2日目)**



小伊津海岸の洗濯岩



出雲日御崎灯台



日御崎クルーズ



出雲大社

※悪天候時は、遊覧船およびクルーズの予定を変更しますので、ご了承ください。

**10月2日(土) (1日目)**  
 (12:30) 出雲空港発  
 (13:00) 松江駅発  
 →美保関灯台→美保神社→加賀の瀬戸を遊覧船で見学  
 →松江ビジターセンター  
 (18:10) 到着：宍道湖側の宿 松江ニューアーバンホテル  
 参考コース図：<https://goo.gl/maps/ASZ34hqiWYhDY539>

**10月3日(日) (2日目)**  
 (8:30) 宿発  
 →小伊津海岸(洗濯岩)→船佐の浜  
 →日御崎クルーズ 大社漁港から日御崎へ  
 →昼食(日御崎)→日御崎(柱状節理・日御崎神社など)  
 →出雲大社・古代出雲歴史博物館→出雲会場ブロックパビリオン  
 (17:40) 松江駅着  
 (17:55) 松江しんじ湖温泉駅着  
 参考コース図：<https://goo.gl/maps/CFHbKQonQnAkbvufu7>



プレジオツアー2

悠久の大地で潮汲み体験  
～島根半島四十二浦巡り(出雲編)～

1名 29,700円(税込)

催行人数: 20名(最小催行人数: 18名)  
1泊、夕食無し、朝食1回、昼食1回  
※夕食は現地で配布する飲食ガイドマップを  
参考にホテル周辺でお取りください。

大陸分裂、日本海拡大を経て日本列島誕生にいたる大地変動の痕跡をとどめる島根半島。そこには、42の浦の神社を潮汲みで身を清めながら祈願・巡拝していく「島根半島四十二浦巡り」があります。この旅は、出雲市の3つの浦を巡り、潮汲み体験をしながら出雲の大地と歴史文化を堪能します。1日目は出雲大社の神迎え神事で有名な稲佐の浜で潮汲み体験をし、出雲大社と古代出雲歴史博物館を見学します。2日目は、迫力満点の奇岩・巨石のある大社湾をクルーズ船で日御崎へ。続いてリアス式海岸にある北前船が寄港していた鷺浦へ。最後は四十二浦の結願の地、一畑薬師へ向かいます。

10月2日(土) (1日目)

(12:30) 出雲空港発  
(13:00) 出雲市駅発  
→稲佐の浜にて潮汲み体験→下の宮・上の宮、奉納山  
→出雲大社(四十二浦1番)  
→出雲大社・命主社 →古代出雲歴史博物館  
(17:00) 到着: 出雲ロイヤルホテル  
参考コース図: <https://goo.gl/maps/neTv4E2u6dTrt34v8>

10月3日(日) (2日目)

(8:00) 出発  
→日御崎クルーズ 大社湾から日御崎へ  
→日御崎神社(四十二浦2番)  
→日御崎(柱状節理・灯台周辺など)  
昼食(日御崎) →鷺浦(イナセハギ神社: 四十二浦3番)  
街並み散策 →出雲会場ブロックパビリオン →一畑薬師  
(17:30) 松江しんじ湖温泉駅着  
(17:45) 松江駅着  
参考コース図: <https://goo.gl/maps/Vy5ebmsPEnc5Rb7n8>

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

10月2日(土) (1日目)



稲佐の浜



奉納山から望む長浜



稲佐の浜



稲佐の浜の竹藪と奇岩

10月3日(日) (2日目)



日御崎クルーズ



石御崎神社



鷺浦



古代出雲歴史博物館

※悪天候時は、クルーズの予定を変更しますので、ご了承ください。



プレジオツアー3

宍道湖・中海の生き物と歴史文化ツアー  
～ラムサール条約湿地を味わい尽くす旅～

1名 31,800円(税込)

催行人数: 20名(最小催行人数: 18名)  
1泊、夕食1回、朝食1回、昼食1回  
※夕食はコロナ対策した宴会場となります。

当ジオパークにはラムサール条約湿地の宍道湖・中海があり、冬になるとコハクチョウやマガンなど4万羽を超える水鳥が飛来します。塩分濃度が海水の1/10程度で、日本で7番目の面積の宍道湖、塩分濃度1/2程度で5番目の面積の中海の連なる日本最大級の汽水域は、多くの生き物が生息できる環境を提供しています。

1日目は、中海に浮かぶ大根島の溶岩トンネル内や観水護岸での生き物探し、宍道湖のサンセットクルーズを楽しみます。2日目は宍道湖の生き物を自然館ゴビウスで見学し、昼食は江戸時代に木綿の出荷で栄えた木綿街道、その後、ブロックパビリオンを風土記の丘で古代出雲に思いをはせます。

10月2日(土) (1日目)

(12:30) 出雲空港発  
(13:00) 松江駅発  
→なかうみスカイポート →道の駅本庄経由  
→大根島 波入港・竜深洞 →宍道湖サンセットクルーズ →  
(18:20) 到着: 宍道湖畔の宿松江ニューアーバンホテル  
参考コース図: <https://goo.gl/maps/E652XXI79AMI1ncV6>

10月3日(日) (2日目)

(9:00) 出発  
→宍道湖自然館ゴビウスと宍道湖グリーンパーク  
→木綿街道 街巡りと酒蔵と昼食(ごはん屋柿の花)  
→出雲会場ブロックパビリオン →八雲立つ風土記の丘  
(17:30) 松江駅着  
(17:45) 松江しんじ湖温泉駅着  
参考コース図: <https://goo.gl/maps/LQESVjoakGGo3Du49>

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

10月2日(土) (1日目)



なかうみスカイポート



大根島電没洞



大根島波入港



宍道湖サンセットクルーズ

10月3日(日) (2日目)



グリーンパーク



ゴビウス



木綿街道



八雲立つ風土記の丘

※悪天候時は、クルーズの予定を変更しますので、ご了承ください。

プレジオツアー4

大地の偉大な造形を巡る旅  
～人々を魅了する巨石・巨木・奇岩～

1名 28,800円 (税込)

1部屋1名 洋室シングル

催行人数：20名 (最小催行人数：18名)  
1泊、夕食無し、朝食1回、昼食1回  
※夕食は現地で配布する飲食ガイドマップを参考にホテル周辺でお取りください。

古来より人々から敬意・畏怖されてきた巨石・巨木・奇岩は、今もその魅惑を放散しています。溢れだす偉大な大地の造形の力を感じてください。1日目の立石神社は、必ず雨を降らしたもうタキツヒコを祀り、今も大切に守られている大岩。近くの小伊津海岸の洗濯岩は島根半島を揺るがした褶曲を見学。そして、クルーズ船から日御碕のダイナミックな岩礁や聖地の島を堪能します。2日目は、出雲大社とその背後にあって神聖な八雲山の岩肌に触れ、巨石の下から糸魚川産のヒスイの勾玉が発見された場所へ。古代出雲の輝きを博物館で味わい、出雲会場のブロックパビリオンを見学します。

10月2日(土) (1日目)

(12:30) 出雲空港発

(13:00) 松江駅発

- 立石神社 (巨石・雨乞い・大船山)
- 小伊津海岸 (洗濯岩)
- 日御碕クルーズ 大社港から日御碕へ
- 日御碕 (ビジターセンター、柱状節理、灯台周辺)

(18:40) 到着：グリーンリッチホテル (出雲市駅前)

参考コース図：<https://goo.gl/maps/x15f8mJkyS1R2p9tE7>

10月3日(日) (2日目)

(8:20) 宿発

- 奉納山→上宮、下宮→福佐の浜
- 鷺浦 →昼食 (大社神門通り)
- 出雲大社と近くの命主社 →古代出雲歴史博物館
- 出雲会場ブロックパビリオン

(17:00) 松江駅着 (17:15) 松江駅着

参考コース図：<https://goo.gl/maps/psidAvh7syPZAXbC9>

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

10月2日(土) (1日目)



10月3日(日) (2日目)



※悪天候時は、クルーズの予定を変更しますので、ご了承ください。



ポストジオツアー1

大地の偉大な造形を巡る旅  
～人々を魅了する巨石・巨木・奇岩～

1名 26,900円 (税込)

1部屋1名 洋室シングル

催行人数：20名 (最小催行人数：18名)  
1泊、夕食無し、朝食1回、昼食無し  
※夕食は現地で配布する飲食ガイドマップを参考にホテル周辺でお取りください。

古来より人々から敬意・畏怖されてきた巨石・巨木・奇岩は、今もその魅惑を放散しています。溢れだす偉大な大地の造形の力を感じてください。1日目の立石神社は、必ず雨を降らしたもうタキツヒコを祀り、今も大切に守られている大岩。近くの小伊津海岸の洗濯岩は島根半島を揺るがした褶曲の産物。2日目は、出雲大社とその背後にあって神聖な八雲山の岩肌に触れ、巨石の下から糸魚川産のヒスイの勾玉が発見された場所へ。さらに、クルーズ船から日御碕のダイナミックな岩礁や聖地の島を堪能して古代出雲の輝き歴史博物館で眼前にします。

10月5日(火) (1日目)

(15:30) くにびきメッセ発

→立石神社 →小伊津海岸 (洗濯岩)

(18:15) 到着：グリーンリッチホテル (出雲市駅前)

参考コース図：<https://goo.gl/maps/MzR3YtQxctkxCSJ7>

10月6日(水) (2日目)

(8:00) 宿発

- 出雲大社と近くの命主社→奉納山→(上宮、下宮)
- 福佐の浜→日御碕クルーズ 大社港から日御碕へ
- 昼食 (日御碕商店街で各自)
- 日御碕 (日御碕神社、遊歩道、灯台周辺)
- 鷺浦 →古代出雲歴史博物館

(16:30) 出雲市駅着

(17:05) 出雲空港着

(17:50) 松江駅着

※2日目の昼食は好みのお店で自費となります。

参考コース図：<https://goo.gl/maps/Ck8WKsxa3wWoJ8p18>

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

10月5日(火) (1日目)



10月6日(水) (2日目)



※悪天候時は、クルーズの予定を変更しますので、ご了承ください。



ポストジオツアー2

悠久の大地で潮汲み体験  
～島根半島四十二浦巡り(松江編)～

1名 32,200円 (税込)

1部屋2名 和室

催行人数：20名(最小催行人数：18名)  
1泊、夕食1回、朝食1回、昼食1回  
※夕食はコロナ対策した宴会場となります。  
左の料金は1部屋2名です。1部屋1名の場合は、35,500円になります。

大陸分裂、日本海拡大を経て日本列島誕生にいたる大地変動の痕跡をとどめる島根半島。東西およそ70kmにおよぶ島根半島にある42の浦の神社を潮汲みで身を清めながら祈願・巡拝していく『島根半島四十二浦巡り』。今回は松江市の5つの浦を巡り、潮汲み体験をしながら大地と歴史文化を堪能します。「えびす神」を祀る総本宮である美保神社。「世界の灯台100選」に入る美保関灯台は、大陸分裂初期の石材で作られた灯台です。そして海底火山と日本海のダイナミックな造形が見られる加賀浦へ。神話や伝承が眠る加賀の潜水を遊覧船で巡る島根半島の海と大地を満喫できるツアーです。

10月5日(火) (1日目)

(15:30) くまびきメッセ発

→三保神社(四十二浦42番) →美保関灯台(地蔵崎)

(18:00) 到着：文化財指定の本館ある美保館

参考コース図：<https://goo.gl/maps/RpHKcVvmf8HYwqB86>

10月6日(水) (2日目)

(7:50) 宿発

→青石畳通り・潮汲み・美保神社(朝御願祭・巫女舞の見学)

→潜水遊覧船(潜水コース)

→松江ビジターセンター →昼食(小波の民宿なかよし)

→桂島の散策

(14:10) 松江駅着

(15:00) 出雲空港着

参考コース図：<https://goo.gl/maps/tbCeykmdwVXXYLvV7>

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

10月5日(火) (1日目)



10月6日(水) (2日目)



※悪天候時は、遊覧船の予定を変更しますので、ご了承ください。



ポストジオツアー3

河の力で変わる大地と歴史  
～自然に向き合う人々の智慧～

1名 27,900円 (税込)

1部屋1名 洋室シングル

催行人数：20名(最小催行人数：18名)  
1泊、夕食無し、朝食1回、昼食1回  
※夕食は現地配布する飲食ガイドマップを参考にホテル周辺でお取りください。

古代出雲国では、今の宍道湖の西に大きな汽水域「神門水海(かんののみずうみ)」が広がっていました。それが、ヤマタノオロチ神話の語られる斐伊川(ひいかわ)の力や三瓶山の噴出物、さらにはタカラ製鉄などによって徐々に埋まり、出雲平野に変わって行きました。1日目は、出雲平野と天井川となった斐伊川を見学し、そこに生まれた運河開削の歴史に出会います。2日目は、出雲平野を作った源流をたずね、たたら製鉄跡、川のが削った大深谷を見て、江戸末期に生産が盛んになった木綿の流通拠点、木綿街道を訪れます。この出雲平野に生まれた古代出雲文化にも触れます。

10月5日(火) (1日目)

(15:30) くまびきメッセ発

→斐伊川 →高瀬川 →神戸川

(18:10) 到着：グリーンリッチホテル(出雲市駅前)

参考コース図：<https://goo.gl/maps/4ZMaJTB3rf4T2Wc96>

10月6日(水) (2日目)

(8:30) 宿発

→朝日たたら跡→立久恵峽展望所

→築地松見学 →木綿街道 →昼食(木綿街道) →稲佐の浜

→古代出雲歴史博物館

(16:40) 出雲市駅着

(17:15) 出雲空港着

(18:00) 松江駅着

参考コース図：<https://goo.gl/maps/hYjvHYxPRFCJ5iv67>

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

10月5日(火) (1日目)



10月6日(水) (2日目)



ポストジオツアー4

溶岩を読む・楽しむ・動かす！  
～陸上火山と海底火山～

1名 29,700円 (税込)

催行人数：20名 (最小催行人数：18名)  
1泊、夕食1回、朝食1回、昼食1回  
※夕食はコロナ対策した宴会場となります。

1部屋1名 洋室シングル

大陸分裂が進んだ1400万年前ごろの盛んな海底火山活動によって形成された島根半島。なかでもさまざまな溶岩の流れの跡が見られる加賀の瀬戸や桂島。

また、20万年前ごろの陸上火山活動によって形成された「大根島」は、柔らかな溶岩のため、島で一番高い大塚山は、火山にもかかわらず標高が僅か4.2mです。

こうした海底火山と陸上火山をジオガイドと巡り、地質を始めとした多くの違いを見つけていくツアーです。

10月5日(火) (1日目)

(15:30) くまびきメッセ発

- 竜溪洞 (溶岩トンネル・希少生物)
- 大塚山 (陸上火山・スコリア)

※高山に沈む夕日を観賞

(18:05) 到着 宍道湖側の宿松江ニューアーバンホテル

参考コース図: <https://goo.gl/maps/1DVvEXdbMDU14rHV9>

10月6日(水) (2日目)

(8:00) 宿発

- 浜入親水公園 (湧水・チュムラス・柱状節理)
- 由志園 (溶岩庭園・大根島模型)
- 松江ビジターセンター → 瀬戸遊覧船 (瀬戸コース)
- 昼食 (食事処なごさ) → 桂島

(14:30) 松江駅 → (15:00) 出雲空港

参考コース図: <https://goo.gl/maps/JC435x0uzqZKx7M8>

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

10月5日(火) (1日目)



10月6日(水) (2日目)



※悪天候時は、遊覧船の予定を変更しますので、ご了承ください。



ポストジオツアー5

大地と人をつなぐ隠岐の島町  
満喫ジオツアー

1名 43,800円 (税込)

催行人数：13名 (最小催行人数：10名)  
1泊、昼食2回、夕食1回、朝食1回  
※夕食はコロナ対策した宴会場となります。  
左の料金には1部屋2名です。

1部屋2名 洋室・和室・バンガロー

離島という大地が織りなす人の営みと神社のつながりを見に行こう。総社の玉若許命神社。船小屋から学ぶ日本海の地形形成、最古の山祭り文化が残る大山神社、大地が生んだ巨木信仰「岩倉の乳房杉」、船からみる69%の軌跡のサンセット「ローソク島」など、大地×自然×文化が織りなすジオの世界をご堪能あれ。

10月6日(水) (1日目) ※ツアーは大会終了5日の翌日6日からです。

(7:55) 松江駅発 (連絡バス)

(9:00) 七瀬港発 (フェリー)

(11:25) 西郷港着

- 隠岐ジオゲートウェイ → 昼食 (西郷港周辺)
- 玉若許命神社 → 都万船小屋 → 壇鏡の滝
- ローソク島遊覧

(17:40) 到着: ホテル海音里 (うねり)

参考コース図: <https://goo.gl/maps/MpDVf9ugU8hoZGhX7>

10月7日(木) (2日目)

(8:00) 宿発

- 水若許神社 → 白鳥展望台 → 大山神社 → 乳房杉
- 昼食 (西郷港周辺)

(13:20) 西郷港発 高速船レインボー他

参考コース図: <https://goo.gl/maps/ds3cQXxx37vXV5St6>

隠岐ユネスコ世界ジオパーク

10月6日(水) (1日目)



10月7日(木) (2日目)



※悪天候時は、遊覧船の予定を変更します。また、昨年大雨による道路改修工事が9月末までに終了予定ですが、状況によっては行程を変更する可能性があります。あらかじめご了承ください。

ポストジオツアー6

## 大地から紐解く神社めぐりツアー In 西ノ島

1名 42,700円 (税込)

1部屋2名 和室

催行人数：18名 (最小催行人数：15名)  
1泊、昼食2回、夕食1回、朝食1回  
※夕食はコロナ対策した宴会場となります。  
左の料金は1部屋2名です。

海上交通を守護する焼火神社と島前カルデラの関係、由良比女神社のイカ伝説を地形から見るツアーと日本海が生んだ国賀海岸の絶景！海岸周辺一帯の放牧地は牛馬がのんびり草を食む姿が見られる。国賀海岸の一部である「魔天崖」は巨大なナイフで垂直に切り取ったような海拔257mの絶壁！

**10月6日(水) (1日目)** ※ツアーは大会終了5日の翌日6日からです。  
(7:55) 松江駅発 (連絡バス)  
(9:30) 七瀬港発 (フェリー)  
(12:05) 別府港着  
→昼食 (別府港周辺) →黒木御所 →焼火神社(14:45)  
→国賀海岸遊覧  
(16:30) 宿着：旅館みつけ島荘  
参考コース図：<https://goo.gl/maps/SeFXaV2Aq8he5ubt6>

**10月7日(木) (2日目)**  
(8:30) 宿発  
→由良比女神社 →赤尾展望台  
→魔天崖～トレッキング～通天橋 →昼食 (別府港)  
(15:10) 別府港発 フェリー他  
参考コース図：<https://goo.gl/maps/gb95aKccWYasB2i7>

隠岐ユネスコ世界ジオパーク

10月6日(水) (1日目)



10月7日(木) (2日目)



※悪天候時は、遊覧船の予定を変更しますので、ご了承ください。



ポストジオツアー7

## 日本海沿岸の環境問題を考える ～日本海が作り出した景観と環日本海の歴史～ 《保全・保護分科会「海ゴミ」との運動型ジオツアー》

1名 23,500円 (税込)

1部屋1名 和室

催行人数：20名 (最小催行人数：18名)  
1泊、夕食1回、朝食1回、昼食1回  
※夕食はコロナ対策した宴会場となります。

大陸の時代の花崗岩が風化して砂となり、それが日本海の高浪や日本海からの風で集められ作られた鳥取砂丘。ここでは、環境保全のための草園化を止めた地域住民の歴史がある。冬の季節風に伴う日本海の高浪は岩石を削って美しい岩石海岸を作る一方、漂着ごみをもたらし、住民がそれを撤去し続けることで沿岸部の環境を守っている。日本海に面したかつてのラグーンに位置する青谷上寺地遺跡では、発掘されたヒトから炭素人のDNAが検出され、渡来人が日本海沿岸にやってきた歴史をうかがい知ることができる。このように、このツアーでは「日本海」が影響を与えた景観や歴史を体感できる。また、地球規模で問題となっている気候変動や乾燥地問題に取組む研究機関「乾燥地研究センター」では、気候変動を学び伝える活動をジオガイドと連携して展開している。これらの見学を通じて、地域特性を作る自然的要素と人の暮らし、そしてこの地域この地球で生き続けていくために何をしたら良いのか、をこのツアーを通じて考えたい。

**10月5日(火) (1日目)**  
(15:30) くにびきメッセ発  
(17:30) 宿着：泉源かけ流し温泉のある国民宿舎山紫苑 (さんしえん)  
参考コース図：<https://goo.gl/maps/264JmhFt4WITzrh9>

**10月6日(水) (2日目)**  
(8:40) 宿発 (朝食・出発)  
→鳥取市青谷上寺地遺跡展示館  
→鳥取大学乾燥地研究センター →砂丘会館 (昼食)  
→浦富海岸島めぐり遊覧船  
→山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館  
(16:30) 鳥取駅着  
(17:00) 鳥取空港着 (解散)  
参考コース図：<https://goo.gl/maps/GAc4k2ew4QMRc9Ym7>

山陰海岸ジオパーク (世界ジオパーク)

10月5日(火) (1日目)



10月6日(水) (2日目)



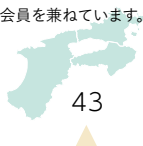
※悪天候時は、遊覧船の予定を変更しますので、ご了承ください。



# 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会名簿 (令和3年10月3日時点)

役職名	所 属	氏 名
実行委員長	松江市長	上 定 昭 仁
副実行委員長	出雲市長	飯 塚 俊 之
	松江商工会議所 会頭	田部 長右衛門
	国立大学法人島根大学 名誉教授	小 林 祥 泰
実行委員	島根大学学術研究院環境システム科学系教授	入 月 俊 明
	島根県地学会 会長	永 井 泰
	島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課長	井 上 雅 仁
	国立大学法人島根大学 非常勤講師	佐 藤 仁 志
	島根県埋蔵文化財調査センター所長	椿 真 治
	出雲大社 権宮司	千 家 和 比 古
	一畑薬師管長	飯 塚 大 幸
	荒神谷博物館 館長	藤 岡 大 拙
	島根県立古代出雲歴史博物館 館長	多 根 純
	島根県立八雲立つ風土記の丘 副所長	高 屋 茂 男
	山陰万葉を歩く会、風土記を訪ねる会 会長	川 島 芙 美 子
	小泉八雲記念館 館長	小 泉 凡
	長浜神社 宮司	秦 和 憲
	西日本旅客鉄道株式会社 米子支社 山陰地域振興本部 副本部長	和 田 昇 司
	一畑電気鉄道株式会社 代表取締役社長	足 達 明 彦
	山陰中央テレビジョン放送株式会社 代表取締役社長	田部 長右衛門
	NHK 松江放送局 局長	吉 光 賢 之
	株式会社山陰放送 代表取締役社長	坂 口 吉 平
	日本海テレビジョン放送株式会社 代表取締役社長	田 口 晃 也
	株式会社山陰中央新報社 代表取締役社長	松 尾 倫 男
	山陰ケーブルビジョン株式会社 代表取締役社長	石 原 俊 太 郎
	出雲ケーブルビジョン株式会社 代表取締役	今 岡 余 一 良
	株式会社島根日日新聞 代表取締役	菊 地 恵 介
	出雲商工会議所 会頭	三 吉 庸 善
	平田商工会議所 会頭	大 谷 厚 郎
	まつえ北商工会 会長	横 原 顯
	出雲商工会 会長	山 崎 茂 樹
	斐川町商工会 会長	長 岡 秀 治
	一般社団法人松江観光協会 常務理事	錦 織 裕 司
	一般社団法人松江観光協会美保関町支部 事務局長	安 達 修 一
	一般社団法人出雲観光協会 会長	田 邊 達 也
	島根県農業協同組合 代表理事組合長	石 川 寿 樹
	漁業協同組合 JFしまね 代表理事会長	岸 宏
	株式会社田部 代表取締役社長	田部 長右衛門
	中国電力株式会社島根支社 常務執行役員島根支社長	天 野 浩 一
	国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 所長	武 内 慶 了
	環境省大山隠岐国立公園松江管理官事務所 国立公園管理官	宮 本 有 樹
	松江市民館長会代表 島根市民館長	田 中 豊
	出雲市コミュニティセンター長会代表 久多美センター長	三 島 達 也
	日本エコビレッジ研究会 代表	召 古 裕 士
	八束の遺産を守る会 会長	門 脇 和 也
	島根半島四十二浦巡り再発見研究会 事務局長	木 幡 育 夫
	ウミネコ生態調査専門調査員	濱 田 義 治
	神社ガールズ研究会 会長	河 野 美 知
	加賀まるごと博物館 代表	小 川 英 二
	宍道湖魚類研究会 代表	桑 原 弘 道
	国立大学法人島根大学 教育学部自然環境教育専攻 教授	栢 野 彰 秀
	国立大学法人島根大学 大学院教育学研究科 教授	松 本 一 郎
	国立大学法人島根大学 教育学部理科教育専攻 講師	辻 本 彰
	松江工業高等専門学校 副校長	高 尾 学
島根県立宍道湖自然館ゴビウス 館長	中 畑 勝 見	
出雲科学館 館長	鬼 村 修 治	
モニュメント・ミュージアム来待ストーン 学芸員	古 川 寛 子	
監 事	松江市 会計管理者	杉 谷 薫
	出雲市 会計管理者	馬 庭 伸 二
顧 問	日本ジオパークネットワーク 理事長	米 田 徹
	日本ジオパーク委員会 委員長	中 田 節 也

※顧問以外は、島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会会員を兼ねています。



## 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会専門委員会名簿 (令和3年3月31日時点)

◎委員長 ○副委員長

所属	氏名	担当業務	
分科会・発表委員会	副実行委員長(推進協会長代行)	◎小林 祥泰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別講演</li> <li>・基調講演</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・分科会</li> <li>・口頭発表</li> <li>・パネルディスカッション</li> <li>・ポスターセッション</li> <li>・市民公開講座</li> <li>・ブロックパビリオン</li> </ul>
	ジオパーク専門員	○野村 律夫	
	実行委員(島根大学、推進協学会・研究部会長)	入月 俊明	
	荒神谷博物館元副館長、推進協学会・研究部会長	平野 芳英	
	実行委員(島根大学、推進協学会・教育部会長)	辻本 彰	
	実行委員(松江市公民館長会、推進協学会・教育部会長)	田中 豊	
	実行委員(出雲市コミュニティセンター長会、推進協学会・教育部会長)	土江 尚	
	山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局長	秋吉 秀剛	
	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局長	野邊 一寛	
	Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会事務局長	末岡 竜夫	
	萩ジオパーク推進協議会事務局長	園光 博基	
	室戸ジオパーク推進協議会事務局長	大西 亨	
	四国西予ジオパーク推進協議会事務局長	高橋 司	
	南紀熊野ジオパーク推進協議会事務局長	阪口 公章	
土佐清水ジオパーク推進協議会事務局長	酒井 満		
三好ジオパーク構想推進協議会事務局長	大西 裕之		
ツアー委員会	実行委員(一般社団法人松江観光協会美保関町支部、推進協観光広報部会長)	◎住吉 裕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレジオツアー</li> <li>・ポストジオツアー</li> </ul>
	実行委員(一般社団法人出雲観光協会、推進協観光広報部会長)	○稻根 克也	
	一畑電気鉄道株式会社	松下 敦史	
	実行委員(日本エコビレッジ研究会、出雲国ジオガイドの会)	召古 裕士	
	実行委員(島根半島四十二浦巡り再発見研究会、出雲国ジオガイドの会)	木幡 育夫	
	実行委員(神社ガールズ研究会、出雲国ジオガイドの会)	河野 美知	
	出雲国ジオガイドの会(神社ガールズ研究会)	松原 慶子	
	出雲国ジオガイドの会(ミサキどっとCome)	吉田 勝俊	
山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局長	秋吉 秀剛		
隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局長	野邊 一寛		
※2つの部会にオブザーバー、事務局も関与			
オブザーバー	JGN 事務局長	齊藤 清一	

## 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会事務局名簿 (令和3年10月3日時点)

所属	氏名	担当業務	
事務局	副実行委員長(推進協会長代行)	小林 祥泰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総括</li> <li>・総務、財務</li> <li>・開会式、テーマ</li> <li>・閉会式、大会宣言</li> <li>・アトラクション</li> <li>・交流会</li> <li>・展示、物産</li> </ul>
	ジオパーク専門員	野村 律夫	
	実行委員(島根大学、推進協学会・研究部会長)	入月 俊明	
	実行委員(島根大学、推進協学会・教育部会長)	辻本 彰	
	事務局長(松江市政策部長)	山根 幸二	
	事務局長代行(松江市政策部次長)	佐目 元昭	
	事務局次長(出雲市総合政策部長)	藤原 英博	
	事務局次長(松江市政策部地域振興課長 兼 ジオパーク推進室長)	井川 浩介	
	出雲市総合政策部次長 兼 政策企画課長	安食 和彦	
	松江市政策部地域振興課ジオパーク推進室係長	福田 英樹	
	出雲市総合政策部政策企画課係長	廣澤 陽子	
	松江市政策部地域振興課ジオパーク推進室	柏井 孝太郎	
	松江市政策部地域振興課ジオパーク推進室(出雲市職員)	植田 学志	
松江市政策部地域振興課ジオパーク推進室	三代 隆司		

# 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会 アンケート集計表

【各アンケートについて】

## 1 事前アンケート

- ・目的: 全国大会で議論するにあたり、各地域で取り組んでいるジオパーク活動の立ち位置を確認するとともに、大会参加に向けた機運の醸成を図るためにアンケートを実施し、ジオパーク活動の現状を「見える化」していく。
- ・対象者: 各地域でジオパーク活動に関わっている個人
- ・実施方法: WEB(Googleフォーム)
- ・実施期間: 令和3年6月30日～9月17日

## 2 参加後アンケート

- ・目的: 全国大会に参加したことで、参加者の意識がどのように変わったのか、成果があったのかについて評価するとともに、今後の大会運営に向け、参加者の満足度をはかる。
- ・対象者: 全国大会参加者
- ・実施方法: WEB(Googleフォーム)
- ・実施期間: 令和3年10月6日～10月22日

## 3 出雲会場来場者アンケート

- ・目的: 出雲会場で行ったプログラムへのアンケート調査を実施することで、成果を評価するとともに、参加者の満足度をはかる。
- ・対象者: 出雲会場来場者
- ・実施方法: 会場で紙アンケートを配布
- ・実施期間: 令和3年10月3日

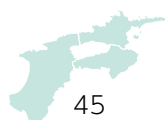
# 1 事前アンケート集計結果の概要

## (1) 基本情報

- (1)-1 48地域215人から回答があった。  
(回答地域数は、JGN正会員及び準会員56地域の85.7%)  
(回答者数は、全国大会参加者649名(9/21時点)の33.1%)
- (1)-2 回答者が所属している団体は、ジオパーク運営組織が78.6%で最も多かった。
- (1)-3 回答者の役職は、推進協事務局員が41.9%、次いでジオガイドが35.3%であった。
- (1)-4 回答者の年代は、ほぼ均等であった。
- (1)-5 回答者がジオパークに関わっている経験年数は、1年以上～5年未満がほぼ過半数であった。

## (2) 規模と環境

保護、教育、持続可能な開発が一体となった総合的な観点から地球遺産を扱い、有形無形の遺産に加え、生物多様性、文化を組み合わせた活動について、64.2%ができており、28.8%ができていないとした。



### (3) 運営および地域とのかかわり

- (3)-1 運営計画にもとづいた取り組みについて、70.3%ができており、22.8%ができていないとした。
- (3)-2 地域と連携したボトムアップの手法による取り組みについて、48.4%ができており、46.5%ができていないとした。

### (4) 保全・保護

- (4)-1 岩石や景観そして現在進行している地質学的プロセスから読み取ることができる地球の物語への意識を高め、地形・地質と自然・文化遺産のあらゆる分野との関連付けを促進する取り組みについて、67.0%ができており、27.9%ができていないとした。
- (4)-2 地球遺産の保全に対する意識を高める取り組みについて、58.2%ができており、36.3%ができていないとした。

### (5) 持続可能な開発

- (5)-1 ジオツーリズムなどを通じ、持続可能な開発の枠組みの中で経済活動を活性化させ、地域住民の生活水準や農村環境の向上につながるような取り組みについて、35.9%ができており、57.2%ができていないとした。
- (5)-2 ジオツーリズムなどを通じ、持続可能な開発の枠組みの中で経済活動を活性化させ、地球遺産保全の世論を高めることにつながるような取り組みについて、33.5%ができており、59.5%ができていないとした。

### (6) 教育

- (6)-1 地球科学の知識や環境、文化などの概念を社会に伝える支援、手段、活動を提供することについて、64.2%ができており、31.6%ができていないとした。
- (6)-2 ジオパークを介して学術的研究や、大学、幅広い分野の研究者との協力を促し、育むことについて、66.5%ができており、28.4%ができていないとした。
- (6)-3 ジオパーク教育を介して地域住民との協力を促し、育むことについて、59.6%ができており、37.3%ができていないとした。

### (7) 防災

地形・地質の特徴から起こり得る自然災害を想定し、防災・安全対策、防災教育に取り組むことについて、53.5%ができており、41.8%ができていないとした。

### (8) ネットワーク活動

- (8)-1 地域ぐるみの活動を推進するため、地域住民とのネットワーク活動に取り組むことについて、46.1%ができており、48.9%ができていないとした。
- (8)-2 活動を発展し、ジオパークの仲間による互いの経験や知識を共有するために、他のジオパークとのネットワーク活動に取り組むことについて、56.3%ができており、39.6%ができていないとした。

# 事前アンケート項目と集計結果

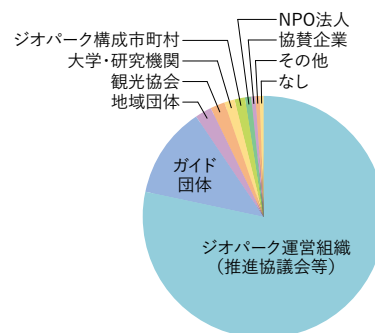
## (1) 基本情報

(1)-1 地域名 48地域、215人回答 (回答地域数は、JGN正会員及び準会員56地域の85.7%)  
(回答者数は、全国大会参加者649名(9/21時点)の33.1%)

アポイ岳	2	佐渡	2	下北	4
洞爺湖有珠山	3	銚子	5	筑波山地域	6
糸魚川	5	伊豆半島	3	浅間山北麓	3
南アルプス	2	八峰白神	1	鳥海山・飛島	2
山陰海岸	2	四国西予	1	萩	3
室戸	8	ゆざわ	1	蔵王	1
島原半島	8	三陸	2	飛騨山脈	2
恐竜渓谷ふくい勝山	6	おおいた姫島	5	土佐清水	3
隠岐	15	おおいた豊後大野	6	十勝岳	4
阿蘇	15	三笠	5	那須烏山	1
白滝	1	桜島・錦江湾	17	三好	3
伊豆大島	3	とがち鹿追	1	五島列島	6
霧島	8	南紀熊野	19	上川中部	1
磐梯山	1	立山黒部	1	その他	1
秩父	2	苗場山麓	1	島根半島・宍道湖中海	18
男鹿半島・大潟	3	Mine秋吉台	1		
箱根	1	三島村・鬼界カルデラ	1	合 計	215

## (1)-2 所属している団体

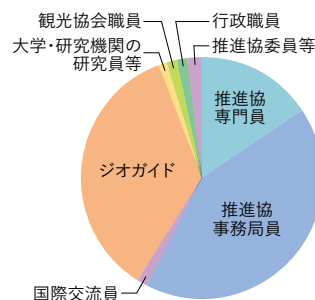
ジオパーク運営組織(推進協議会等)	169	78.6%
ガイド団体	26	12.1%
地域団体	5	2.3%
観光協会	4	1.9%
大学・研究機関	3	1.4%
ジオパーク構成市町村	3	1.4%
NPO法人	2	0.9%
協賛企業	1	0.5%
その他	1	0.5%
なし	1	0.5%
合 計	215	100.0%





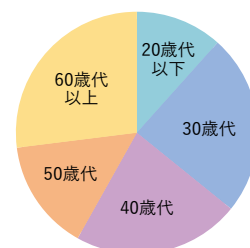
### (1)-3 役職

推進協専門員	34	15.8%
推進協事務局員	90	41.9%
国際交流員	3	1.4%
ジオガイド	76	35.3%
大学・研究機関の研究者等	2	0.9%
観光協会職員	3	1.4%
行政職員	3	1.4%
推進協委員等	4	1.9%
合計	215	100.0%



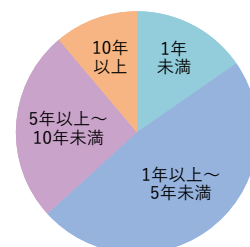
### (1)-4 年代

20歳代以下	25	11.6%
30歳代	52	24.2%
40歳代	48	22.3%
50歳代	32	14.9%
60歳代以上	58	27.0%
合計	215	100.0%



### (1)-5 ジオパークに関わっている経験年数

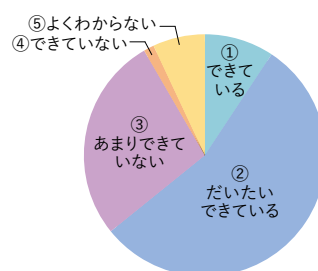
1年未満	33	15.3%
1年以上～5年未満	103	47.9%
5年以上～10年未満	55	25.6%
10年以上	24	11.2%
合計	215	100.0%



## (2) 規模と環境

保護、教育、持続可能な開発が一体となった総合的な観点から地球遺産を扱い、有形無形の遺産に加え、生物多様性、文化を組み合わせた活動に取り組むことができますか。

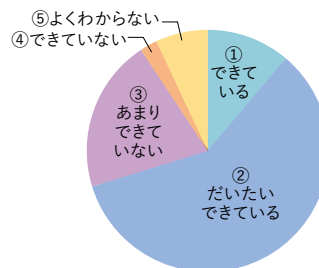
①できている	20	9.3%
②だいたいできている	118	54.9%
③あまりできていない	59	27.4%
④できていない	3	1.4%
⑤よくわからない	15	7.0%
合計	215	100.0%



### (3) 運営および地域とのかかわり

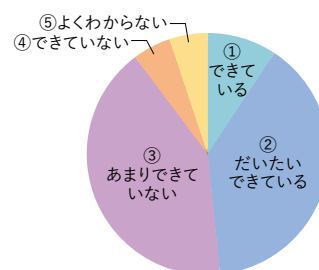
#### (3)-1 運営計画にもとづいた取り組みができていますか。

①できている	24	11.2%
②だいたいできている	127	59.1%
③あまりできていない	44	20.5%
④できていない	5	2.3%
⑤よくわからない	15	7.0%
合計	215	100.0%



#### (3)-2 地域と連携して、ボトムアップの手法による取り組みができていますか。

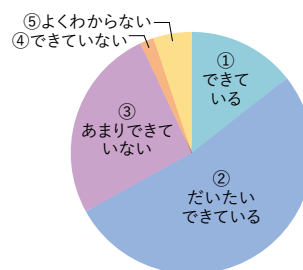
①できている	20	9.3%
②だいたいできている	84	39.1%
③あまりできていない	89	41.4%
④できていない	11	5.1%
⑤よくわからない	11	5.1%
合計	215	100.0%



### (4) 保全・保護

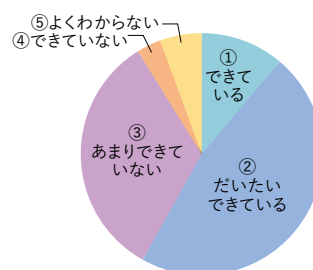
#### (4)-1 岩石や景観そして現在進行している地質学的プロセスから読み取ることができる地球の物語への意識を高め、地形・地質と自然・文化遺産のあらゆる分野との関連付けを促進する取り組みができていますか。

①できている	31	14.4%
②だいたいできている	113	52.6%
③あまりできていない	56	26.0%
④できていない	4	1.9%
⑤よくわからない	11	5.1%
合計	215	100.0%



#### (4)-2 地球遺産の保全に対する意識を高める取り組みができていますか。

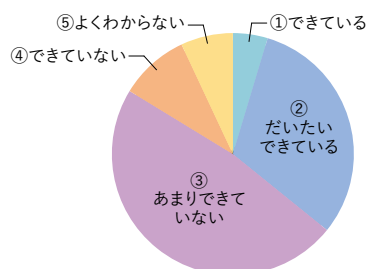
①できている	24	11.2%
②だいたいできている	101	47.0%
③あまりできていない	71	33.0%
④できていない	7	3.3%
⑤よくわからない	12	5.6%
合計	215	100.0%



## (5) 持続可能な開発

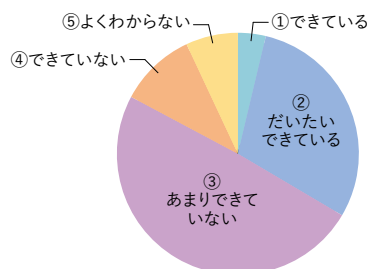
(5)-1 ジオツーリズムなどを通じ、持続可能な開発の枠組みの中で経済活動を活性化させ、地域住民の生活水準や農村環境の向上につながるような取り組みができていますか。

①できている	10	4.7%
②だいたいできている	67	31.2%
③あまりできていない	103	47.9%
④できていない	20	9.3%
⑤よくわからない	15	7.0%
合計	215	100.0%



(5)-2 ジオツーリズムなどを通じ、持続可能な開発の枠組みの中で経済活動を活性化させ、地球遺産保全の世論を高めることにつながるような取り組みができていますか。

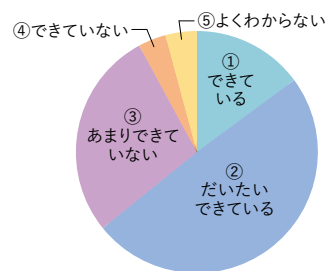
①できている	8	3.7%
②だいたいできている	64	29.8%
③あまりできていない	106	49.3%
④できていない	22	10.2%
⑤よくわからない	15	7.0%
合計	215	100.0%



## (6) 教育

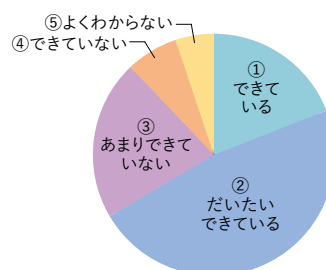
(6)-1 地球科学の知識や環境、文化などの概念を社会に伝える支援、手段、活動を提供することができますか。

①できている	32	14.9%
②だいたいできている	106	49.3%
③あまりできていない	60	27.9%
④できていない	8	3.7%
⑤よくわからない	9	4.2%
合計	215	100.0%



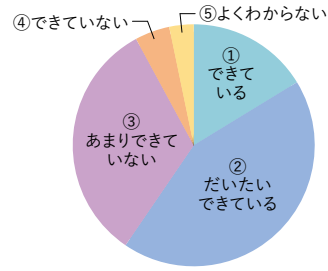
(6)-2 ジオパークを介して学術的研究や、大学、幅広い分野の研究者との協力を促し、育むことができますか。

①できている	41	19.1%
②だいたいできている	102	47.4%
③あまりできていない	46	21.4%
④できていない	15	7.0%
⑤よくわからない	11	5.1%
合計	215	100.0%



**(6)-3 ジオパーク教育を介して地域住民との協力を促し、育むことができますか。**

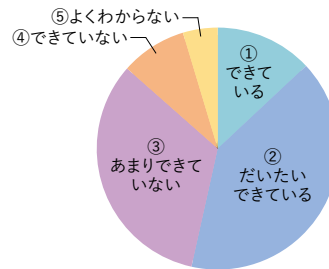
①できている	35	16.3%
②だいたいできている	93	43.3%
③あまりできていない	70	32.6%
④できていない	10	4.7%
⑤よくわからない	7	3.3%
合計	215	100.0%



**(7) 防災**

地形・地質の特徴から起こり得る自然災害を想定し、防災・安全対策、防災教育に取り組むことができますか。

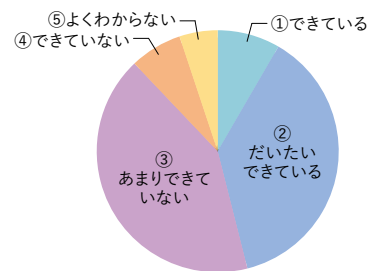
①できている	28	13.0%
②だいたいできている	87	40.5%
③あまりできていない	71	33.0%
④できていない	19	8.8%
⑤よくわからない	10	4.7%
合計	215	100.0%



**(8) ネットワーク活動**

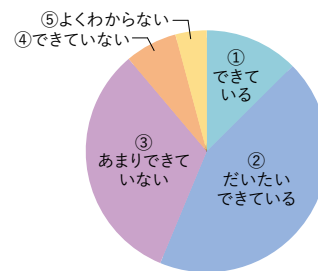
**(8)-1 地域ぐるみの活動を推進するため、地域住民とのネットワーク活動に取り組むことができますか。**

①できている	18	8.4%
②だいたいできている	81	37.7%
③あまりできていない	90	41.9%
④できていない	15	7.0%
⑤よくわからない	11	5.1%
合計	215	100.0%



**(8)-2 活動を発展し、ジオパークの仲間による互いの経験や知識を共有するために、他のジオパークとのネットワーク活動に取り組むことができますか。**

①できている	27	12.6%
②だいたいできている	94	43.7%
③あまりできていない	70	32.6%
④できていない	15	7.0%
⑤よくわからない	9	4.2%
合計	215	100.0%



## (9) 自由記入欄 (原文のまま掲載しています)

### ①あなたのジオパーク活動における問題点

- 効率的なガイドマネジメント。
- メディアやパブリッシング素材のデザインやディレクションにおいて、頼れる専門家がない。
- 「隠岐といえば」といったテーマの共通認識がない。地質、生態系、文化の3要素があることに、無駄な誇りや特別感を持っている
- 組織、会社としてのあり方に欠陥があり、緊張感を持って仕事に取り組める環境でない
- 多面的な活動ゆえ、一つのことに力を注げないのが悩ましい問題(二足の草鞋になってしまう)
- ジオパークに関する認識の違い(観光がメインと勘違いしている人も多い)
- ジオパーク活動という認識がまだ少ないかと思えます。住民にジオパークは協働でつくりあげるもの。という認識を普及していかないといけない。
- 昨年1年間、ジオガイド養成講座を受講しジオガイドに認定していただいたばかりですので、正直まだ問題点等を理解したり考えたりする境地に達していません。
- 事務局の人的予算的体制の不十分さ
- 仲間づくりが不得意
- ガイドの経済的自立
- 活動母体である銚子ジオパーク市民の会のジオガイドなどの活動メンバーが、市民の会結成時('12年)とほとんど変わっておらず、新しい方若い方の参加が少ない。このため活動母体としての永続可能性に問題あり。
- 日本においてジオパーク事業を推進する際、地方自治体が補助金を出して推進協議会を組織し運営する、という形式が取られることが多い。その際「ジオパーク事業=観光によるまちづくり」と理解し、そういう方向で地域住民に理解を求める傾向が強いように

### ②あなたの地域で考えているジオパーク活動とは何ですか？

- ボトムアップアプローチ、地質遺産の持続可能な利用、再認定審査制度を通じて、環境保全へのインセンティブを保持するための活動。また、環境保全へのインセンティブを働かせるひとつの手段として、経済メカニズムを活用すること。
- 良くも悪くも離島環境であることから独自感が強い。島民が隠岐に誇りを持つために地域の成り立ちを知ってもらうという理念がある
- ジオパークの定義を満たす活動には遠い。
- 保全を念頭に置いた活動として位置づけられているが、実際には人と人との結束力(ボトムアップ)や地域に関する知的好奇心を高めることに重きが置かれている。
- 地球目線で、地球に寄り添い活動すること。活動をとおして、人々の生きる力・考える力を与えること。行政が行うにあたり、防災や教育により行政コストの削減を目指すこと。
- 地球の活動を自然の摂理として正しく理解し、地球上の生き物とともに安全で平和に生き続ける人を育み、人と思いをつなげ、協

思われる。しかしジオパークの理念は単に「観光によるまちづくり」だけではないことは、ユネスコの発行するガイドライン等からも明らかである。

活動を続けていく中で、住民らは「思っていたような経済的な効果がジオパークでは生まれない」という感想を持つようになり、ジオパーク担当者が目指すジオパークのあり方との乖離が大きくなるように思われる。さらに日本ジオパーク認定地域においては、ユネスコや世界ジオパークネットワークが主催する研修会や国際会議等に言語や予算等の問題から参加しない(できない)地域も多く、そうした乖離がなかなか埋まらない。その結果が天草のJGN脱退だろうと思う。

ジオパークに着手する際に、ジオパークのイメージのみで活動計画や理念を設定してしまうと、上記のような状態からなかなか抜け出せず「お金(税金)だけが出ていくのみ」という見方をされる状況になってしまうように思われる。

海外の事例等をもとにみるとジオパークとは公の事業であり、地方自治体や国が直接運営している。ジオパーク事業を実施することは、市、町、県全体でその理念を共有しておく必要があり、例えば「ジオパーク推進課」のような部署だけが理念を共有してそれに基づく事業を実施すればいいということではない。それが自治体の長が理解していない場合も多く、ジオパーク理念に反するような事業が、同じ行政区の中で実施されたりすることは避けなければならないが、なかなか理解が浸透しない。

10年経ち、上記のような理解のズレ(ユネスコが目指すジオパークのビジョンと、地方自治体、地域住民がジオパークを通じて実現したいこと)が大きくなってしまっている。個人的にはジオパーク事業を土台に地方自治体のあらゆる業務や事業は実施されるべきであり、自治体でジオパークを推進することになった場所は、そういう覚悟を持って取り組むべきだと思う。

- ガイドを行う場所がA地点B地点C地点つながっていないのが島根半島であり一か所に行くともた途中まで戻らねばならず交通の便がわるい。県や市も根本的な対策を練っていないようだ。

働で活気ある未来をつくることです。

- まだまだ小さい活動ではありますが、私の住む町を活気付けたいと、魚津ヶ崎公園と言う壮大な景色が望める観光スポットで、地域の方と一緒に小さな道の駅のような店舗の運営に携わっています。店内にはジオコーナーを設け、来店した方やSNSを見た方が少しでもジオに興味を持っていたらできるよう、写真やパネル、岩石標本、子どもでも分かりやすい説明などを展示しています。また、私自身ジオガイドとして活躍できるよう日々、学んでいます。
- 地域の教育、地域の歴史的文化的文化財の保全と活用、地域経済の振興等と連携できる活動
- すみません。質問の意味がよくわかりません。自分の地域が考えている事となると、多様です。自分の地域における活動となれば、風土を意識した情報発信や清掃、災害ボランティア。
- 雲仙普賢岳災害時に全国各地から頂いた支援に対する恩返し
- まず、銚子市民に銚子の魅力を再認識して頂き、銚子愛を高めたい。

### ③あなたは、ジオパーク活動で、地域をどのようにしていきたいですか？

- 国際社会共通の理念に立ちながら、当ジオパークの独自性を明らかにしていくこと。
- この地域しかないものや、学術的に面白いものを発掘して地域に知らせていきたい。
- 人々に生きる力・考える力を持ってもらい、持続可能な地域社会とする。
- この地域を、自分たちの大切な宝物として守りながら、教育・防災・産業振興などに持続可能な取り組みを行います。他地域等とのネットワークを活用し、魅力を伝え続け、活躍する人を育てる地域にしていきたいです。
- 地域の方々がまずは自分の住む町の成り立ちや歴史、文化、太古

から繋いできた知恵のこもった暮らしなどを知り、興味を持ってもらうことから始め、この地で誇りをもって生活していただきたいことと、地形や風土などから、どのような災害が起こりうるのかなど知識を深め、一人一人がその知識を防災活動に役立てるようになってほしいと思います。

- 市内外の人々にとって独特の特徴を感じられる存在感のある地域、人の集まる地域
- 自分以外の命、物、事象に思いを馳せ、受け入れ、切磋琢磨できる地域
- 経済的活性化
- まず、銚子市民に銚子の魅力を再認識して頂き、銚子愛を高めたい。

### ④あなたの今までのジオパーク活動で地域はどのように変化しましたか？

- 地域社会の課題意識が共有され、自発的に課題解決に取り組む人が増え、地域コミュニティの活性化や人的交流につながっている。
- 環境ツーリズムの需要の掘り起こしが進んでいる。
- ジオパークの認知度・関心は向上し、Uターンも若年層を中心に増加
- 住民のジオパークへの参加は低い。ガイドですらジオパーク活動は推進協がやるもの、という認識が滲んでいる
- 生態学者がこれまでにいなかったこともあり、新鮮な知識を多くの市民へ発信できた。多くの市民が地域資源に興味を持ってくれた。
- 内輪の中だけではあるが、ジオパークの理念を理解してくれる人が増えることで、資源の大切さや防災教育の重要性などがわかる人が増えた

●私は、まだジオパークとは関わりが少ないのですが、周りの方々の頑張りにより、ジオパーク活動が地域に普及しつつあると思います。いずれは、住民全体で「ジオパーク」を意識し、共通認識と主体性を持ち活動していきたいです。

- まだ活動を始めたばかりですので、正直変化は感じておりません。
- 関わってきた子どもたちが、志の有る大人に成長し、教えられることが多くなってきた。少しは、活性化に貢献出来たかな…
- 海岸清掃活動によりゴミが減り、銚子に来られたお客様に自信をもってガイド案内ができるようになった。
- 小学生の授業にジオパーク教育が加わり、徐々に若い人にジオパークが浸透しつつある。

### ⑤あなたは、今、なぜ、ジオパーク活動に取り組んでいますか？

#### (あなたが、ジオパーク活動に取り組むそもそもの理由)

- グローバルな価値観を共有しつつも、地域にあるユニークなもの評価され、尊重される社会であってほしいと願うから。
- 「自分たちの地域さえよければいい」という地域主義に陥らず、人類共通の理念に立ち、他者に共感し、異なる価値観への寛容さを示して平和を築いていくことが、地域が存続するための道だと思うから。
- (個人として)大学時代から志していた業界だから
- 地域の方に親切にされてやりがいのある活動だから。
- このままでは、将来の人々が安心して暮らせる持続可能な社会にはならず、気候変動や自然災害によって、多くの人に不利益がある可能性がある。今の社会をもう一度見つめなおし、循環型の社会、人々が自立して考えて行動できる社会に向けて、取り組んでいきたい。
- 地域のことを知らずに社会出ていくより、きちんと認識したうえで社会に出ていくとでは、人生への向き合い方が大きく違うことを知りました。次世代の子どもたちには、自分の故郷について学んだうえで、社会に出ていてもらいたいと考え、その取り組みが出来るのがジオパーク活動だと感じ、取り組んでいます。
- 今まで大切に守られてきた伝統や、地域資源(数少ない限りあるもの)を大切にすることを、継承できるようにジオパーク活動に取り組んでいます。そして、魅力を広く伝え地域の活性化に繋がってきたいためです。
- もともと自然が好きではありましたが、2年前のジオパーク認定に向けての活動から、ジオに興味を持つようになり、その後ジオガイド養成講座で五島の成り立ち、岩石の種類やでき方、地形など学ぶにつれ、遙か遠い昔から繋がる「今」がとても不思議で感慨深

く、現地に足を運ぶたび感動の連続で、今の私の人生を彩るものとなっています。まだまだ未熟で、人をガイドできる力はありませんが、自分なりに楽しみながら活動していけたらと思っています。

- 定年退職後の時間的余裕の中での地域貢献、ジオパーク活動への強い興味
- 自然災害の被災体験やボランティア活動を通じて感じたことを忘れてはならないと思っているので
- ガイドを通じて、社会への恩返し
- 銚子の豊かな自然に感謝し、銚子の歴史・文化を大切に、銚子に住む人たちがお互い思いやり、心の平和を感じる郷にしたいため。
- 当地域では、持続可能な開発の一環である太陽光パネルの設置が企業により進んでいますが、その太陽光パネルが美しい景観を壊すとのことで問題となっています。元来生物は自然と共存して生きてきましたが、人類の歴史を辿ればどれも自然を、地球を支配・コントロールしようという動きが見られ、それにより多くの生物が絶滅し、山が削られ海が埋め立てられてきました。その中で人類全体の価値観を見直す一端となり、より多くの人に問かけることができるのが、ジオパークだと思っています。
- 近年多発する自然災害も、世界的な環境問題も、地球にかかわる問題であり、持続可能な世の中をつくるためにはすべての人が地球について学ばなければならない。そのための現在知りうる最も有効な手段がジオパーク。
- 地球と自然と地域の共存を目指して、持続可能な「まち」を未来を担う世代に伝えるために、ジオパークの保全活動や楽しく学べるジオツアーを企画実践したいから。

## ⑥その他

- ジオパーク格差が、はなはだしい。
- まだ、ジオパーク＝地形・地質のという考え方が、定着しているところが多い。
- 拠点施設が、岩石博物館のようなところがある。
- ジオパーク、イコール地域振興や教育を行っていくツール(手段)でしかない。
- 多市町が、地域を超えて連携している。
- やりがいがあり、面白いから。
- まだまだジオパーク又はジオパーク活動を目的とする観光客が少ない。
- ジオパーク活動とは、ジオパークを守り又は育てようとするすべての活動
- 保護保全や教育は浸透してきたので、活用による経済の活性化を促したい。
- 自然環境や地球環境を保全することで経済や文化の活性化を図る又は保全しながら活性化するという「持続可能な発展」の考え方が首長や自治体に徐々に浸透してきた。
- ジオパーク活動による経済発展や、現代文化によるジオパーク活動など、ジオパーク活動には無限の可能性があると同時に、未開の分野も多く残っているように思う。(ジオパーク活動の可能性を広げたい。具体的な取り組みはできていませんが…。
- まだまだ知識が薄くて人に伝えられない。
- 「地域を誇りに思い、この地域で生きぬく」ために、地域資源のつながりを存分に活用した、この地域ならではの持続可能な地域社会の実現。
- 地域の魅力を知り郷土愛を持って地域のために活動する人々が多くいる地域にしていきたい。
- まだ地域を変えることはできていない。
- 人口が減少していくなか、どうにかしてこの地域を残していきたい。
- 活動を始めたばかりで、学ぶことも、伝えることも、ネットワークづくりもまだまだこれからという状況。
- 観光に携わっていることから、ジオパーク活動は、当地においての観光産業を単なる物見遊山から脱却させるための足掛かりとしてとらえ、日々の業務に活かしている。
- 上記の答えと重なるが、ジオ的な視点を盛り込むことで、当地の価値をもっともっと高めていければと思っている。
- 自分が活動するので精一杯で、地域を変化させるまでには至っていない。
- 分かり難い、伝えにくいとされる当地の魅力を伝えたり、ブランディング化に、ジオ的視点は欠かせないと考えているから。
- 教育・防災・観光の観点で、地元地域の魅力と、防災の情報発信に貢献していきたい。
- 他のジオパークとの交流により、自分の地域だけでなく日本や世界とつながり、ジオの魅力を伝えることを続けたい。
- 地域の様々な団体や個人とツアーを通して繋がりを持つことができつつある。防災教育を含む、地元地域の魅力を伝えることで、理解が深まりつつあると思う。
- 問題点は、エリアが広いことで、関わる人や地域により、考え方も多様となる。良い点ではあるが、物事が進みにくいこともある。ジオパークの活動の真の理解者、仲間を増やすことは、なかなか難しくもあるが、大切なことだと思う。
- 未来への懸け橋。子供達の教育に、ジオパーク活動は特に大事にしていきたい。
- 県域を越えたパークエリアで連携が困難(コロナ禍でなおさら)
- 火山活動が及ぼす自然とくらしへの多様性のPR(ガイドとして)
- ジオ資産を誇りに持てる地域にしたい
- 点的な活動では地域(住民意識)は中々変化しない。マンパワーが不足
- 火山地域の住民として、基盤であるジオとその恵みの大切さ、くらしとのつながりの面白さを子供たちや地域にしっかり伝えていきたい
- 問題点は行政が運営しているため自由が利かない点。
- ジオパーク活動を通して、島民が当たり前だと思っていた風景に価値を見出せてきた。
- 私はこの活動を通して、何も無いと言われていた島からお客様がまた来たいと満足度を感じられる島にするために日々活動を続けています。
- 10年以上頑張ってジオパーク活動に取り組んできたが、それが地域にどのようなインパクトを与えているのか、実感がない。手ごたえも感じない。
- これまでもジオパーク活動は、行政やガイド協会などの努力で一定のレベルを維持してきたと思います。ここ数年は、より学術的根拠に基づく教育を広めることに力を入れてきました。もう少し、人手が欲しいと思いますが、それは周囲に同志を広めていく取り組みが必要と考えています。
- コロナを契機に団体活動に二の足を踏む雰囲気は阻害要因です。それぞれの立場でジオパーク活動に取り組む熱意はあるものの、時節柄なのか急ブレーキを踏むような中止中止の連続でガイド活動にも疲労感が漂う印象です。このようなコロナ禍にあって、ジオパークの本旨がますますクローズアップされるべきと考えており、「今、ジオパークを動かさないでいつやる?」「ジオパークを止めるな」の思いでいっぱいです。ジオパークを通じて一番大切にしていることは「人を動かすこと」なのです。(感「動」、運「動」、活「動」、行「動」)
- コロナ禍の中、活動機会があまりない。地域の人が消極的だったり地域の価値をあまり分かっていないのでこちらが活動を行っても地域に対しては無意味に終わる事が多い、自身がガイドできる場所は交通の弁が極端にないため観光客が来ない。
- 自然が好きなので、地域を盛り上げたい気持ち、地域を知って欲しい気持ち、ジオのことを理解したい気持ちはあるものの、自分としては形式に囚われすぎず特性があり、指導員としての何か明らかに分かっていないため、指導員としての資格を生かす事ができない。あまり歩く事が得意ではないため、積極的に活動を行えない面があり、貢献できていないと不安になる
- コロナ禍の中、市民の会の活動(ガイド、勉強会、交流など)は自粛せざるを得ないのが現状です。
- ジオガイドの会に所属しているため、ガイド活動を通じて、地域の方・参加者の方に対し当ジオエリアの魅力を伝えることはもちろん、参加者にとって身近なジオに興味・疑問を持ってもらえるような案内をしていきたい。
- ジオガイドを通し、地域や次世代の子供達などに地球からのsosや持続可能に繋がる事柄を伝えていきたい。
- 桜島ジオサルクの構成員としてのジオガイド活動のほか、市ボランティアガイドとして桜島フェリー・よりみちクルーズでのガイド等で、桜島・錦江湾ジオパークを、なるべく地形・地質、自然、海、産

業、歴史・文化、人の6つの面の「つながり」を意識してお伝えしたいと考えています。企画や地域活動等桜島ジオサルクが組織としての取り組むことには、高齢ながら、時間の都合等がつけばなるべく協力・参加したいと考えています。

- ジオストーリーによってジオ・エコ・ヒトのつながりを、一般の方にもわかりやすく紹介ができると感じています。しかし、地域振興策の一環としてジオパーク活動に取り組んでいますが、ガイド養成やツーリズムの整備などに課題を抱えています。ジオパーク活動の趣旨や意義には賛同しますが、特定の職員やスタッフに依存するところが大きく、長期的に組織運営を維持させるための工夫が必要であると感じています。
- ジオの保全を行政に働きかけているが、なかなか動いてもらえない。大学の教授も行政に長年働きかけているが、動かない行政に困っているそうです。市や県が、動かないのであれば、国に動いてもらいたいと思っています。
- ジオパークガイドを通じ、地域の魅力を伝えているが、理解してくれるのか分からない。地域の魅力を伝える。狼煙・廻船・地域の歴史・古文書から知った地元の津波の様子をガイドしている。津波被害の話や、防災について考えてもらうようにしている。地域の変化は分からない、でもお婆さんチームにジオ紙芝居を見てもらったら面白かったと言ってくれた。ジオパーク活動になるのだろうか語り部を小学生等に30年以上前からしてきました。林業・森・動物の話(オオカミ・捕鯨)。
- ジオパークという言葉に囚われないジオパーク活動を地域のプレーヤーと目指しています。
- ジオパークによる経済振興を目指すための手段・手法
- ジオパークに関わってはや数年。地球科学を通して地域や世界を見る楽しさや新たな出会いなどに喜びを感じています。しかし、ジオパークの掲げる高い理想と地域の現実とのギャップ、高い意識とモチベーションを維持して走り続けることの苦しさから、事務局スタッフとしてしんどさを感じているのが正直なところです。
- ジオパークの運営がお役所主体で官僚的になっている。ボトムアップの運動にはなっていない。
- ジオパークの基礎である、筑波山地域のジオの魅力をもっと上げる必要がある。
- ジオパークの言葉が地域住民には馴染まないまま進んでいる。元々地域の人々は火山の恵みと災害に対応する生活を送って来ていました。「ジオパーク」ありきでなく、地域に根差した、地域の資源を活かした活動を表に出して行きたいです。
- ジオパークは堅苦しいものではなく、生活に身近なものであることを多くの人に知ってもらいたい。
- ジオパークをフィルターとすればあらゆることを融合できるのではと考えている。あとはどのように実行することが有効なのか突き詰めていきたい。
- ジオパークを利用して、過疎化の深刻な地元が存続していけるような発展的な活動をしていく地域。
- ジオパーク活動によって持続可能な地域づくりをめざすが、その地域の活動にとどまらず、地球規模の課題解決のツールであることを忘れてはならないと思う。
- ジオパーク活動の分野が幅広いため、それらを横断的に取り組んでいくことが難しい。
- ジオパーク活動も、それに関わる自分自身もこれからが本番と考えています。さらに知見と繋がりを深め、地域(五島)の大地の物語と魅力を発信し、多くの方々に知っていただき、来ていただけるよう努めたいと思います。
- ジオパーク講座や学習は行っていますが、地域でジオパークを推し

て盛り上げていこうという状況ではないので、そこを何とか改善していきたいので、他地域の事例などが聞けたらいいと思います。

- だいぶ浸透してきているところに、コロナ禍となり、思うようにツアーが出来ない
- とくに若い世代の人材育成(民間活力を含む)が持続的発展の鍵だと思っています。
- とにかく、活動している人達が元気になっている。また、ガイド活動をはじめから、少しずつだが依頼も増え、収入も上がっている。全てにおいて、驚くような変化はないが、これまでの活動の結果が小さいが確実に見えてきていると感じる。
- なぜ活動に取り組むか?地域の役に立ちたいから。
- ほとんどの項目で「よくわからない」と回答しましたが、それぞれに真摯に取り組んでいると思いますが、評価すべき定量的な物差しを持ち合わせていないので、前記のような回答になってしまいました。
- ボランティアガイドとして楽しもうとする考えと、プロガイドとして収入を得る目的の考えがあり、今後の活動方針を検討中である。また、阿蘇ジオパークガイドと阿蘇火山博物館を中心とした阿蘇ガイドクラブやその他のガイドクラブが存在しており、ガイドレベルやエリア、料金体制などが、ガイド組織として一体化していない。(ジオパークガイド協会としては出来るだけの対応はしているが、ジオパーク推進事務局運営も含め、行政の課題・責任でもある)
- まず自分自身がジオパークを楽しんでいるので、その楽しさや意義を伝えたいという思いからガイド活動に参加しています。しかし、自分の仕事が以前よりかなり多忙となっており、最近あまり活動できなくなりました。3年後に定年退職を控え、これからの活動を考えていきたいと思っています。
- まだジオパーク運営に携わるようになり4か月ですが、担当業務は地域とジオパークを繋げること、ジオパークと観光を繋げることになっております。地域が重ねてきた文化を改めて皆さまに知っていただく活動に地域の方に参加いただいたり、このような地域の方が行う活動がジオパークとしての観点を持っていることがまだまだ浸透していないため、私どもがともに参加・協力することで、ジオパークって人の文化でもあるんだということを改めて周知しております。今後は、地域の方々が「この活動もジオパークなんだ」ということを知って、「地元」「ふるさと」のための活動になっていると認識していただけるようにバックアップしていきたいです。また、ジオガイドの活躍できる体制がまだまだ構築できていないため、体制の構築と、「ジオガイドを依頼して観光地を周遊する」という楽しみ方を来訪者に伝えられるように取り組んでいこうと考えております。
- まだ新入りガイドです。学習する事が多すぎて、対応出来ないジレンマで一杯々です。早く現場でガンガン活躍出来るようなガイドを目指し、日々精進して行く所存です。
- もっと地域の人たちといっしょに取り組めるような仕組みを構築したい。
- 活動について一部の住民やファンには広がってきたが広く普及させるころに至ってほしい。また、学術的知見をもっている人々と幅広い交流がまだまだ足りない。また、持続可能な地域を目指す点において、ジオパークの取り組みがもっと市場にのるような仕掛けがまだまだ足りない。ただし、それらに対する道筋は見えているので、取り組みを加速させていきたい。
- 観光として景観を楽しみつつ、教育的な部分もしっかりと楽しむことできる点が素晴らしいと思う。
- 観光協会職員として本来はジオパーク活動にも積極的に取り組んでいかないとはいけないと思っはいるものの、実際にはどう関わっていくかという基本的なところから実践できていない



- 観光業を活用した、地球視点の環境教育・対話の場づくりと運営、仕組みづくりに挑戦中です。Ento(エントウ) 隠岐ユネスコ世界ジオパーク 泊まれる拠点施設〈2021/7/1open〉 の設立・運営コーディネーターとして日々活動しています。https://www.facebook.com/107525644808452/posts/176996434528039/?app=fbl
- 汽水域の生き物を中心とした環境学習を行っているが、ここに集まる人々からの知識や情報で、多少なりとも深みが増したと思う。
- 研修会には参加しているが、実際の活動はほとんどできていない。早くコロナ禍が収まってほしい。私が力を入れたいのは、外来生物の浸透を防ぐこと。そのための広報などをしていきたい。
- 行政で取り組んでいる取組にはジオパークの精神に貢献する活動もあるが、それに「ジオパーク」というラベルを貼り付けにくい(ジオパークでなくてもその活動は行われるので)
- 行政と現場が離れているので、どうしても連携不足になってしまう。人口が400人以下と世界最小規模のジオパークとして、島を持続可能なものにするため、島の魅力をジオパークを通じて島内外に発信し、郷土愛の醸成や島に興味を持ちたり定住者を増やすために取り組んでいます。ボトムアップの取り組みが徐々に増えており、島でのアピール、島外でのアピールに繋がっている。活火山がある島なのですが、防災啓発等についてまだまだ取り組めていない。そこを強化していきたい。
- 高齢化が進み若い人がなかなか来ない。ジオパーク活動は地域の宝を探し守り伝えること。
- 今回の質問内容からもジオパーク関連施設の悪い所が出ているように感じます。関わっている人はみんなが専門的な知識に特化しているわけでもなく、魅力を発信するための手段としてジオを学んでいる人もいるわけで、質問内容が偏り過ぎているように感じました。もっと簡単にもっとたくさんの人に知ってもらおう糸口はそこからではないかと強く思います。
- 今年、ジオパークの拡大地域に認定されたので、今後ジオパークの活動が地域へ広がっていくようにしたい。
- 昨年度にエリア拡大の認定を受け、教育、防災、観光分野とこれから活動を深めていく段階にあります。地域で現在活躍されている方々と連携を取りながら、桜島錦江湾の魅力をお子達に伝え、地元へ愛着を持ってもらうこと、そして域外の方々に興味を持っていただけのような魅力発信を行うことに注力していきたいと思えます。
- 私が今、取り組んでいるのは、ジオ的要素だけに捉われず、その地域の歴史、文化を含めた幅広い地域の”強み・特徴”などをウォーキングを通じて、幅広く多くの人々に発信すると共に、地域の活性化に繋げて行く様にしています。尚、この様な活動を会員(ジオガイド)を集め、6年前から実施しています。
- 私は、ジオパークの中で役立つようなバックグラウンドは何もなく、自分の地域のことを何もわかってない住民だったのですが、ジオパークに関わることで、噴火が起きることも地震が起きることも納得でき、まだ完璧ではないですが、正しく恐れることができるようになりつつあるのではないかと思います。災害を避けることは難しいですが、自然現象が起こることと地球の活動に納得できる力が一番必要なのかなと感じます。阿蘇はいろんな災害を経験し、きっとまたいつかやってくるものなので、そのように納得できる人がもっと増えるといいなと思えます。でも、それを人に伝える、共感してもらうのって本当に難しいです…。
- 私はジオパークがCMとかを打てばいいなと思っております。ACのような。
- 私はジオパーク活動を通し、そこに住む人がその地を大切に思い、誇りを持って住んで欲しい。次の世代の人々が、その土地の良さを認識し、ひいては、それが、その人の心の支えにもなって欲しい。
- 自らの住む地域を知り、誇りに思うようになることを起点にしてジオパーク活動を展開していきたい。五島自然塾の活動がきっかけ

になり、官民一体となったジオパーク推進協議会が発足したと自負しています。

- 自分の為に数年関わっています自分でも何もするのかよくわかっていないことが日々鮮明になって来ましたがただ籍があるだけで何もしていません何処に行ったら良いのでしょうか What am I.
- 自分の地域を知って、他の地域も知る、の繰り返しで、地元愛が深まる。ジオストーリーや、オンラインツアーなどみんなでわいわいアイデア出し合って楽しい!他のジオパークの方と知り合いになれば勉強になる。
- 自分も学びながら、関わった人たちが阿蘇に関心を持って貰えるとうい
- 質問項目が正直よくわからない。自分が所属するジオパーク全体の話なのか。関わっている組織なのか一個人なのか主語がないので。。正直そこによって回答は変わります。
- 実際にジオパークの活動に関わり始めて、ジオパークの活動って幅広いなと感じました。ジオパークの理念、活動をより広く市民の方々に知ってもらって、ジオパーク活動に参加してもらい、地域づくりに繋がってほしいと思います。
- 若い人たちにも、この地域は地形地質の観点でも素晴らしい魅力があるということをもっと伝えられたらと思う。あと、他のジオパークとの関わりをもう少し深めたいと思います。
- 取組理由:防災士として住民への啓発活動を実施しているが、ジオ(大地の生立ち、地質、地形)を理解して活動することが訴求効果大である。また、住民の興味も増大する。
- 出雲大社から三保神社までの沿岸42の神社を巡り一畑寺に参拝する島根半島四十二浦巡りを文化遺産として再発見し、島根半島の旅の世界を県内外に普及することを目指して、10年現地を案内するバスツアー、浦々の住民・郷土史家と情報交換する現地講座を34回開催した。

この間それらの情報をまとめた浦巡りガイドブック・広報誌30号の刊行を進め、各神社にスタンプ印を設置して、四十二浦巡りスタンプラリーを開催して、地域住民との関係を維持することによりスタンプ箱の設置協力等成果を収めている。

研究会としてはこの信仰習俗・文化をジオパーク活動に取り込んで頂き、島根半島の地域振興・観光振興に寄与すると考えて、ジオパーク活動に参加している。コロナ禍の中ではあるが、県内外からの訪問者が四十二浦巡り、ジオパーク、魚釣り・海水浴と様々な理由でむしろ増えている感があるが、駐車場・トイレ・感染症対策など課題も鮮明になっている。これら現地住民の悩みに向き合う姿勢がジオ推進協議会に見られないことは、官民挙げて取り組むジオパーク推進が住民に到達しない原因になっているのではないかと考える。ジオパーク活動が持続的に発展するためには地域住民の理解が必要不可欠であるが、この点では、情報収集を公民館・コミセンとまりではなく島根半島四十二浦巡りの浦々の自治会・神社総代会との関係性を深め、半島振興法による予算措置など積極的に取り組んでいくことが大きな課題です。

島根半島の人口減少は漁業離れもあり地域の大きな課題で、コロナのため集落活動の中心である祭礼も中止・規模縮小されており、今後の地域発展の見通しは明るいものではない。

島根半島沿岸では訪問者のためのトイレも不十分であり、神社の地域参拝者のためのトイレ・駐車場などをジオパーク訪問者のための利用を依頼する、島根半島南北の進入路の案内など地元と相談して看板整備を行うなどの取り組みを求めたいと思う。

- 小さい子供達から高齢者まで地元の地形、地質に興味を持ち防災意識に繋がるような活動を常に視野に入れている。難しい話ではなく、楽しい・美味しいといろんなことに自分が興味を持っていくことで周りの人を巻き込みたい。

- 少子高齢化の進展により中山間地域を中心に人口減少が顕著になってきたことから、地域主体の活動が衰退し、地域と連携した取組が推進できなくなっている。ジオパーク活動を通して住民の郷土愛醸成や人材育成、地域資源を生かした地域振興等に注力しているところであるが、なかなか歯止めがかからない。課題の根は深く、生活や交通の利便性、雇用や福祉など多様な問題と絡み合っている。同様の問題を抱える地域も少なくないことから、ジオパークを核とした対策について、ネットワーク全体で模索していく必要があると考えている。
- 上司、担当が定期的に変わるため、ジオパークに対する意識が低下していくと感じる。
- 身近なジオサイトの成り立ちや歴史を学び、若者に語り継ぎ、地域を保全しながら、住みやすさを保っていくことがジオパーク活動であると思います。
- 身体的障害を持っているので現在は十分な活動にはなり切れない。地域で取り組める活動として、宍道湖ジオサイト、古事記に記載されている玖夜神社内における潮汐堆積物が見られる露頭の保全と活用の活動を中心に行っていきたいと考えている。天倫寺裏と城西地区にある地滑り地形を活用した防災・減災の教育活動。斐伊川特有の河川水位の上昇とハザードマップの活用などの活動を通して住民が地域の地形、地質の特質を知り、そこでの生活を楽しむことができる活動にしていきたい。今までやってきた活動に触れた方々は問題意識を持つようになった。ジオパーク活動は、私にとって、また人々にとっての生活台そのものである。ジオの上に立ち、このパークで憩い、語らい、生活し生産活動を展開していく大地の恵みそのものであるからこそこの活動から離れられない。
- 世界ジオパーク加盟への取り組みで地域が一体となってやってきましたが、加盟後の継続的に活動を行うためのモチベーションの維持に苦労しています。
- 村起こし 町おこし 住民との共習
- 他県の人だけでなく、鹿児島に住んでいる人にもっと桜島や錦江湾の魅力を知ってもらい、皆で桜島と錦江湾や鹿児島を盛り上げていけるようになったら嬉しいです。
- 地域との連携、特に産業や商業振興の面でガイドの会やジオガイドが取り組んでいないと感じています。地質好き仲良しクラブではなく、お金を落とす仕組みや共生を具体的に考え取組むことを忘れてはいかんと、自身で行動していきたいと思えます
- 地域と連携はまだ時間がかかりそうです。
- 地域に目を向けて、地域の人たちが自分の住んでいる場所の魅力に気づき、地域を大切にしていきたいという気持ちを育ててもらいたい。そういう意識を醸成するための手法の一つがジオパーク活動であると思っている。個々の興味関心によって、どんな手法でも、尊重しあって、地域を見つめて、自分にできることを積み重ねていけるようになるといいと考えている。
- 地域のジオパークに対する理解を向上させたい
- 地域の方がジオパークについて興味・関心を持ってもらえるようにジオツアーや、ジオブランド認定商品を活用して、ジオパークの魅力を発信している。郷土愛の醸成を図るとともに、教育・保全・観光を軸とした持続可能な地域を目指している。
- 地域の魅力をもう一度見直し、どんな場所か聞かれたときに「ここは何もない地域」と答える人がいなくなることを目指して活動しています
- 地域住民のジオパークの認知度を向上したい。若い世代また新しい人材を迎えるための引継ぎ等運営の工夫をしたい。
- 地球の仕組みを知り、変化させていくものを学び100年先も私たちの意識に残る風景景観を後世に残し伝えるためジオパーク活動に取り組んでいます。が、なかなか地域に伝わっていかないので現状の問題点です。このような考え方をもっと地域で広め、普通になるような地域にしていきたいです。
- 地球の魅力を伝え、その地球を守るため、ジオガイドをしています。地球を守る活動の1つとして海岸清掃をしています。地域の方にも参加していただき、その意味をわかってもらえるよう続けて行きたいと思えます。
- 地質地形に限らず、五島列島は知れば知るほどおもしろい。もともと学生時代に五島で地質調査をやっていたが、就職後、五島に戻ってきて、調査対象だったもの以外を学んでいる。日本列島の西の端、東シナ海に浮かぶ離島、という立ち位置が、地質だけでなく、歴史、文化、生態系に強い影響を与えている。しかし人口は減る一方である。五島列島の魅力を掘り出し、住民に伝え、魅力ある五島を将来に残す活動を続けたい。
- 登録ガイド数に比べ実働可能なガイド数が少ない。語学対応ガイドを増やす必要あり。
- 当協議会は今年度新規認定申請を行うので、今後も更なる地域の盛り上げに取り組んでいきたいと思っています。また現在このようなご時世だからこそ、多くの人が多くの当たり前だった事に疑問を持ち、ツーリズムの本質に向き合える良い機会でもあったと思っています。ニュースタンドで生まれた価値観を「ジオパーク」や「国立公園」といったキーワードと共に育て、サステイナブルツーリズムを定着させていきたいと思っています。今はジオパークの目標のひとつであるネットワーク活動や現地を観る事が、オンラインばかりで物足りなさがありますが頑張っていきたいと思います。
- 特に学校教育現場での活動では、子ども達の地元地域への関心が高まった実感がある。
- 日本は元々自然との共存、人との共存でした。それが記紀風土記にあり日本神話にあると思います。神話の故郷出雲から古(いにしえ)の教えと関連付けながら世界に発信して行きたいです。
- 変動する大地に気づいていただくことで、地震などの災害の正しい認識を広げたい。
- 防災を中心にそれなりの努力を地域挙げてしています。ガイドとしても意味のある活動と思い、日々精進しているつもりです。いろいろな専門分野での先生方のお話も聞け、このコロナ禍の中でも学習出来る事を感謝しています。
- 問題点として室戸市の少子高齢化。また、青年層・壮年層・中年層のジオパークへの関心の低さ。
- 無償のボランティアガイドとの共存を模索中ですが、先行例があれば知りたいです。
- 問題設定について。通常時とは異なり、この1,2年はコロナ禍で国内外でのジオパークを取り巻く環境は変化している。未だに終わりがみえない状況にある。このことを踏まえれば、今回のジオパーク活動についてのアンケートの中身は必ずしも適切なものとは思えない。むしろ、コロナ禍で各ジオパークの運営がどう変わっているのかの状況把握と、ポストコロナでのジオパークの活動について皆さんがどう考えているのかについて問い、その結果を議論の素材とする必要があるのではないかと。あえて申し上げますが「世の中をみずくに惰性でやらないほうが良い」と思いますが如何か？

## 2 参加後アンケート項目と集計結果

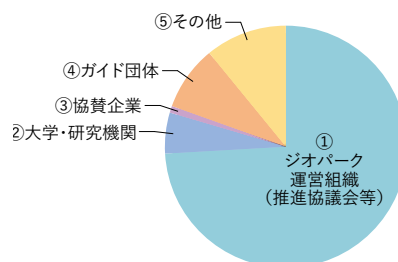
### (1) 基本情報

(1)-1 地域名 52地域、220人回答（回答地域数は、JGN正会員及び準会員56地域の92.8%）  
（回答者数は、全国大会参加登録者643名の34.2%）

アポイ岳	3	箱根	7	栗駒山麓	1
洞爺湖有珠山	2	佐渡	2	下北	2
糸魚川	3	銚子	2	筑波山地域	11
南アルプス	2	伊豆半島	1	浅間山北麓	4
山陰海岸	15	八峰白神	1	鳥海山・飛鳥	6
室戸	3	四国西予	6	萩	3
島原半島	4	ゆざわ	11	土佐清水	2
恐竜渓谷ふくい勝山	4	三陸	5	蔵王	1
隠岐	7	おおいた姫島	4	飛騨山脈	1
阿蘇	4	おおいた豊後大野	4	十勝岳	4
白滝	2	三笠	1	東三河	2
伊豆大島	4	桜島・錦江湾	6	那須烏山	1
霧島	3	とち鹿追	6	三好	5
磐梯山	2	南紀熊野	11	五島列島	1
下仁田	2	立山黒部	3	上川中部	1
白山手取川	14	苗場山麓	2	島根半島・宍道湖中海	4
秩父	2	Mine秋吉台	4	その他	15
男鹿半島・大潟	3	三島村・鬼界カルデラ	1	合計	220

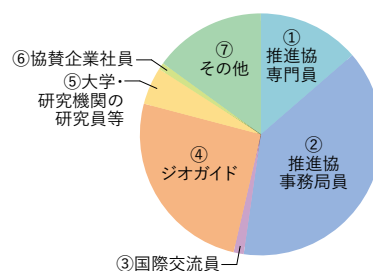
### (1)-2 所属している団体

①ジオパーク運営組織（推進協議会等）	163	74.1%
②大学・研究機関	12	5.5%
③協賛企業	2	0.9%
④ガイド団体	19	8.6%
⑤その他	24	10.9%
合計	220	100.0%



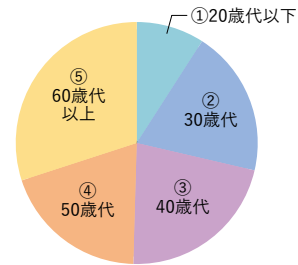
### (1)-3 役職

①推進協専門員	30	13.6%
②推進協事務局員	85	38.6%
③国際交流員	3	1.4%
④ジオガイド	56	25.5%
⑤大学・研究機関の研究員等	11	5.0%
⑥協賛企業社員	2	0.9%
⑦その他	33	15.0%
合計	220	100.0%



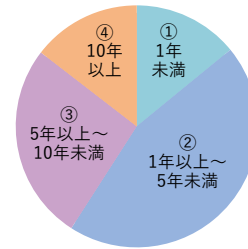
### (1)-4 年齢

①20歳代以下	20	9.1%
②30歳代	43	19.5%
③40歳代	48	21.8%
④50歳代	43	19.5%
⑤60歳代以上	66	30.0%
合計	220	100.0%



### (1)-5 ジオパークに関わっている経験年数

①1年未満	31	14.1%
②1年以上～5年未満	99	45.0%
③5年以上～10年未満	58	26.4%
④10年以上	32	14.5%
合計	220	100.0%



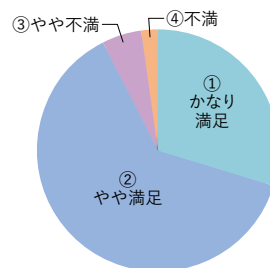
### (2) アンケート記入者が参加したプログラムをすべて選択

プログラム名	参加者数	アンケート回答者 220人に対する参加割合
①10/2 オンラインジオツアー「島根半島から満喫ジオツアー！」	63	28.6%
②10/3 市民公開講座	37	16.8%
③10/3 市町村長セッション	70	31.8%
④10/4 開会式	144	65.5%
⑤10/4 特別講演「小泉八雲、「ジオ」へのまなざし」	120	54.5%
⑥10/4 基調講演「過去から将来への沿岸環境と人新世」	111	50.5%
⑦10/4 基調提起「みんなでつくるジオパークネットワーク」	105	47.7%
⑧10/4 ポスターセッションコアタイム	71	32.3%
⑨10/4 グループトーク	72	32.7%
⑩10/4 分科会(保全・保護)	28	12.7%
⑪10/4 分科会(担い手育成(学校教育))	39	17.7%
⑫10/4 分科会(社会貢献(防災))	42	19.1%
⑬10/4 分科会(ネットワークの意義・活用(地域内のネットワークづくり))	39	17.7%
⑭10/5 分科会(保全・保護)	22	10.0%
⑮10/5 分科会(担い手育成(地域住民))	36	16.4%
⑯10/5 分科会(社会貢献(ユニバーサルデザイン))	19	8.6%
⑰10/5 分科会(ネットワークの意義・活用(ジオパーク同士のネットワークづくり))	21	9.5%
⑱10/5 分科会(地域振興(ツーリズム))	44	20.0%
⑲10/4、10/5 オンラインインタープリテーション講座	13	5.9%
⑳10/4、10/5 おもてなし動画上映	36	16.4%
㉑10/5 パネルディスカッション	112	50.9%
㉒10/5 閉会式	119	54.1%
㉓ブロック別パビリオン(大会特設ページ)	45	20.5%
㉔展示ブース(大会特設ページ)	22	10.0%
㉕ポスターセッション(大会特設ページ)	60	27.3%
㉖全国のジオパーク特産品販売(大会特設ページ)	19	8.6%

### (3) 本大会の満足度について

#### (3)-1 オンラインジオツアーは満足できる内容でしたか。

①かなり満足	28	29.8%
②やや満足	59	62.8%
③やや不満	5	5.3%
④不満	2	2.1%
⑤不参加	126	-
合計(不参加除く)	94	100.0%



#### (3)-1 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

##### ①かなり満足

- ガイドさんのご説明がとてもわかりやすかった。
- ガイドさんの実力を感じました。また、映像コンテンツとしても楽しめるものでした。
- 出雲、松江に行きたくなりました。映像が良かったのかな。
- 準備がよく整っていた。
- オンラインならではのアイデアを用いた大会であった。
- 案内していただいたガイドさんたちの個性が、とても好印象でした。
- 景色が美しかったから。
- 楽しく参加することが出来た。旅をしているように感じられた。
- 構成がよく練られており、チャットを通じて質問に答えてもらえるなどは、オンラインならではの醍醐味。出演者らの息の合ったやりとりにより、楽しい緊張感とライブ感が伝わってきた。自分があたかもその場にいるような感覚が味わえた。出演者らが個性派揃いで、地域の魅力を引き立てていた。
- 短時間で広範囲のジオサイトを観ることが出来た。
- 初めて知ることが非常に多かったから。
- 複数のガイドさん達が個性豊かに、得意分野でガイドされていたこと。

##### ②やや満足

- 映像が良かった。
- 録画ツアーでもよかったかもしれない。
- かなり工夫が見られた。
- 現地に行けなかったのは残念ですが、オンラインで可能なことをかなり多く実現でき、議論・交流もできたから。
- 気になるところは多々あれど、一所懸命なガイドさんとたくさん会えたので、よかった。
- 説明して下さるみなさんの一生懸命さが伝わりました。
- オンラインより現地見学をしたかった。
- バラバラでまとまりがなく、せっかくの景色の意味が物語として伝わらない。面白そうな語りができそうなガイドもいたが、そのタレントが活かされていない。「【吉田くん】島根のジオパークが面白過ぎて眠れない」のテキストとは異なるだろうが、ざくっとこの場所がなぜこんななのか、という大地の物語が透けて見えないと、単なるバスガイドに感じてしまう。ツアーで不安になったが、あのアニメを見て安心はした。このツアーで何を伝えたいか、そのためにどこでどう語るか、何を削るかを考えて欲しい。それと「断層が地下1000m」という言い方は、宍道湖沿いに存在が想定されている活断層のことを指すとしたら、地震断層が1000mという浅いもので

- 初めて島根半島・宍道湖中海ジオパークのサイトを詳しく見れた。一度実際に行って見たくなった。
- ガイドされる方の熱意とおもてなしの気持ちが一層リアルに感じられたため。
- オンライン開催だからこそ得られるものがありました。
- わかりやすく、興味がわいた。
- 皆さん明るくてホスピタリティに溢れておられ、ジオの厳しい面を越える魂を感じた。
- 私は防災士と言う立場で参加させていただきました。防災と言う共通の 카테고리を通じて、皆さんの意識や興味深く知らない内容がたくさん知ることができ、今後どのような形でジオパークと言う価値を町の人に伝えていくべきかを、考えさせてもらった気がします。
- 空撮が良くガイドも臨場感があった。
- 説明がわかりやすかった。
- コロナ渦のなかで、クオリティの高いものであったと思うから。
- ほかのジオパークのことを勉強に行きました。
- ガイドさんたちが明るくて、元気をもらえた。

はないはずである。地下構造探査で地質境界と思われるものが地下1000mまで追えるということをお願いののだろうか。何か、聞きかじった事実を誤解して伝えていると思われる。地震学会と活断層学会(JGASU後援)で行う、地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学5:『ジオパーク』×『活断層』(2021年11月1日開催)に参加されて、疑問点などをぶつけていただきたい。https://www.zisin.jp/org/organization\_standing16\_03.html

- ガイドさんたちが頑張っているのがわかったから。気になったところはメールをさせていただきました。
- 島根半島・宍道湖の魅力が伝わってきた。オンライン中継があると一層盛り上がったと思う。
- 現地に行ったような満足感はなかなかオンラインでは難しいですよ。。。
- 現地ガイドの場面と普段話しているであろう言葉が聞けてよかった。
- もう少し踏み込んで知りたいという気持ちになりましたが、現地に行ってみたくりました。
- オンラインでも参加できることがわかった。
- オンラインでも十分に楽しめる内容だった。

- 声が聞き取りやすかった。
- 実際に見てみたかった。
- 10/4 分科会は申し込み以外の分科会も視聴したかった。
- 島根半島・宍道湖中海ジオパークはこれまで訪れたことが無いので、オンラインジオツアーを見て実際に現地に行きたくまりました。ガイドの丁寧な説明も良かった。
- 内容が充実していた。
- 島根半島・宍道湖中海ジオパーク他、たくさんの方々の努力と協力によって、開催されたこと、いろいろな方々の意見が聞けたことがよかった。オンラインでも開催されることが分かり良かった。
- 分科会の議論と口頭発表を一緒にするのは、議論につなぎやすくて良かった。しかし、たまに目的は分かりにくくて、行動力がなかった。
- それぞれのガイドさんの個性が分かって面白かったです。
- 音声途切れたが、ガイドさんの和気あいあいの感じがよかった。
- 内容は面白かったが、オンラインという事もあり、ところどころ止まってしまったのが残念。
- 希望したものが全て視聴出来なかった。
- 全国大会参加の経験は初めてでしたが、オンライン参加ということで開催地の運営についてリアルな体験の部分を感じることが残念でした。
- 名刺交換ができない点がマイナス点。

- 皆さんの熱意を感じることができ、ハイブリッド形式もよかった。
- 駆け出しの自分が参加するにはハードルが高かったと思いましたが、たくさんを知ることが出来て楽しかったです。
- ガイドの皆さんの話し方がとても聞きやすく、また、質疑応答の際に明るく和やかな雰囲気が伝わってきたのが良かったです。
- ガイドの方が楽しそうに案内されていたのが印象的でした。
- 皆さん頑張っているのが判ったので。
- 現地に行きたかった。
- 島根半島宍道湖中海ジオパークの魅力(観光してほしいところ)を紹介していたため。
- 内容は興味深く良くできていた。
- 途中で通信が途切れることがあったが、内容については満足しているため。
- やっぱりリアルがよい。
- 神話とジオパークという視点が新しく感じられた。
- 移動手段の様子がバスや船を用いて映像に出されていたので、本当に現地に行っている感覚がもてたため。
- 風、他の参加者に遮られずに、説明が聴ける、景色が見られたので満足しております。ただし、直に景色を見て触れたいと感じました。
- オンラインながら、ガイドからは適切な案内がなされていました。

### ③ やや不満

- きれいな画像に丁寧な説明と、ガイドさん達の努力に敬意を表します。そういう意図だったのかとは思いますが、総花的にジオパーク内の主要サイトを順番に紹介して説明することに終始していて、自治体で作る地域紹介ビデオのような感じでした。サイトを絞って、島根半島宍道湖中海ジオパークならではの驚きや感動が伝わる「ツアー」にできれば素晴らしかったと思います。
- オンライン方式ではやはり議論が十分にはできない。とりわけ、休憩時間中や終了後などでの対話ができない故に、対話が未消化として残った。

- オンラインに変更したのもあるが、どんな大会にしたかったのが見えなかった。
- 演者がいつも同じ人で新鮮味がなかったため。不要なプログラムが多かった気がする。地域色をもっと出してほしかった。
- リモートのため、直接参加者の顔を見ながら話を聞くことができない。ほとんどの皆さんがリモートでは名前だけで表情がまったく見えなかった。

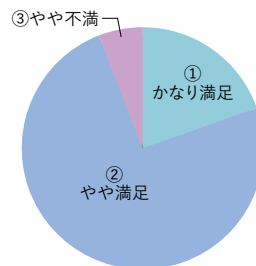
### ④ 不満

- 発表者含め4人しか参加がなかった。

- その時、場所、時間、空気感を感じながら大会に参加したいと思いました。

## (3)-2 市民公開講座は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	10	19.6%
②やや満足	38	74.5%
③やや不満	3	5.9%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	169	-
合計(不参加除く)	51	100.0%



### (3)-2 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ① かなり満足

- 巨石に興味があるので。
- 島根半島の地質の魅力が伝わってきた。
- 北海道ではなかなか聞けないお話しで満足だった。
- 初めて聞く話もあり参考になったので。
- 分かり易い興味深い内容であった。
- 地域ごとのサイトは知っていても、全国のサイトを比較するなどの視点はなかったもので、面白いと思った。キメツの石など、一般の人にも興味を引く内容だと思った。面白かったので聞いてしまって、運営会議に遅刻してしまった。

## ② やや満足

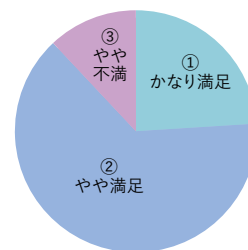
- わかりやすかった。
- 巨石・磐座における祭祀についての紹介を拝見しました。これからの観光資源とした見方と民俗学的な基層へのアプローチが印象的で、出雲大社や出雲風土記と一線を画したベクトルがお聞きしたかったです。
- 神話の世界と地質や岩の関係性がおもしろく感じた。
- やや難解でした。
- おもしろかったです。
- YouTube配信の際にスライドが遠かったが、画面共有されて内容がよく伝わるようになり、見やすかったと思います。
- 内容がやや硬かった。画像の鮮明さに欠けるところがあった。
- 内容はとてもよかったが、パワーポイントの画面共有ができていなかったのは残念。
- 今までに開催されている市民講座等より、質疑時間が長かったため。
- 初心者にもわかりやすい内容であったため。
- 石と信仰ということで、島根らしさを感じられた。
- わかりやすかった。
- 背景のパワポ映像がしっかりみえなかった。
- やや専門的すぎたようなので。
- 現地に行かなくても参加出来るオンラインの有り難さ。

## ③ やや不満

- 地質や地理についての学術的内容を期待していたので。
- 個人的には興味あるテーマでしたが、この大会の趣旨に沿ったものかやや疑問。
- 技術的なところで、画像が演者とスクリーンの両方を写すために、スクリーンの細かなものが見えていなかった。

## (3)-3 市町村長セッションは満足できる内容でしたか。

①かなり満足	18	24.0%
②やや満足	48	64.0%
③やや不満	9	12.0%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	145	—
合計(不参加除く)	75	100.0%



### (3)-3 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ① かなり満足

- 特にマイナス点を感じないため。
- 他団体の事例やジオパーク活動を当協議会会長(市長)とも一緒に共有できたこと。
- 各首長から先進的な事例について直接お話を伺える貴重な機会であったため。
- それぞれの首長のジオパークに対する考えや取り組みを聞くことができた。
- 団体長の意見交換を聞く機会はなかなかないので、参考になりました。
- それぞれの首長のお考えをつっこんでお伺いすることができたため。
- 上定市長のファシリテーターが良かった。
- 普段お会いすることができない市町の首長さんもご登壇されて、それぞれのプレゼンもお話も興味深かったです。皆さん色々率直にお話されていたのが良かったです。
- 松江、出雲市長だからこそ内容のあるセッションになったと思います。
- 特徴的なジオパーク活動や、首長さん方の熱い想いを聞くことができてよかった。
- 地方自治体のトップのジオパークに対する考え方や取り組む姿勢が生の声で聞けた、感じられたから。
- 首長間のディスカッションは、今後の展望だけでなく具体策についても大きな取り組みが多く、参考になったため。
- 各構成市町の首長の意気込みが感じられた。
- 普段聞けない、他市町村の首長の考えを聞くことができたため。
- 松江市長のコーディネートぶりに敬服した。首長の人選も概ね良かった。
- パネラー地域の特色ある取り組みが聞いて面白かった。

#### ② やや満足

- それぞれのジオパークの努力が伝わってきた。ジオ議連は地元住民は知らない人が大多数である。一方で、首長の宣伝のようにも思えた。
- やや綺麗事の事例発表が中心になっている風なのが気になった。
- 実情を知ることが出来た。
- 各市町村の理念と取り組み方が分かってよかった。
- 全国の首長のジオパークへの考え方は参考になった。

- 普段であれば、首長しか参加できないプログラムではあったが、オンライン開催で、事務局が内容を把握できたのはよかった。
- オンラインのため、十分な議論ができなかったように感じた。
- ジオパークと自治体財政について考えるきっかけとなった。
- 時間が足らなかったように思われる。
- 現在の状況がよくわかった。
- 成功事例の共有が中心だったが、失敗事例や困っていること、悩みなどの共有・議論があってもよかったと感じたから。
- 事例発表した方以外の首長の話をもっと聞けると良かったかもしれません。
- 熱意が伝わってくるパネリストとコメンテーターのフォローが良かった。
- 政治家同士はなかなか議論が噛み合わないのが普通なので、あまり期待していなかった。議論はあまりなかったが、さまざまな考えや施策を松江市長が上手に引き出しまとめていた。
- 市町村長の熱意が伝わってきたため。

- 市町村長がジオパークに対して積極的な意見を展開していること。現在、課題となっている運営資金を今後どうしていくかについての協議を聞いたこと。
- 質問が出た内容について、参加者の意見を聞いてみたかった。
- 自治体の長としてジオの考えと活動が分かった。課題をもっと発言して欲しかった。
- 他団体の首長の話しを聞いて良かった。もっと切り込んでいただいても面白いと思った。
- 市町村長の熱意を感じることができた。他方で、発言者同士の議論とならず一方的な紹介、意見表明になりがちだったのは残念だった。
- 最後、取り留めもなく終わった感があった。
- 話題が多彩で勉強になった。
- 他地域の取り組みが参考になった。
- 規模の違う市町村長の意見を聞いて良かった。

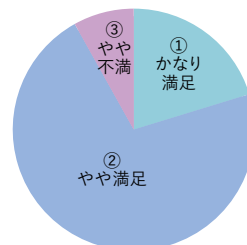
### ③ やや不満

- 事例紹介はしっかり時間を決めて行うべきだったのでは(首長には難しいのかもしれませんが…)
- オンラインで首長の皆様を取り仕切るの難しかったかもしれませんが、もう少し多くの方からの発言が出れば、より活発な議論ができたのではないかと思います。

- パネリストの事例紹介のみで実質的な議論があまりなかった。
- 各首長の本音トークが聴けると良かったかなと思う。
- リモートに不慣れなせいか、不慣れなタブレットから特設HPに入らず、始まっているのも分からず、大部分見られなかった。技術サポートを受けて入れたので、サポートはよかった。

## (3)-4 開会式は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	30	20.3%
②やや満足	106	71.6%
③やや不満	12	8.1%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	72	-
合計(不参加除く)	148	100.0%



### (3)-4 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ①かなり満足

- 特にマイナス点を感じないため。
- オンライン配信が途切れることなく、円滑な進行でした。
- オンラインならではの企画でした。
- オンラインにも関わらず、とても素敵な開会式でした。特に、新規認定証の授与の方法などもオンラインながら工夫されていて、地域の皆さんの喜びを感じることができました。
- 新規認定証授与などオンラインをうまく活用した先進的な取り組みを拝見できたため。
- ジオパークのコロナに配慮した運営が伝わってきた。
- 準備・調整を重ねていただき、スムーズに開催できた。視聴していた方からの反響もあった。
- これからも一層ジオパーク活動を展開していこうという意欲が伝わってきた。
- 松江市長がすごかった。
- 色々な方のご挨拶が興味深かったです。
- オンラインながら、工夫されていて良かったと思います。
- 松江市長の気概と発信力が光っていた。
- 手際よくスムーズな進行がなされていた。
- 表彰状の授与にオンラインならではの工夫があって、ワクワクした。
- オンラインを上手に活用していたと思います。対面ならではの表彰式も画期的な発想で素晴らしいです。
- オンラインでも新規認定証授与が行えたため。
- 現地参加と変わらなかった。
- オンライン試聴であったが、非常にスムーズであった。



## ② やや満足

- ないものねだりですが、やはり会場の雰囲気味わいたかった。アポイ岳、大分豊後に参加した経験から。
- オンラインの認定証授与などは工夫されていて良かった。今年からのベストプラクティス表彰については、その表彰の意義、プロセスについて説明が欲しかった。
- 自分のパソコンが不調で、一時的にネットにアクセスしにくくなったため。
- オンラインには限界があると思います。
- 普通。
- 出雲市と松江市の協力体制が見られた。
- 現地で見ている感じになりました。
- それなりの開会式でした。
- ビデオレターのメッセージの音量が低く、聞き取れなかった。
- オンラインであり参加者の感触が見えず大変だったと思います。
- スムーズな進行だった。他方で、男性の登壇者ばかりで進行役が女性という構図に、ジェンダー不平等な社会状況が透けてみえた。
- オンラインでも認定書の授与や記念撮影など、オンラインならではのセレモニーで良かったと思います。
- 特筆するものはない。
- JGN表彰で、賞状の授与をリアルタイムで実施したのには驚きました。関係者の皆様のご苦労がしのばれます。
- リモートでも準備が大変だったと思いました。なお、ユーチューブを準備しておいても自動で開始しなかったので、技術サポートを受けました(できるだけ我慢してから)。
- リモートの不具合があった。
- 上定実行委員長の見事なスピーチに感動した。
- 業務との兼ね合いですべては参加できなかった。
- オンラインのみの対応となり運営が難しい中、無事実施したという点。
- 司会進行が素晴らしかった!!!
- 挨拶をしている方の顔をよく見えて良かった。
- 多様な人が関係していると感じた。
- オンラインでも出来ることが確認できた。
- コロナ禍における開催の工夫が感じられた。
- 地元の熱意が感じられた。

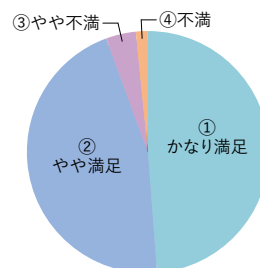
## ③ やや不満

- もう少し島根らしさが欲しかった。
- もう少し地域色を出してほしかったため。
- 開会式から特別公演、基調講演、基調提起まで、オンラインなら、セレモニー的な部分をもう少し短くコンパクトにやっても良かったのではないかな。
- 開会式のオンライン参加は必要なのか疑問に感じた。
- オンラインでの音声がいざいざ聞き取りにくくなった。
- いつものことながら来賓の挨拶が長すぎる。
- パフォーマンスがなくてがっかりしました。正直に開会式で何が行ったかもう忘れしました。印象的じゃなかったです。
- 手話ワイプが小さい。
- 司会者を除き女性が全く登壇しておらずジェンダー配慮がなされていないと感じた。来賓挨拶も知事や議員等のみで開催地の現場の顔が出されずにトップダウンの印象が強かったのが残念だった。

ラフカディオ・ハーン

## (3)-5 特別講演「小泉八雲、「ジオ」へのまなざし」は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	61	48.8%
②やや満足	57	45.6%
③やや不満	5	4.0%
④不満	2	1.6%
⑤不参加	95	-
合計(不参加除く)	125	100.0%



### (3)-5 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ①かなり満足

- 初めて聞く話もあり参考になったため。
- 小泉八雲の視点を通じたジオパークについて興味深く聞くことができた。
- 小泉八雲が好きであった風景が現在はジオサイトとして紹介されていることが興味深かった。
- 島根ならではのゆかりの方から、直接お話を伺えた貴重な時間で

した。小泉八雲の様々な作品から島根の自然が迎えたことが新鮮な気づきでした。

- 割と短期間しか滞在していない小泉八雲がジオの魅力もたっぷりな執筆をしていることが分かったから。
- 八雲とジオの絡みの奥深さにインパクトを受けた。
- 小泉八雲の世界観に触れることができた。
- 知らなかったお話を興味深く拝聴した。
- 普段聴くことのなかった話で、大変興味深かった。
- 風景の描写がすばらしく、情景を文章で表現する難しさを感じた。同じ空の風景でも、地域によって雰囲気が違うことに思い至った。得るものがあった。
- ジオパークを文学的視点から眺める新鮮な体験ができた。風景への眼差しの中に、人間への信頼と愛が滲む講演者の語り口は、白樺派の文学作品のようであった。今大会で最も感動的なプログラムであり、小泉八雲の文学性にすっかり魅了された。
- 恥ずかしながら名前しか知らないレベルであったが、「自然は偉大な経済家である。自然は過ちを犯さない。生き残る最適者は自然と最高に共存できて、わずかなものに満足出来る者である。宇宙の法則とはこのようなものである。」心に響く言葉である。これを機会に著書を読んでみたい。
- ちゃんとジオの観点からお話ししていただき、わかりやすかった。
- 分かり易く話され、なるほどと思うところが多かった。
- 小泉八雲といえば「怪談」のイメージしかなかったが、話を聞いて目から鱗が落ちた。
- 以前島根を訪れた際に八雲邸に立ち寄ってから、世界人としての八雲に、また彼の紀行文にも関心があったところに、ジオパークの大会でジオパーク関係者に知ってもらえることができたため。
- 各地での文学とジオのつながりを考える試みはいくつか知っている。JGN・大会主催者として、それらの情報を集約して、演者に事前提供して、価値付けしていただくようなことはやっても良かったと思う。各地では国内作家を取り上げているので、ラファディオハーンという外国人からより感じたジオがどう表現されたか、と対比しうかがえたらもっと良かった。でも、十分満足。
- とても興味ある内容だった。
- 小泉八雲がなぜ出雲の地に惹かれたのか、自然の風景やゴーストなどの言葉の使い方から読み解いたのが興味深かった。
- 裏話的で面白かった。
- とても興味深いお話で八雲の作品を読んでみようという気になりました。
- 小泉八雲の名前しか知らなかったで、興味深かった。
- ジオと文学とのつながり、日本人の精神文化とのつながり。新しい発見でした。小泉八雲だからなしたことだと思いました。
- 小泉八雲について全く知らなかったジオ的なまなざしなど講演内

容がとても良かった。

- 外国出身のラファディオ・ハーン(小泉八雲)が、日本の美しさや日本人の特性(うつろい的美、変化を受け入れるなど)を非常に良く理解していたことを知り、感銘を受けました。
- 今まで詳しく知らなかったで、実像を伺え、ジオにも関係していることが分かったから。
- ジオと文化の関わりをわかりやすくお話して下さったと思う。
- 小泉凡氏の解説はわかりやすく、参考になった。八雲の再読をはじめました。
- 小泉八雲の自然感や文学をジオパーク活動へ活かすことの意義を知ることができた。
- ジオとの関わりがとても興味深かった。話し方もこなれていた。
- とても面白かったです。
- いい話でした。
- とても面白かったです。こういう人文科学と絡めた話、大好きです。
- 名前だけは知っていたが、よく知らなかった小泉八雲のことを知ることができてよかった。
- 様々なテーマとジオを掛け合わせて活動していきたいと思っていて、「文学×ジオ」という切り口の素晴らしい発表が聴けたことは大きな参考になった。
- 文学という新鮮な視点で自然や人の営みに興味を持つことができたから。
- 講師の話し方が上手く、内容はジオパークをより身近に感じられるものだったため。
- 文学とジオを絡めた内容が目新しく面白かった。
- 内容もたいへん興味深く、また小泉氏の語り口調がとても人を惹きつけるものがあり今回の全国大会でもっとも印象深い講演でした。特に読み聞かせ部分では、小泉八雲が見た宍道湖の姿をぜひこの目で見るために、今後島根に足を運ぼうと決意するには十分すぎる内容でした。すばらしい講演をありがとうございました。
- 色合い、移ろい、ghostの感じ方に共感できた。さっそく活かされた。
- 八雲の日本文化に対するまなざしが良かった。移ろい行くものへの美観でしょうか。
- 小泉八雲のジオへの思いが伝わってきた。さすが目に浮かぶハーンの文学表現に感化された。
- 言葉で表せないものを文学的に表現しようとする小泉八雲の熱意とその感性に感動したため。
- とても面白い講演。
- 視点が面白かった。
- 日本人には馴染み深い風景や彩色の美しさを改めて知ることができて良かったです。

## ② やや満足

- 文化的な資源の取り組みを学ぶことができたため。
- やや文学的でした。
- 当初の予定からURLが変わって、視聴が遅れた。
- こちらの機材の関係だとは思いますが、声が聞き取りにくいことが多々生じてしまいました。
- 新たな発見があった。
- 貴重なお話を聞けたため。
- 話がわかりやすく、また、聞き取りやすかった。
- 小泉八雲の人となりをもっと少し聞きたかった。
- 本人のことを知らなくても楽しめた。
- ジオの視点が色々あったとは、驚きでした。
- オンラインでも充分視聴することができた。
- 開催地域に関する深堀の講演でよかった。
- 人文分野からの切り口が新鮮でよかったが、もう少し短いほうがよかった。
- ここでジオと言っている内容が不明でした。
- 八雲もGEOに興味があったこと。

### ③ やや不満

- ジオパークとの関連性をあまり感じる事ができなかったため。
- 興味あったが、流れが速すぎて、一体何を伝えたかったかよく分からなかったです。

### ④ 不満

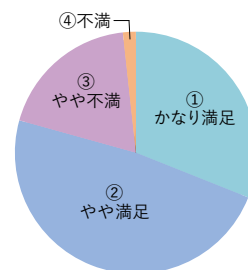
- 開会式に引き続いて観れるのかと思っていたら、再接続しないと見れず、気づいた時には終わりがかかっていた。
- ジオを絡ませて話をして欲しかった

### ⑤ 不参加

- どのサイトで見えるのか分からなかった。
- 途中で視聴できなくなりました。
- 回線が繋がらなかった。

## (3)-6 基調講演「過去から将来への沿岸環境と人新世」は満足できる内容でしたか。

① かなり満足	36	31.0%
② やや満足	56	48.3%
③ やや不満	22	19.0%
④ 不満	2	1.7%
⑤ 不参加	104	—
合計(不参加除く)	116	100.0%



### (3)-6 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ① かなり満足

- 参考になったが、最後のテーマのみの話を拡大していただければ十分と感じた。
- 勢いで我々人類は今後いったいどこに向かっているのか恐怖をおぼえました。
- 海水域の上昇など、地球環境変動の切実さを認識することができた。
- 縄文海進の状況、今後の海水準、人新世の提唱経過が理解できた。
- 地質の歴史が理解できた。
- 私にとっては満足できた学際的な講演でしたが少し予備知識が必要なようでした。
- 縄文海進の理解が深まりました。
- 研究者としてはありがたい講演であったが、参加者に伝わったかやや心配。
- 簡潔にまとまった分かり易い講演だった。
- 人新世の話が面白かったです。
- 学者では無いのでついて行くのに必死だったが、詳しく紐解くときの導入知識になった。
- 人新生という新たな地質年代区分の可能性に触れることができたことに加え、地質年代区分の申請から承認までの具体的な流れについても学習することができたため。
- 人新世という概念を初めて知りました。
- 人新世、ヒトが自然とそのバランスをこわしていることに気づいた。
- 海水準上昇という、避けられず対応が必須な地球科学的現象について言及があり、ジオパークの取り組みが対策の一案であることが示されたから。
- とても興味ある内容だった。
- ジオパークの今後の方向について示唆を与えた。ただこれに繋がるお話しがあっても良い。
- 的確な説明。
- 沿岸環境の海水準の過去から将来の予測を最新のIPCCの報告などを含めた内容で今後の沿岸環境の課題を知ることができました。
- 大変参考になった。
- 人類により1950年以降の大加速のグラフが衝撃的でした。この

#### ② やや満足

- 今後のジオパーク活動の指針となる内容でした。
- やや難しめの内容だったように思うが、「今、なぜジオパーク？」のテーマに一番即している内容だった。
- ちょっと難しすぎる部分があったように感じたから。
- 難しかったです。
- 専門用語が多くて一般参加者には少し難しかった。

- 興味深い内容だったし、考えさせられた。ただし、技術的な内容なので、個人的には必須とまでではなかった。
- 人新世や海水準変動について分かりやすく説明いただいた。
- これからの方向性を示す内容だった。
- 興味深いテーマでした。
- 途中から視聴した為、内容が把握しきれいていません。

- オンラインでも充分視聴することができた
- 時々難しすぎて分からなかったが、大事なメッセージが伝わったので良かった。
- 新しいものの見方が得られた。
- 新しい情報提供。
- 人新世の新たな観点に出会えた。チバニアン の位置づけがわかった

### ③ やや不満

- 難しかった。
- 地質学会的な内容で、専門性が高く、難解な内容だった。
- 大まかな内容は感じ取れたが、全体的に話が難しく細部までは理解できなかったから。
- 前半の内容が専門的で難しく理解できなかった。
- 「人新世」と名付けることの意義が今ひとつピンとこなかった。
- 内容が難しく感じた。
- 学術的なことはかりで全く理解できませんでした。知っている方は面白いのでしょうか。
- 知識不足により、よく理解できなかった。
- 内容が専門的すぎる

- 少し内容が難しかったように思った。
- 難しかった。
- 高度な内容が多かったように感じたため。
- 専門的な知識を持った方であれば、かなり興味深い内容であったようだが、初心者としては、話の内容とスライドの図の理解が追いつかないといったこともあり、その点で厳しいものがあった。
- 人世を地学領域で定義する必要が理解できなかった。
- 思っていた内容と少し違っていた。
- 専門性にやや特化していたようで、難解でした。
- 少し内容が難しかった。

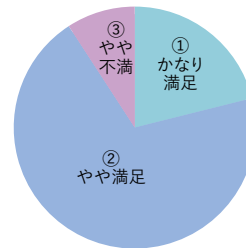
### ④ 不満

- 地質年代の新たな定義付け、人によってはおもしろいのですが、私にはあまり興味がなかったため。

- 語り手が将来にこうなったらいいとか、こうなりそうと話が無かった。記憶に残らないものでした。

## (3)-7 基調提起「みんなでつくるジオパークネットワーク」は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	23	21.1%
②やや満足	76	69.7%
③やや不満	10	9.2%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	111	—
合計(不参加除く)	109	100.0%



### (3)-7 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ① かなり満足

- 楽しさの伝え方、コスト感の考え方が参考になったため。
- これまでジオパーク活動をけん引してこられた理事長から、日本ジオパークネットワーク設立当時の思いを聞くことができ良かった。
- ジオパークの取り組みを反映していると感じた。
- 今が日本ジオパークの変換点にあることが分かった。
- ジオパーク設立の経緯、ユネスコ正式事業化への道筋がわかった。
- とても興味ある内容だった。
- 立ち上げた頃の思いを聞くこともたまには必要。
- 米田理事長からの講演であり、これまでの成果や評価、今後の展

望についてもご教示いただき、大変参考になったため。

- ネットワークについては、差し迫った課題なので、切実感をもって拝聴した。
- 日本ジオパークの成り立ちと経過がわかった。ネットワークの意義も改めて考えた。
- ジオパークの沿革や取り組み意義が解った。
- これまでのジオパークの歩みを知れた。
- 米田会長には毎年この苦労話を皆さんにしてあげて欲しい。
- 今現在、本ジオパークが抱える問題点が議論されたので参考になりました。

## ② やや満足

- JGN立ち上げ時の経緯が分かった。
- それなりでした。
- ジオパーク内でのネットワークづくりに参考になった。
- 米田理事長の想いを改めて聞くことができた。
- ニーズと一致していたかどうかはまだわからないから。
- おさらいは大事ですよ。
- 今日的な課題を取り上げたことがよかった。
- JGNの歴史的な部分が良くわかりました。
- ネットワークの歴史と成り立ちが分かった。
- オンラインでも充分視聴することができた。
- 米田理事長の長年の苦勞がよく分かった。
- 内容がコンパクトによくまとまっていた。
- 理事長の思いが伝わる提起だったと思う。
- ジオパーク活動の沿革について分かりやすかった。
- ネットワークによって、全体としての質が高まると思った。
- ジオパークの活動の経過がよくわかりました。
- 貴重なお話を聞けたため。
- 取り組みがわかった。
- 基本的な内容をベースにしており、内容がわかりやすかったため。
- 成功事例が参考になった。
- 内容が印象に残らなかった。ただし不満には感じなかった。
- JGNのこれまでの経緯、今社会から何が求められているのかについて、わかりました。
- 知らなかったジオパーク設立までの歴史や苦勞などを知ることができた。

## ③ やや不満

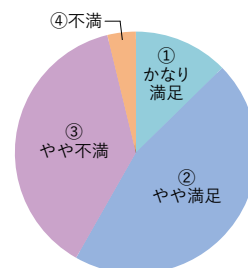
- 基調講演との関連性がほとんどなかった。
- もう忘れたので、印象的じゃなかったなあ(ごめん)。
- 新鮮味はあまりなかったため。
- 開会式でも登場されているので、他の人もよかったのでは。

## ⑤ 不参加

- youtubeで見ればよかったです。

## (3)-8 ポスターセッションコアタイムは満足できる内容でしたか。

①かなり満足	10	12.7%
②やや満足	36	45.5%
③やや不満	30	38.0%
④不満	3	3.8%
⑤不参加	141	—
合計(不参加除く)	79	100.0%



### (3)-8 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ① かなり満足

- 考える点が多々あったため。
- ポスターと動画を大会ホームページ掲出できて良かった。
- 自分たちのやっていることの価値を見出すことができた。
- 特に恐竜渓谷ふくい勝山の「八岐大蛇と火砕流」に関する発表がとても面白かったし勉強になった。
- より詳しく話を聞くことができて良かったです。
- うまく説明されていた。
- オンライン発表で分かりやすかった。
- いろいろな地域のいろいろな事例を知ることができ、自地域の活動に活かせる情報を仕入れることができた。

## ② やや満足

- 全部見切れなかった。
- ポスターセッション用に送信したデータが活用できると思っていたが使えなかった。この場で使いたかった。
- 時間が重なりリニアに視聴できなかったため。
- Zoom操作の不慣れがみられた。
- 時間の都合で駆け足になってしまったため。
- グループを12と細かく分けたことにより、じっくりとポスター解説ができた。その反面、観覧できるポスターが限られてしまった。ポスター4枚につき1グループくらいでもよかったのでは。Zoomのブレイクアウトルームへの入り方の説明があったが、表示内容が小さくて解らず、戸惑った。
- 成功事例などを知ることができたため。
- 発表者に直に話を聞いてよかった。ただし、興味ある発表の時間が被るものがあったのが残念だった。
- コアタイムとZoomについて理解していなかったのも、うちの発表のコアタイムができなかったのは残念だった。
- オンラインなので、現地の雑踏のなかで聴くのと違い、しっかり説明を聞き取ることが出来る点は良いと感じた。
- 参加者が少なくちょっと寂しかったが、現地に行かなくても参加出来るオンラインの有り難さを感じた。
- オンライン名刺交換のできる場がほしい。
- 参加できる数が限られた。

## ③ やや不満

- 発表者以外の聴講者が1人だけだった。
- 各部屋に事務局員or協力者(発表者や発表に関連するGPの方)が入り、タイムキーパーをする必要があったと思う。
- 同時進行が多すぎて聞きたい話があり聞けなかった。
- パソコンからの入り方に手間どり、聞きたいポスターセッションを聞き逃した。
- 内容はよかったし、発表スケジュールが決まっていたのはよかったが、時間が足りなかった。
- どれも興味深い内容であるため満遍なく参加したいが、オンラインでは限界がありました。
- 発表者は他のルームの発表を見に行くことができなかった。コアタイムの時間が少なかったのはしょうがなかったかもしれないが・・・
- 事前に発表内容が一覧表になっているとよい。
- 全体での時間管理しかされておらず、最後に発表したグループの時間が十分になかったため。仕切る人が必要だと感じた。
- 機械操作がうまく出来なかった。
- 見たいブースの時間がかぶっていた。
- ここの発表は問題ないが、時間的にほとんど聞けなかったのが残念。
- やっぱリアルがよい。
- 音声聞き取りにくかったり、表示されている文字が読み取りにくかったりした場面があったから。
- どの会場でもどのポスターセッションが行われているのかわからず、あちこちぐるぐるしてセッションをじっくり聞くことができなかった。
- オンラインだから、かなり難しいと思うので仕方がないけど、私の発表の時に見たかったポスター発表が多くて、見れなくて残念でした。なんか、発表する時間が決まっていたのに逆に難しかったです。
- オンラインでのコアタイム発表が個人的にはじめてだったので戸惑いました。仕方ないことだと思いますが、意見交換の量と質の点で、従来の対面型のコアタイムと比べて不満足感が残りました。各ブレイクアウトルームにファシリテーター役の方がひとりいれば、少し違うのかなと思いました。
- 意見交換ができにくい設定でした。
- ZOOMでの不具合があったため。
- 不満というよりは反省です。うまく伝えられなかったから。参加された方ともしっかりと気軽に意見交換もしたかったです。
- 相当数の発表が同時に行われていたが、いくつも聞きたいものがあった。youtubeなどで後から見れたらと感じました。
- 参加者が少なかった。
- ポスターの発表時間が細かく決まっていたので、口頭発表と変わらない。口頭発表のみでよかったのではないだろうか。ポスター掲出し、その質問・レスポンスはどのようにすれば良いか分からない。
- 他地域の発表が1つしか聞けなかったため。

## ④ 不満

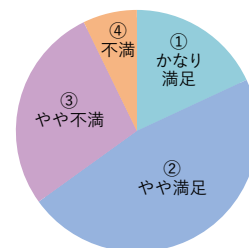
- 参加者が少なく、発表者以外、ビデオをオフ、サウンドはミュートだった。司会がない。
- 強制的に会議室を解散させられる仕様がとても困った。前の発表者が時間オーバーであったのに、一番最後のグループがツケを払うような事になった。強制的に部屋が解散させられる仕様ならば、時間厳守の旨を強く伝えておくべき。
- 参加者が他の発表者を含め4名しかいなかった

## ⑤ 不参加

- 動画も見られて、時間さえあれば理解するまで見られたことと思う。最初は入り方が分からず、3日目に拝聴した。

### (3)-9 グループトークは満足できる内容でしたか。

①かなり満足	15	18.1%
②やや満足	39	47.0%
③やや不満	23	27.7%
④不満	6	7.2%
⑤不参加	137	—
合計(不参加除く)	83	100.0%



### (3)-9 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ①かなり満足

- 考える点が多々あったため。
- 他地域の取り組みがわかってよかったです。
- 違う地域の方と話し合いができた。
- インタープリターへのガイドの変容の意識付けができた。
- (運営側の意見)積極的に参加いただけて良かった。
- 分科会の前準備ができたため。
- 正会員申請に向けて、他市町村の専門員等の意見を伺うことができたので参考になりました。
- オンラインだったので、グループの人としか交流できませんでしたが、いろんな話を聞いてとても参考になりました。気軽にいろんな意見が言えましたし、事前に進行役を決めていただいたのは時間の無駄にならずありがたかったです。今後も、そうしてもらえるとすぐいろんな話ができるので、嬉しい。
- 少人数で話し易かった。

#### ②やや満足

- 分科会との間に休憩時間がほしかった。
- 自分と同じ立場の方との情報交換ができたため。
- 交流できてよかった。
- グループに分かれた後に何をやるかの説明の前にグループ分けをされてしまい、何をすれば良いのか分からずに時間だけが過ぎていくのがもったいなかった。
- 最近話していない人と話すことができた。
- 最初の10分以上、Zoomに入ってもアクセスして貰えなかった。グループトークでグループ分けされた際、メンバーによっては誰も話さないで、進行役を決めて行って欲しかった。
- ジオパークに携わる様々な立場の方と意見交換ができ、情報を共有できたため。
- 時間が足りなかった。
- 他団体の話しを聞いたため。
- 短時間で必要な会話ができた。その反面、じっくりと話し合うことができなかった。
- このブレイクアウトの位置づけがよく分からなかった。いろいろ、語り合えたのは良かったが。

#### ③やや不満

- 時間が短かった。発言者が緊張していて構えてしまった。
- ほとんどの人がトーク内容の指示を聞いてなかったため、どうしてよいのか分からなかった。ほかの分科会の人とも話せた方が良かったと思う。
- やっぱりリアルがよい。
- 時間が足りなかった。
- オンラインの不慣れです。
- 特定の方がずっと話していて、参加者の意見等がほとんど聞けなかった。
- オンラインに慣れていないので難しい。
- それぞれの立場や取組状況の共有に留まり、その先の議論に至らなかった感がありました。
- グループが3人でもう少し多い方が良かった。
- オンラインではコミュニケーションがとりにくい。
- 運営がよくわからなかった。
- 大会事務局とグループトーク運営担当者との連携が十分でなかったと感じた。
- 回線の不都合で、時間が十分ではなかった点。
- 狙いをうまくつかめなかった。
- 自身の機材の関係でうまくグループに入れなかったため。
- 6人中4人が顔見知りで情報交換において新たな情報が得られなかった。

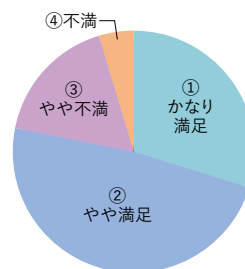
#### ④ 不満

- 内容としては満足だが、要項と違い、分科会のプレトークであった。事前アンケートの結果ももらっていない。ただ、分科会には、入っていきやすかった。
- 不完全燃焼の感が否めない。
- ブレイクアウトルームに上手く入れずに殆どの時間何もできなかった。

- 何を話せば良いのか不明瞭だった。
- 時間が短くてお話できなかったため。
- 失敗例、続く事が出来無い企画など話があればよかった。

### (3)-10 10月4日の分科会は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	45	29.8%
②やや満足	73	48.4%
③やや不満	26	17.2%
④不満	7	4.6%
⑤不参加	69	-
合計(不参加除く)	151	100.0%



#### (3)-10 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

##### ① かなり満足

- 考える点が多々あったため。
- 実際に抱える悩みや課題を共有して話し合えてよかったです。
- 他の地域の問題点などがよく分かった。
- 他市町村の取組みを知ることが出来て、大変参考になりました。
- グループ討議面白かったです。
- オンラインだったので、グループの人としか交流できませんでした。いろんな話を聞けてとても参考になりました。専門員、ガイド、元教員などいろんな経験者の方からそれぞれの目線からいろんな意見が聞けたので良かったです。
- これからの取組に活用できるから。
- 4地域から発表があり、各地の特色ある取組みを共有することができた。発表者は念入りに準備をして発表に臨んでいた。限られた時間で考えをまとめるには、参加者も日頃から課題意識を整理しておくなど、事前準備が大切だと感じた。
- 学校教育現場において、ジオパークで何が役立てるかという視点でのセッションはとても参考になった
- 事例も勉強になりましたし、グループトークでは日頃お会いできないプロの方と直接お話することができ、時間が足りないくらいでした。
- グループトークが良かった。意見を深められたように感じる。
- 他のGPの話が詳しく聞いて有意義でした。
- ジオパークを学校教育へ活用する為の具体策などについて参考になる事例紹介などたくさんあったため。
- 今後のJGNの活動を考える上で参考となった。
- 個別に情報交換が出来たのでよかった。
- 各地域の事例を聞くことができて参考となった。
- さまざまな地域のさまざまな課題、問題意識を共有できたこと。他地域のジオパークに興味を持てたことがよかったと思います。
- 知らないたくさんの方の考え方に触れることができた気がします。
- 他のジオパークとの交流ができて、活動を知ることができた。
- やはりオンラインだと参加感が弱かった。しかしとても勉強にもなったし今後の大きな参考となった。
- 現地で参加したのと変わりなく、話を聞くことができた。オンラインだとコメントで質問事項などが残り見直せるのが良かった。
- 海ごみ問題に関わる各ジオパークの取組みを知ることができました。
- 多くの事例見られて良かったです。
- 事例発表がどれも素晴らしく、いろいろ自問反省した。
- 他地域の海ごみ問題への取組みがとても参考になったため。
- 全体の内容がわかりやすく、大変有意義だった。また、色々な考え方や参考意見をいただいた。
- 各地の現状を知ることができた。
- ネットワークの分科会に参加。それぞれネットワーク構築に苦慮していることや組織内との連携はできるが一歩踏み込んで組織外とのネットワークのあり方について情報共有ができ有意義だった。
- ジオパーク活動として防災を取り扱う意義について新たな視点が与えられた。
- 各ジオの事例発表等で他地域の工夫や方針を知り、新たな取組みの参考になった。
- 研究者・専門家の方の考え方や地元での活かし方を教えていただいたと思えたから。
- 聞きたい話がたくさん聞けたので。
- 地域の方との関わりについて、それぞれのジオパークで工夫されていて、地域に対する愛を感じました。プレゼン資料も素晴らしかったです。



## ② やや満足

- (運営側の意見)オンラインで協議するには少し時間が不足した。
- 各班で出た意見等をもっと知りたかった。
- 地域での取り組みを知れた。
- グルーブトークの内容を発展させるような形であったため。
- 教育関係者の話を聞いたのがよかった。学校教育に関する全国の優れた事例、モデルとなるような事例について当事者の話を聞きながら交流したかった。
- 基調講演は大変興味深く聞けたが、その後のグルーブトークは道筋が見えず議論が盛り上がらなかったから。
- 正解が導き出されるわけではございませんが、多くの事例を伺えて、とても勉強になりました。またオンラインならではのチャット機能が活躍です。
- 他団体の話しを聞いたため。
- 短時間で必要な会話ができた。その反面、じっくりと話し合うことができなかった。
- もっと有識者のお話を深く聞いてみたかった点が心残りです。
- 他地域の事例が参考になった。
- 基調講演が大変勉強になった。しかし講演時間が長かったので、話す方も聞く方も大変だったのでは？
- 芝浦工大の事例紹介がよかった。
- 取り組みが少しわかった。
- 他地域の事例を聞くことができる機会は貴重なため。
- 基調提起から口頭発表へのつながりが良かった。研究員、ガイド等、色々な立場の方の発表が聞いたのが良かった。
- 基調講演はよかったが、趣旨説明やグルーブトークは深まらなかった。準備不足の感あり。
- ネットワーク:各ジオパークの取り組みを聞くことができた。ローテーション&ブレイクアウトルームの使い方がうまい。
- 各地の関係者の名前と顔が一致した。
- パートナーシップと連携のあり方、そしてネットワークの生かし方を学んだ。
- パートナーシップという、協定と思い込んでいる方が多く、グループでの事例共有が前半活発にならなかった点は少し残念だったが、発表者へのQAのやり方などの工夫はうまく活かせて、たくさんやりとりができてよかった。
- ジオパークとSDGsとの関連性をもっと整理すべきと感じました。
- 身近ではないものを選んだから。
- 教師の実情を知ることが出来た。
- 各地域の意見が聞いて良かった。対面の方がもっと交流できていいと思う。
- ジオパークに関わっている年月が浅いため、自分が上手く意見交換が出来なかったように思います。
- 事例報告で最新の情報が聞いて良かった。
- 他地域のジオパーク学習の取組を知ることができてよかった。
- ジオパークによっても災害の多いところ少ないところの温度差がわかり興味深かったです。有珠山での火山マイスター試験の取り組みは、ただ講義を受けるだけでガイド認定してしまいガイド間の熱量の差が問題となっている当ジオパークでも見習いたいと感じました。
- 自分の地域についてヒントになることがあった。
- いろんなジオパークの方の取り組みが聞いて良かった。
- 事例紹介4つはボリュームが多すぎたように感じます。
- 取り上げる内容についての議論が十分できず、時間がないためにまとめられて、次にしましょうとなってしまったのは残念でした。
- 様々な事例が学べたが、実際に話す機会があまりなかったため。
- 海洋プラスチックごみへの対応の方向がみえてきた。
- 貴重な話を聞くことができた。
- ごみ問題は全ての地区の問題。
- 今後につながる題材であった。
- 他地域の事例を知ることができたから。
- 現地でもなくても口頭発表することができたため。
- 内容には満足しているが、実際に現地で人と接したかった。

## ③ やや不満

- 地域貢献(防災・減災)google formの活用は良いが、時間内に回答を活用する準備が不足していたから。
- 基調講演を基にワークシートを記入できた。議論はほとんどできなかった。
- 学校教育の実情が関係者に理解出来ていないところがあるのかな。未熟さを感じた。
- ファシリテーターの進行管理の難しさを感じた。
- 特定の方の話ばかりで、参加者の話が聞けなかった。
- 当方の打合せ不足もあり、ご迷惑をおかけしました。
- 何の説明もなくブレイクアウトルームに飛ばされたり、最後は結論が出なかったのが残念だった。
- 進行方法がよく分からず、どうしていいのかわかりにくかった。オンラインになれた人でないと入り込めない感じがした。
- 大会事務局と分科会運営担当者、ファシリテーター同士の連携が十分でなかったと反省する。
- 時間不足であった。
- 時間が足りなかった。本題に入る前に終わってしまったという印象です。題材が良かっただけに少し残念な感じがしています。
- 進行が遅れたため、途中で終わってしまい残念だった
- ファシリテーターとの接続に時間を要した。
- ブレイクアウトルームに分かれた際に、進行役や書記が事前に決められていないとの説明がなかったため、参加者が状況を理解して進めるまで時間をかなりロスしてしまった。最後の総評は、包括的な総評となっておらず、事例発表として扱ったほうがよい内容だった。
- 活動事例は参考になったが3点で不足感があつた。①ジオパークは過去だけでなく現在・未来の地球についても考えたと明示。②プラスチック汚染問題と地球温暖化の関連を明示。基調講演との関連も出る。危機感。③保全・清掃から地球環境問題へ(think globally act locally) 当ガイド協会でも取り組む。隠岐での検討に期待。
- 議論や意見交換がほとんどなく、基調講演のみの分科会であった。
- 消化不良だった。
- アンケート記入のための時間が私には短すぎでした。もっとじっくりと考えながら記入しかった。
- オンラインの場だと、テーマに沿った議論はまあまあ進みますが、いきなり始まりいきなり終わるため、誰と何を話したのか残りにくい印象でした。知らない者同士がいきなり話をするには、前後の余白も大事のように見えました。
- オンラインのため、テーマに沿った共有やメッセージなどがわかりにくかった。

#### ④ 不満

- 基調講演が長すぎ、肝心の議論の時間がなかった。
- 講演者に何を話してもらいたいのか、どこにポイントを置くのか、なにをやらうとしたのか分からない。講演の時間を短くして、グループディスカッションをして、一定の共通認識を持ってからワークシートに記入してもらい、それを共有するなどしないと、さっぱり分からない。これまでのJGNでの防災の取り組みや、ジオパークの周辺での防災の取り組みを知らないでこのテーマをやることは無謀。JGNの防災WGも発信が足りないことを痛感した。
- 10/8のアンケートを時間内に個人作業で行う必要はなかつ

たのではないか。アンケートを題材にするのであれば、事前提出すべきだった。

- 何を話せば良いのか不明瞭だった。
- 話を聞いて周りの大人を夢中にさせる事を行う考えが無いように思いました。
- ネットの接続が悪く、充分意見交換が出来なかった。
- タイムテーブルが、尻切れ。各エリアの活動事例や問題点の洗い出しが事前にあった方が、良かった。

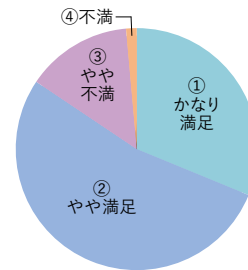
#### ⑤ 不参加

- ガイドのテリトリーから外れるので。

- 仕事で途中から参加したときにはほとんどの発表が終わっており、よくわからないので途中で退室させていただきました。

### (3)-11 10月5日の分科会は満足できる内容でしたか。

① かなり満足	44	31.2%
② やや満足	75	53.2%
③ やや不満	20	14.2%
④ 不満	2	1.4%
⑤ 不参加	79	-
合計(不参加除く)	141	100.0%



#### (3)-11 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

##### ① かなり満足

- 考える点が多々あったため。
- 本町でジオパークを実施する上で、必要性和目的を整理するための参考になる意見を聞くことができました。
- 湿原の保全活用は、難しい課題があるということを再確認する内容だった。
- 事例もグループトークも大変勉強になりました。
- 団体としての関わり方と個人としての関わり方と分けて事例紹介いただき、立場よっての活動方針について学ぶことができたため。
- ジオパークを評価・考える新たな視点についてヒントとなった。
- さまざまな地域のさまざまな課題、問題意識を共有できたこと。他地域のジオパークに興味を持てたことがよかったです。
- 現地で参加したのと変わりなく、話を聞くことができた。オンラインだとコメントで質問事項などが残り見直せるのが良かった。ツーリズムの分科会であったが、淡水魚の話も出てきたり、ジオパークの幅が広がってきたなと感じました。
- 各ジオパークの取り組みを十分に知ることができました。
- 多くの事例見られてよかったです。
- いろいろ取り組み方の違いが分かった。
- とても内容が濃く有意義だった。最後が駆け足だったため、もう少し時間があるとよかったです。
- 内容が充実していた。
- 最新の情報、今後の方針を知ることが出来、自分の目標の再確認が出来た。
- 発表に質問も多く、色々な意見・提案があった。

- 国際交流について、コロナ禍でもできることがあると知りました。ワクワクする内容でした。
- いずれの口頭発表もわかりやすく、ファシリテーター(栗原さん)のおかげで内容の濃い議論を行なうことができたから。
- UD分科会に参加しましたが、いままであまり知らなかったUDについて知ることができ、今後活かすためのヒントになるような事例をきけたことがよかった。
- 出口竜也氏の基調提起がたいへん参考になった。口頭発表も参考になった。
- 発表者のお話も面白かったし、運営もスムーズで質問もたくさん出て充実したセッションになった。
- 発表者のお話にも興味深く楽しく聞けたし、進行もスムーズだった。有意義な時間だった。
- 進行者が精通している人で進め方が、分かりやすかった。オンラインは対面して行う方法より進行者の手腕が問われると感じた。
- ジオツーリズムについてどうすべきかモヤモヤしていたのが今回の話を聞いて晴れた気がしています。
- 現地の事業者の事例を聞いたことと、グループワークでいろんな前職・背景の方とUDの意見交換ができたこと。
- コーディネーターの適切な運営により、充分な意見交換が出来た。
- 口頭発表もバラエティに富み、その説明も簡潔かつ的確で、意見交換も深く興味深い内容で、とても参考になりました。
- インターネットで参加して、ほかのジオパークのいいところを参考にできました。
- 2つの事例発表が面白かったです。

## ② やや満足

- 事前に、国際ネットワークの「捉え方」・「利点と課題」・「課題に対する改善策」という論点整理をしたが、方向感が漠然としており、「言語の壁をどうするか」といったコミュニケーションの話題に終始して、議論が深まらない懸念があった。途中で、「ユネスコスクール」への関わり方をジオパークとして考える、という論点が出て、方向感が見えた。
- 持続可能なツーリズムというのがいまち理解できていない部分もあったけど理解することができた。が、半分は保全の実践例の紹介だったので、もう少しツーリズムの発展について議論を深めたかった。
- 他のGPの話が詳しく聞けて有意義でした。
- 経営視点は今後ジオパークで取り組んでいく必要がある。
- 参加して、もっともっとネットワークを意識し活用していこうと強く思った。
- 担い手分科会に参加でしたが、和歌山大学経営学の先生からの講演が今までの分科会と違って別の視点からジオパーク活動を見れたことが大変勉強になりました。
- 研究者・専門家の方の取り組みについて知ることができたから。
- コーディネーターとして参加しましたので、自分達に課せられたことはやりきったと思います。
- 各班で出た意見等をもっと知りたかった。
- 地域での取り組みを知れた。
- ジオパークとアクティビティの関わり方など、ライト層の方がどのように引き込めるかヒントをもらえたように思います。
- 短時間で必要な会話ができた。その反面、じっくりと話し合うことができなかった。
- あまり覚えていない。
- UDの重要性が理解できたり、様々な事例発表で具体例を知ることができたので、今後の活動にどのようにUD的考え方を取り入れるか、いろいろ思いを巡らせることができた。(分科会のタイトルと実際の中身があまりリンクしていなかったような?)
- 実践例と他地域の取り組みは参考になるため。
- 各地の関係者の名前と顔が一致した。
- 国際交流のあり方と関わり方を考えた。自分の出来ることから始めようと思った。
- 話に引き込まれました。
- 具体的な成功事例を教えてくれたのは、参考になると思った。
- 讃岐ジオガイドの横山さんの発表しか聞けなかったが、ジオガイドと地域とのつながりを考えるいい機会となった。
- 途中、回線不良で落ちてしまいましたすみませんでした。
- 思った内容と少し違った。
- 事例紹介4つはボリュームが多すぎたように感じます。
- 様々な事例が学べたが、実際に話す機会があまりなかったため。
- 直接該当がない地区ではあるが、興味がある。
- 他地域の事例を知ることができたから。
- 画面を通して、他地域の方の話を聞くことができたため。
- 内容には満足しているが、実際に現地で人と接したかった。
- ユニバーサルデザインについて理解できた。
- 良い話をたくさん聞けました。
- ブレイクアウトルームでの意見交換が良かった。
- ネットワーク分科会に参加したが、口頭発表で多様な事例を知れたのがよかった。ブレイクアウトルームでは、ファシリテーターの進行はとてもよかったのに日本人の参加者が非常に消極的で決まった人のみ発言する結果になってしまったのが残念だった。
- 楽しそうから始めるジオガイドが私には欠けていた。実践で活かした。
- メリハリがあり良かった。
- ジオパークで出来ること、やりたいことを通して、その先に何を目指したいのか。ガイド活動のその先に見たい、活かしたい未来を想い描く必要性を改めて感じた。
- 経営学の観点からのジオパークの現状分析は、自分ではやったことがなかったのでとても興味深かったです。また、各地域で様々な取組をしている方々の実体験を踏まえた具体的なお話を聞くことができたのも良かったです。
- UD分科会は現地ツアーないときついよ。
- ジオツーリズムの考え方(仕組み)や具体的な事例を学ぶことができ、活動の参考になりました。
- 横山さんのお話がとても参考になった。持続可能な地域「経営」活動という話も、日頃感じていたことがスッキリした。
- それぞれのジオパークの状況を理解することができた。

## ③ やや不満

- 経営学の観点から話が聞けたのはよかったが、ただただ、聞いているだけで、グループトークする時間等が欲しかった。
- ユニバーサルデザインについては、よく分からないので話を聞きたいと思って参加したが、突然司会やまとめ役を振られて困った。
- 何について話し合えばよいのか、やや捉えどころが不足しているように感じた。
- グループに詳しい方がいなく議論が進まなかった。
- 保全:理念などのお話が多かったため。調査研究など事例報告が多ければもう少し楽しめた。
- 内容が一方的。
- MCさんが頑張ってくれたことは分かりますが、事例紹介などで宣伝的なところは、少し感じた。
- 明確な答えが出ていない。
- 課題が明確でないようであった。ジオパークの中に湿地の保護保全の活動がまだまだ位置づいていないように感じた。
- 特定の方の話ばかりで、参加者の話が聞けなかった。
- 事例紹介がほとんどで議論がほとんどなかった。
- 聞きっぱなしで終わってしまいました。
- 白山のユネスコエコパークの事例報告があったが、「ネットワークの活用」は、ジオパークだけではないネットワークとのつながり作りを進めていくことで、多様な国内外の社会活動のなかにおけるジオパークの価値を高めることになる。カンラン岩ネットワーク(マントルジオパークネットワーク)は、私たちがどうやってもたどり着けない地球内部のマントルの便りが届いている場所が、(カンラン岩

の研究だけでなく)私たちの人類に何をもたらしたかという共通の切り口を与えそうで、学術研究のつながりが、研究とはフェーズが異なるジオパーク的価値の交流にもつながりそうで、これも外(学术界)のネットワークとのつながりとして面白いとは思った。ジオパーク同士のネットワークにとどめていたら、うちわ受け活動と誤解されてしまうので、ぜひジオパーク同士ではないネットワーク作りにもっと積極的に取り組んで欲しい。中で発言したコモオGGN副会

長が感動した世界語り継ぎフォーラム(ジオパークと語り継ぎ分科会)は、次の報告書の40ページ以降を参照されたい。[https://tell-net.jp/forum2020/pdf/00\\_Tell\\_Net2020\\_Report.pdf](https://tell-net.jp/forum2020/pdf/00_Tell_Net2020_Report.pdf)

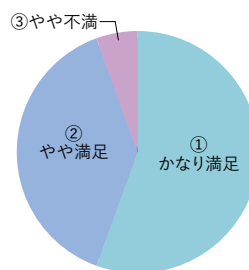
- 経営学の眼から見た評価は面白いが、ジオ関係者のズレしているところをもっとほじってほしかった。
- 発表しても得るものがあまりなかった。

#### ④不満

- 思っていた内容とちょっと違った。
- 地域の実態にあっておらず、参考にならなかった。

### (3)-12 オンラインインタープリテーション講座は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	10	55.5%
②やや満足	7	38.9%
③やや不満	1	5.6%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	202	—
合計(不参加除く)	18	100.0%



#### (3)-12 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

##### ①かなり満足

- ガイドへの意識付けとして有効でした。
- 二日間にわたって講師の菊間さんと仲上さんと他のジオパークガイドの皆さんと一緒にインタープリテーションを体験・実習しながら楽しく学ぶことができました。実習後のプロである菊間さんのコメントが大変参考になりました。
- とてもわかりやすく楽しかったし、学びも多かった。多くの方が参加して欲しい内容だった。
- 講師の方のアドバイス、指摘事項が理解しやすかった。
- 短時間でしたが、楽しく学ぶことができました。
- オンラインなのに実践的で勉強になりました。
- ガイドツアーの改善の方法が見つかった。

##### ②やや満足

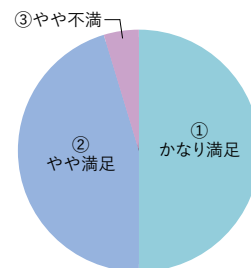
- 菊間さんの講演を聞いてから、とてもインタープリテーションに興味を持つようになったので、今回、色んなGPの方のやり方を聞き勉強になりました。
- 全国のジオガイドさん達のお話が聞けて、勉強になりました。時間内に終わらず、次の予定があった為、途中退室してしまったのが残念でした。

##### ③やや不満

- ジオツアーの目標、が楽しい経験ということにかたよっていて、知識の分かりやすい理解を進めるということがなごりにされてい
- たと感じた。相手の求めるものに応じたガイドも必要なのではと感じた。

### (3)-13 おもてなし動画は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	32	50.0%
②やや満足	29	45.3%
③やや不満	3	4.7%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	156	—
合計(不参加除く)	64	100.0%



#### (3)-13 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

##### ①かなり満足

- インターネットでいろいろなサイトを見ました。お疲れさまでした。
- 動画として充実していました。
- 内容がわかりやすく、また構成が斬新で楽しめました。
- バランスのとれた構成で楽しめました。
- いいででした。
- 途中からしか見ていないが、印象に残った。
- 楽しかったです。
- わかりやすく、なおかつ現地に行きたくなった。
- 鷹の爪は面白い!
- 吉田君が優れていた。
- 引き込まれるつくりだった。
- 「【吉田くん】島根のジオパークが面白過ぎて眠れない」の動画を初めて見た。これだけで満足。吉田君シリーズを2本見るとくどいところもあるが、吉田君のキャラだから上から目線が耐えられるのかなとは思うが。
- 村度しないテンポの良さが最高です。
- 楽しい内容でした。
- とても興味ある内容だった。
- アニメキャラとコラボした動画は斬新だと感じた。
- 文化が伝わってきた。
- ホストの皆さんが頑張ってくれておもてなしして頂いたのが理解できた

##### ②やや満足

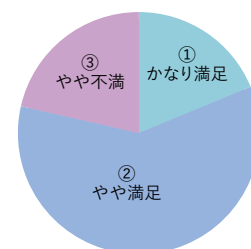
- よくできていた。
- まだ全部拝見できていませんが、コーナーの設定がよかった。
- 現地で見たかったです。
- 吉田くんの動画が面白すぎた。面白いだけでなく的確にジオパークを紹介していた。
- コンパクトにまとまっていたよかった。
- ユニークでよかった。
- 地域を知る良い機会だったため。
- 皆さんちょっと緊張されていたような・・・

##### ③やや不満

- おもてなしだったのか？
- (私が見落としているだけでしたらご放念ください。)披露された演奏や舞踊について、その由来やジオとの関わりなどの解説があると良かったなと思いました。

### (3)-14 パネルディスカッションは満足できる内容でしたか。

①かなり満足	21	18.8%
②やや満足	67	59.8%
③やや不満	24	21.4%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	108	—
合計(不参加除く)	112	100.0%



### (3)-14 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ①かなり満足

- 福島さんの進行がよかった。
- 各分科会の要点が聞けて、とてもよかった。とてもわかりやすかった。
- チャット有効!この機能は現地開催でも欲しい!現地開催だと私語できないよね?オンラインでのチャットは意見の吸い上げに使える!!
- パネラーが時間をまったく守らない中で、コーディネーターの福島さん、ご苦労さまでした。想定内だったのでしょうか。
- とても興味ある内容だった。
- 分科会の内容をまとめてみる事ができた。
- 福島さんのファシリテーションが素晴らしかった。そして、発表内容も導き出された結論も納得のいくもので、今後も「つながり」を意識して活動していきたいと思った。
- 得るところが多々あったため。
- 内容が整理され、分かりやすくまとめられていたので参考になりました。
- ジオパークが地形・地質や生態系、社会、経済が相互に関係し合った世界で暮らしており、このつながりが地球レベル、組織レベルの意識で行動しているというまとめが大変参考になるとともに、ネットワークやつながりの重要性を再認識できたため。
- 各分科会での話が聞けて面白かった。
- 司会者の運営能力に脱帽した。
- ジオと伝説は関係あるなと思っていたものの、他地域のものもまとめて見ることができて面白かったです。
- 短い時間にかかわらず、様々な視点からジオパークに関する分析がなされて大変面白かった。
- 進行がスムーズで、ストレスがなかった。

#### ②やや満足

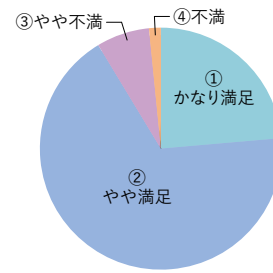
- 活発にコメントがあり、有意義な場になっていた。
- それぞれ内容が濃い話が聞けましたが、時間が短かったのが残念です。ひとつひとつのテーマについてもっとじっくりとパネラーに話していただきたいかった。
- ちょっと聞き取りにくかった。
- 色々な分科会の内容が理解できた。
- 参加者の意見が聞きたかった。
- もう少し時間が欲しいところ。
- 聞いているだけのものはオンラインか現地かの影響はほぼ無かった。
- 貴重な話を聞いて良かった。
- うまくまとまった。
- 大勢の参加でチャットがバンク?ではなかったか。
- 地球・世界・地域の活動・ネットワークを「つながり」を再認識することができました。
- いろいろな議論。
- やはり時間が足りなかった。
- ファシリテーターはメッセージ性のある問題提起をしていた。しかし、投げかけが鋭すぎて、パネリストが答えあぐねているように見えた。チャットがにぎわい、大会を盛り上げていた。
- ジオパークでやることに対する意義を再確認することができた。
- テーマに沿った内容でよかった。
- ファシリテーターの進行が良かった。
- ファシリテーターの進め方とまとめ方は難役を見事にこなされていて素晴らしかった。一方、ファシリテーターの力量に頼りすぎだった感があり、各分科会のパネリストによる報告の段階で全体ディスカッションのテーマ「今、なぜジオパーク?」を意識してもらう統一したフォーマットに沿って準備してもらわなければならないと思う。
- 参加はできませんでしたが、他の分科会の報告からも学ぶことが多くありました。大会のテーマに対する答えは、自地域でも議論していきたいと思います。
- 参加者が少なかった。
- 上記の理由ではありませんが、午後のためかPCの前で眠気と戦っていました。そして後半は負けました。
- 大会で議論された内容が理解できてよかった。参考にしたい。
- 分科会の内容を整理することができたため。
- 参加してない分科会の概要が聞けて良かった。オンラインは、話している人の顔が見えるのがいいと思った。
- 各分科会の意見がよく整理できていたと感じたし、ファシリテーターの進行も良かった。

#### ③やや不満

- もうすこし時間が欲しかった。
- 内容が多岐にわたり、特に印象に残らなかった。
- 時間が足りていないように感じた。
- 概要を報告する形式だったため、内容を理解しづらかったから。
- うーん。
- 各分科会で議論した内容が、今後のジオパークの活動にどのように反映されるのか(どのようにつなげていくのか)、分科会のゴールとその後についてあまり見えてこなかった印象です。
- もうちょっと熱のある方だったら良かったかな。パネルより、順番意見発言のようで、少しつまらなかった。
- 詰め込まれていて、結論までいったのかな、という印象。
- 時間が足りていなかったように感じた。
- 出た意見の羅列になっている部分もあり、理解が難しいように思いました。ある側面での答え(それが唯一の正解でなくても)をお聞きできたらよかったです。
- 分科会の報告会だった。
- 仕方が無いが、散漫。
- 実際に参加した分科会の話でないと、まとめだけを聞いてもよく理解できなかった。
- ディスカッションによって深められたことがあまりなかったように感じた。今回のテーマをパネルディスカッションという形式でまとめるのは難しかったように思う。
- 話が煩雑だったため。
- 各分科会の結果発表が主で、議論や意見交換のようなものが少なかった。
- 時間不足であった。

### (3)-15 閉会式は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	30	23.6%
②やや満足	86	67.7%
③やや不満	9	7.1%
④不満	2	1.6%
⑤不参加	93	—
合計(不参加除く)	127	100.0%



### (3)-15 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ①かなり満足

- とても興味ある内容だった。
- 特にマイナス点が無いため。
- 滞りない進行であったため。
- 短くてよかった。
- 大会宣言がとてもよかったと思います。
- 来年に向けたメッセージが伝わってきた。
- オンライン開催となった中、うまくまとめていただいたと思います。
- 立派でした。
- バランスのとれた演出で、流れがあった。
- 大会宣言や開催地の首長のまとめがわかりやすくてよかった。
- 大会宣言はこれまでより内容のあるものになったと思います。
- 進行がしっかりしていたと思います。
- 素晴らしかったです。急遽のオンラインでここまで行えたのは素晴らしいです。また市長のコメントに感動しました。真摯に向き合っていることがとても伝わってきました。
- 今後も頑張ろうという気になった。
- 実行委員長の熱意が伝わった。
- 一部しか見られなかったのですが、良かったです。
- オンラインでの可能性を感じさせていただきました。

#### ②やや満足

- 最低限のことをきちんと押さえた閉会式で満足。
- もう少し、白山押しをしても良かったと思う。景色だけでなく、人や暮らしなどが欲しかった。
- 普通の閉会式であった。
- 松江市長がよかった。
- 次の大会につながる閉会式だった。
- ユネスコ世界ジオパーク概説プレゼンテーションの動画の内容についても触れられたら良かったと思いました。
- オンラインでも十分な内容だった。
- やっぱり、現地に行かないと物足りないです。
- 簡潔で分かりやすかった。
- 松江市長のあいさつが良かったです。大変な大会運営だったと思いますが、事務局の皆様がよくまとめてくださって、ありがとうございました。
- スムーズな進行だった。
- 大会宣言をわかりやすく出していた。
- 「宣言」を組み入れたことは良かった。
- 個人的な理由ですが、来客があり、あまり見ていられなかった。
- 困難の中、素晴らしい大会の運営がなされ、敬意を表します。
- 今回、きちんとした宣言が出たことは評価できる
- 宣言発表はその大会の特徴を残す意味でも大切だと感じた。
- 簡潔で次回のアピールもよかった。

#### ③やや不満

- 開会式同様閉会式もオンラインでの参加は必要なのか疑問に感じた。
- Youtube Liveでは、時差があった。
- 大会宣言は毎回準備されていると聞いたが、実際的に毎回出す意味があるか疑問に感じた。本回・次回開催地の市長があいさつをするのは恒例だと思うが、もっと開かれたイベントとして印象づけるために、それぞれの地域の若者にも登壇してもらう時間を設けるなど変化をつけてもよいと思う。
- 開会式と同様で、パフォーマンスがなくて、スピーチばかりでつまらなかったなあ。
- 結果、なぜ今ジオパークなのかわからなかった。
- ありきたりだったため。

#### ④ 不満

- 大会宣言が薄っぺらい。
- 大会宣言にガイドの存在がない。内容が市町村長の成果ばかりに偏り、分科会の成果や次に目指す目標が具体的に盛り込まれておらず、とても残念。ジオパークは地域振興の切り札ではないと

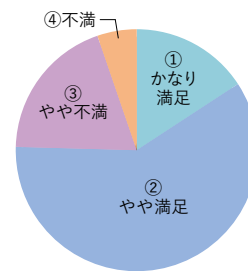
過去に幾度も確認されているにも関わらず、宣言文に盛り込まれている点については、この大会に関わった方が本当にジオパークの理念を理解してネットワークに参加しているのかどうか、疑問が残る。これが11回大会の宣言文として残るのかと思うと、この先のジオパークのネットワーク活動の行く末が思いやられる。

#### ⑤ 不参加

- 机の上で気が付くとすべてが終わっていました。
- 参加しましたが、関係者同士で感想を述べあっていましたので内容を覚えていません。

### (3)-16 ブロック別パビリオン(大会特設ページ)は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	9	15.8%
②やや満足	34	59.6%
③やや不満	11	19.3%
④不満	3	5.3%
⑤不参加	163	—
合計(不参加除く)	57	100.0%



#### (3)-16 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

##### ① かなり満足

- ご準備頂きありがとうございました。
- 楽しかったです。
- わかりやすかったです。

##### ② やや満足

- 形式上の問題で、眺めるだけで終わってしまった。
- 人が行けば、もっと工夫できるでしょうね。
- もう少し情報が多くても良かったように感じます。
- 各ブロック工夫を凝らした出し物で、楽しく見ることができました。
- 主催者は大変だったと思いますが、ポスター等で全国のジオパークを知ってもらえることができてよかったですし、いろんなジオパークのポスターの作り方も見えて、今後の参考になりました。
- 綺麗にはできていた。
- 中部ブロックとして、オンラインと現地(展示のみ)併用で参加しましたが、やはり実際の現地でお客様の反応等を見てみたかったと思います。

##### ③ やや不満

- 全パビリオンをテーマだけでも統一してもいいのと感じました。しかし、予算や人員が地域ごとに違う中で、実施そのものを無理に行わなくてもと思っております。
- じっくり見る気と時間が無かった。
- 現地での展示写真なども見れるとよかったと思う。
- 総じて興味をひかれなかった。オンライン参加では、ブロック別パビリオンで見たことによる付加価値はほとんどなかったのでは
- オンラインにおいては各地域のパンフレットが見られるだけならブロックわけはいらんのではないのでしょうか?
- オンラインで仕方がないけど、「見て回る」感が全然なくて、自分のブロック以外のところは見なかったなあ。UIが使いづらい。
- とかち鹿追ジオパークが載っていなかった。

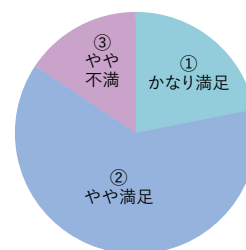
##### ④ 不満

- あんまりやる気を感じなかった。
- ムでの回答がゼロだった。
- オンラインの展示を提供する労力に対して効果が全然見えなかった。クイズラリーを行ったが、少なくとも、現地からオンラインフォー
- 特に意味をなさないプログラムの一つ。



### (3)-17 展示ブース(大会特設ページ)は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	7	21.9%
②やや満足	20	62.5%
③やや不満	5	15.6%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	188	—
合計(不参加除く)	32	100.0%



#### (3)-17 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

##### ①かなり満足

- わかりやすかったです。
- 楽しかったです。

- 見やすくまとめられていた。

##### ②やや満足

- 見やすい作りだった。

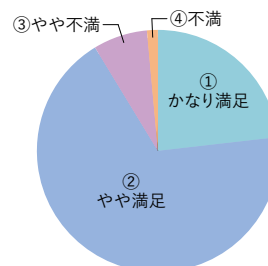
##### ③やや不満

- じっくりと見る気と時間が無かった。

.....

### (3)-18 ポスターセッション(大会特設ページ)は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	16	23.2%
②やや満足	47	68.1%
③やや不満	5	7.3%
④不満	1	1.4%
⑤不参加	151	—
合計(不参加除く)	69	100.0%



#### (3)-18 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

##### ①かなり満足

- わかりやすかったです。
- 12月まで公開されると知り、大変助かった。じっくり拝見できる。
- しばらく拝見いたします。
- 全体的に良かったかと思えます。
- それぞれの発表をきちんと見ることができた。

- 公開日も長くゆっくり見れるのが良い。
- いろいろな取組についてゆっくり閲覧できてよかったため。
- 時間を気にせずに、じっくりポスターを見ることができた。
- 動画も見られて、時間さえあれば理解するまで見られたことと思う。最初は入り方が分からず、3日目に拝聴した。

##### ②やや満足

- 楽しかったです。
- 現地開催の場合、ポスターの前に陣取ってじっくりと読むことや、すべてのポスターに目を通すことは難しいですが、今回はポスターをダウンロードすることができたため、じっくりと読む時間を取れる点が良かったです。

- 現地開催だと質疑しにくいけれどオンラインだと腰を据えて質疑できるが、他のポスターにはふらっとなかなか行けない。
- 現地に行かなくても参加出来るオンラインの有り難さ。
- オンラインで掲載されたものを拝見しましたが、参考になりました。

- 現地に行かずともポスターをみれたのはよかった。
- 現地だと関係者は時間の都合上ポスターセッションが見たくてもみれないので、現地3日間だけでなくオンラインで見れることはよかった。
- 動画もあり楽しめた。
- 動画のアクセスができていなかったが、連絡したところ修正してもらえた。
- まだ十分見れていない。
- 内容や作成者が多岐にわたって興味をもちましたが、現地で実際に見たかった。

### ③ やや不満

- せっかくの内容だったがじっくりと見る気と時間が無かった。

### ⑤ 不参加

- 締め切りに間に合いませんでした。複数回の締め切りがあったら

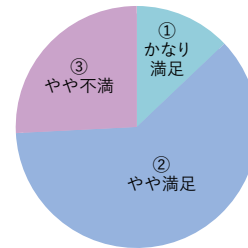
- あとからでもポスターが見れるのはとてもいいと思いました。
- 成功事例などを知ることができたため。
- 動画とポスターとアップ漏れがあったため。
- 興味深いものもあった。
- PDFにしたことにより、画像が鮮明で内容ともに素晴らしかったです。担い手育成のテーマですから、小学校、中学校、高等学校、それぞれにおける取組発表があるとよいと思います。そのことにより、担い手育成における学びの系統性が見えてくるだけでなく、教育に携わる者の参考になると考えるからです。

- 発表時間がルーズであったため、後半の方々はあまり発表できなかった。

- 嬉しかったです。

## (3)-19 全国のジオパーク特産品販売(大会特設ページ)は満足できる内容でしたか。

①かなり満足	4	12.9%
②やや満足	19	61.3%
③やや不満	8	25.8%
④不満	0	0.0%
⑤不参加	189	-
合計(不参加除く)	31	100.0%



### (3)-19 と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ① かなり満足

- 良さが伝わりました。

#### ② やや満足

- 楽しかったです。
- こんなもんかな。
- ほとんどがオンライン参加となってしまう、特産品のご紹介が少

ししかできなかったことが残念だった。でも、中でも大会特設ページでの紹介など工夫していただけたので良かった。

- 品物の情報が揃っているだけで参考になる。

#### ③ やや不満

- 設置されたのはよかったが、数が少なく感じた。
- 本地域は参加しましたが、良い企画だと思うのですが参加が少ないと思います。
- ページのデザインが少し寂しい(淡白な)印象でした。
- じっくりと見る気と時間が無かった。
- 品数がもう少し多く、ECサイトへ繋がってれば、オンラインで応援する気持ちで購入したかもしれません。見るだけで終わってし

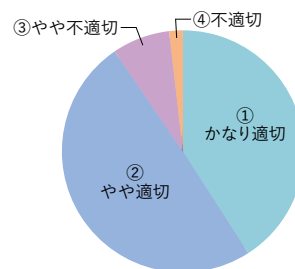
まったので。

- 一か所にまとめず、結局各店のサイトへ移動させた。いろんな店の物を一緒に買うには、めんどうくさい(毎回クレジットカード番号入れたり、送料が発生されたり)。また、一か所じゃないから、セール感がなかった。大会だからこそ安く買える・特別商品がなかったよう。

- もっとたくさん参加しているとよいと考える。

## (4) テーマ「今、なぜジオパーク？」に対する答えである大会宣言に対してどのように思われますか。

①かなり適切	90	40.9%
②やや適切	109	49.6%
③やや不適切	17	7.7%
④不適切	4	1.8%
合計	220	100.0%



### (4) と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ①かなり適切

- コロナ禍の中でも、取組に創意工夫をこらし、充実した全国大会になったことが伝わったからです。ありがとうございました。
- SDGsの現代に合っていると思います。
- ジオパークは今の時代だからこそ、かかわれる内容が多いと感じた。そのことがよく表現されている内容だと思うため。
- ここ数年の激変する世界を的確に捉えたふさわしい宣言であった。
- 良いと思います。
- ジオパークが様々な課題に取り組むことができる活動であるということが再認識できて良かったです。
- コロナ禍や大規模災害が起り、オンラインの普及などそれぞれの生活が変わる中、改めてジオパーク活動について考えることができました。各地域において新しい課題を見つけ、このネットワークを通じ、様々な課題を解決に導く良いテーマだったと思います。
- 適切とは思いますが、ありきたりな話で新鮮味がなかった。
- これからのジオパークのあり方に示唆を与える宣言でした。
- ジオパークの概念が地域資源の保全、活用することによりこれからも存続する地域づくりを実施していくことと合致している。
- コロナという世相を反映したものになっているから。
- 直近の情勢にも触れ、今大会を象徴するものとして相応しいと感じたため。
- 分科会などでも、テーマに沿った内容の話や議論をしていたので。
- 関心を惹きつけられるテーマであるから。
- 昨今、環境の変化で、想像を超える気象状況による災害が毎年日本を襲う中、それを共有し、議論できる場があることはとてもありがたいことです。教育の面でもジオパークが、注目されるようになり、子どもたちに伝えていく上で重要な教育になってきている。ジオパークそれぞれが試行錯誤している中、成功例も失敗例も共有して、ネットワーク一丸となって持続可能な活動になっていってほしいと思った。
- 各種自然保護団体から、町の商工会までSDGsに取り組んでおり、各活動が収斂しつつある現状の中、何故ジオパークかを考え、本当にその自治体の中で維持していく必要があるかをじっくり考える時期に来ていると思うため。
- 全国大会の総論として大変わかりやすく、また全国のジオパーク活動の1つの指標となるような宣言であるため。
- ジオパークの持つ多様性、ネットワークを活かして、地域振興のみならずグローバルな問題にも取り組もうという前向きな考えをとりられていることに感銘を受けた。
- 地域の住民、団体、企業、行政の参画を促し連携して活動することの大切さが明記されている。
- 島根半島・宍道湖中海ならではの内容も含まれており、良いと思います。
- ジオパークの活動を拡大していくための視点が記載しており、やる気が出ました。
- 地域を知り魅力を再発見することの必要性をわかりやすく宣言していたため。
- SDGsを総合的に理解し参画するのにジオパーク活動が最適と感じた。
- 良い判断であると思います。
- 今の情勢に適合した内容であった。
- ジオパークを知らない方から必ず聞かれる内容なので、深くここで色々な意見を聞けてとても良かったです。
- 今後、ジオパーク活動を継続していくための一つの指標になりました。
- 各ジオパークの、現状を憂いながらも未来を指向する気持ちがよく反映されていると感じます。
- 自分の考え方があり、ジオパークのミッションに合っています。
- コロナ禍での新しい試みを初め、新しい時代への対応が感じられた。
- エリアにより、今の時代が必要とされるジオパークの認識が違うため、改めて日本ジオパークの各エリアの意識統一としていいと思います。
- 全国のジオパークが考えている目的・目標に一致していると思ったから。
- 他地域に行けないからこそ、もう一度自分たちの住んでいる地域をより深く知る機会となり、ジオパークの重要性がわかったため。時代に合わせて取り組みが変化していくこともジオパークらしさを感じたため。
- コロナ禍の時代に沿った宣言になっている。
- これからの日本で生きていくと言うことは、災害と共に生きること、という事を考えさせられた気がします。
- コロナ時代の自然の理解と自然との共生の在り方を提言していることは評価できると考えます。

#### ②やや適切

- なぜ、今、ジオパーク？の答えになる部分を明確に、簡潔に一文添える必要がある。
- 様々な団体との連携や「ご縁」を考えさせられた。
- ジオパーク活動の推進にあたり、財源やツーリズム、地域振興や保護保全、SDGsなど、取り組む内容が多岐に渡っており、このテーマで原点に立ち返って考えることができた。

- 「ジオパーク同士のネットワークを充実強化することが重要」という考えは本来のジオパークネットワークの方向性にマッチしており、納得できる。
- すぐ考えさせたので、いいテーマだった。しかし、島根の味がなかったのが残念。
- これからの方向性を指し示せていた。
- いろいろな事情を抱えるジオパークの全体的な総意は出せていたと思う。
- 大会のテーマは「今、なぜジオパーク?」というものだったが、今大会の主要な関心事は、「コロナパンデミックへの適応とその実践」にあっただろう。大会宣言はそれを強く意識したものになっており、妥当な内容である。欲を言えば、大会で飛び出したフレーズやエピソードを一文添えてほしかった。
- 一般的で良いと思いました。
- 問い自体が漠然としているため、まとまりに欠けるきらいがある。
- 新型コロナウイルスや過去、例のない災害に見舞われている昨今において、ジオパークの在り方や活動の指針として、ある程度道筋が示されたのではないかと思います。
- 「ジオパーク活動における方向性」をもっと明示すべき。
- 多岐にわたる話に対して、適切に体裁を整えてくださったと思います。
- 大会宣言には期待していないので特に感想はない。
- かつての大会宣言のように、分科会での価値創造部分が十分反映されていない。これは分科会が価値創造の場としていないため、やむを得ないとも考える。それを除いたら、まあまあ満足の内容でした。
- これまでの地域活動にグローバルな感覚・視点を持つこと、ジオパーク同士のネットワーク強化の重要性を発信されていた。
- ジオパークの理念や活動をみんなで再確認するものとなっていた。
- 島根という土地柄を活かして、「神在月」とか「ご縁」とか、うまいこと言えなと思いました。
- それなりの文言であるが、そもそもどうして「今、なぜジオパーク?」というテーマを選んだのかが各場面であまり明示されていない。
- 「今」というところが明確にはならなかったが、ジオパークをする意義は凄く感じられました。
- 138億年の宇宙の歴史(ビッグヒストリー)的な感覚で、宇宙の歴史の中に人類を位置づけるような、大きな枠組みでのジオパークなんてものも考えたらどうかと思った。

### ③ やや不適切

- 大会開催地にとって意味があったのであればよかったです。ジオパークの取り組みの広がりや深さは地域によっても参加者によっても異なるので、このテーマがきさったかどうかはわかりません。でも、原点に戻って考える機会になっていたらよいと思うので、他の参加者の感想を聞きたいです。
- 時間的に厳しかったと思われるが、全国大会を開いて意見交換、議論する意味を考え、反映すべき。
- 「ジオパークは、世界が抱える多様な課題に積極果敢に取り組むことのできるプログラム」という定義が答えであり堂々巡り。定義と意義の再確認としてよい宣言だが、テーマに対する答えとしては不適切に思える。この場合テーマにもうひとひねりあったらよかったのかも。
- ジオパーク活動は、そんなに万能な活動なのだろうか。私自身は十分に参加できなかった。
- 事前にできあがっていたのか、私たちの分科会の総括を含んでおらず、他の分科会もそうだったのかと思うと、大会宣言は誰の何のためにあるのかな、という印象です。

### ④ 不適切

- かつての様に分科会、パネルディスカッションを受けて大会まとめ役と分科会責任者とが死ぬ思いをして作っていた大会宣言と

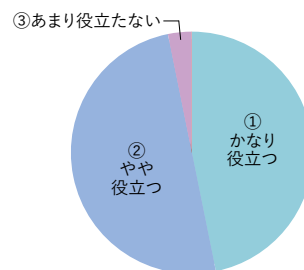
- いつも顧みることが重要である。
- パネルディスカッションの進行にもあった通り、そもそものテーマがもう少し答えを見つけやすい問いかけであった方が良いように感じた。
- 私が参加したセッションや講演がそうだっただけのか分からないが、視点が国内、地域に向けられた形で企画進行がなされており、日本ジオパークとしてUNESCO国際ジオパークが掲げる問題に対する取り組み、例えば、新たなアフリカ、中南米、東南アジアにおける教育や人材育成、ノウハウの共有など、UNESCO国際ジオパーク活動における、日本ジオパークが果たす役割についてなどについて話す企画が必要ではなかったかと思います。次回開催に対して、出来れば結構なので、国外からのステークホルダーをゲストとして呼んで、国外のジオパーク関係者が何を日本ジオパークの活動に望んでいるのかの話をしてもらっても良かったのではないかと思います。
- 事前の準備大変だったと思いますが、防災については、方向性までは示せていないように思います。
- コロナ禍をオンラインで乗り越えたこと。各ジオパークの交流を図れたこと。
- 特に、世界文化遺産、世界農業遺産と重なるのでこの視点がどっしり構えることが重要と思う。
- ジオパークがレジリエンスの中核であること、をもっと謳ってほしかった。
- これまでの活動のまとめと今後の10年に向けた活動の指針となる。
- 宣言の内容はその通りだと思いますが、大会での議論の結果が全く反映されておらず、大会前でも書けるような内容なのは残念です。
- ジオパーク活動が地域社会の課題解決に有効なプログラムであることを宣言に盛り込んだことは良かったと思います。
- 大会への参加を通して、ジオパーク活動が持続可能な社会の実現のための一つの手段であることを再確認できたから。
- ジオパーク活動の目的が地域振興にあることが再確認できた。
- こんなものかと思う。
- まとめとしては適切かと思えます。
- 内容が理解しやすい。
- SDGsと関連している。
- 各地の取り組みの度合いが推し量られる切り口と思う。

- ジオパーク全体ではなく、島根だけが強調されすぎていたように感じました。
- 包括的にまとめはしているが、具体的に今大会の成果として新たに盛り込まれた内容が含まれておらず、実際の活動推進に生かせる文書になっているとは言い難い。
- 宣言というより、大会の総評のように感じたため。
- 大会をしていなくても同じ宣言が出せそう。
- テーマが大きすぎるのでは?
- テーマに対するブロックとしての考え方やメッセージなどが伝わってこなかった。
- 「なぜ」に対する議論がほとんどなかった。
- 各分科会での協議内容の反映があまり感じられなかった。
- ジオの視点から見ると気候変動は、人類が活動しているからで。災害などそこが必要と思うから。

は質が全然違う薄っぺらい大会宣言。

## (5) 本大会は今後のジオパークの活動に役立ちますか。

①かなり役立つ	103	46.8%
②やや役立つ	110	50.0%
③あまり役立たない	7	3.2%
④全く役立たない	0	0.0%
合計	220	100.0%



### (5) と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ①かなり役立つ

- ジオパーク教育に携わるものとして、ポスターセッションは特に参考になりました。
- いろいろと勉強になった。
- ジオに対する経験が浅く、考えあぐねていたことに対し、道筋をもらうことができたと感じるため。
- 私個人としては、時間をとっての整理が必要ですが、役立つ内容であり、役立つ期間であった。
- ネットワークでの交流が、コロナで少なくオンラインという形式でも、情報交換はマンネリを防ぐ意味でも重要と感じました。
- 他の地域の活動を参考に取り組み・発信していきたいです。
- 海ごみ問題などの保全の取り組みは、島根半島ジオパークの活動に取り入れたい。
- 講師の方々の貴重な講座を聞くことができ、各地域の情報を得られたことで今後のジオパーク活動に活用できると思います。
- コロナ禍という難しい中での開催で、オンライン開催のメリット、いいところを提示することができたのではないかと思います。地方のジオパークは旅費等の工面に難儀しているところもあると思います。そういった方の参加も促され、より有意義な大会になったのではないかと考えます。
- 各地の取組や課題を共有し、今後の活動に生かすことができるから。
- 防災分野をさらに一層発展させていかなければいけないと感じたから。
- 他のGPの取り組みや考え方は参考になるので。
- ジオに興味を持つきっかけになる。
- 全国のジオパーク関係者がこうして交流して、いろんな意見を聞ける場があることはとても貴重です。今後も、こういう機会を作してほしい。
- オンライン利用したジオパーク大会の手本になったと思うため。
- 全国のジオパーク関係者と意見交換ができたことや先進事例を学べたこと、オンライン開催の大きなイベントに参加できたことなど。
- 今回あらたに知ることができたこと、他のジオパークの取り組みなどがたくさんあった。自分のかかっているジオパークでもそれらを取り入れてみたいと思った。
- 色々なところで我々の活動の見直しヒントが得られたと思います。
- コロナ禍でどのジオパークでも活動を制限されている中、初のオンライン大会開催という今後の可能性をみせていただきました。
- 特にオンラインでの利点がかなり浸透した会議であったため。
- ギー・マルティーニ事務局長とアジェール・ヒラリオ議長のプレゼンの言葉。小泉凡館長の講演。分科会での気づきの数々。「今、なぜジオパークか」という問いへの答え。本当にたくさんの有意義な教えと気づきを与えてくださいました。運営された関係者の皆さんに心から感謝しています。
- オンラインで大会を実施という初めての経験が、今後活かせると思う。
- オンライン大会という初めての試みもあり、今後の取り組みにとっても参考になるものでした。
- 海洋プラスチックごみに対する日本ジオパークが進むべき方向が確認できたこと。
- どこでどのような活動が可能かわかってきた。
- ジオパーク先進地の意見、色々な取組み、心構えなどを聞くことが出来たので、大変参考になりました。
- ほかのジオパークのいいところを参考にできます。
- いつも、全国大会から活動のエネルギーをもらっています。
- インタープリテーションについて、同じ組織の中で共有を図りたいと思います。
- 各ジオパークが、日本ジオパークとして協力して取り組んでいくには必要不可欠に思う。
- このような機会があって参加できて、現在の全国のジオパークに関わる方々の考えが伝わってきたから。
- 次回の開催地です。今回の開催を参考に盛会となるよう頑張ります。
- 対面以外の形の可能性と課題を知ることができたと思います。
- 今回はオンラインでの開催となりましたが、皆さんの熱意が伝わる大会でした。運営の仕方や、関係者だけでなく、訪問者も皆で大会を盛り上げる気持ちがよく伝わりました。
- オンラインでの開催は今後とも実施できること、文化・歴史(含む神話)とジオをつなげたことはすばらしい。
- 高校生などが研究発表を行う場としてとても有効。
- 今回、全国大会にオンラインで参加するという、前例のない貴重な体験ができた。島根半島・宍道湖中海ジオパークは、困難に果敢にチャレンジし、幾多の問題を克服して、今回の大会を成功させた。ジオパークネットワークの新たな可能性を示すものであり、ネットワークの一員として活動の励みになっている。
- いろいろな考え方や先進事例に触れられて、よかったし、啓発されることも多い。内容は同じと思いますが、現地開催できれば、もっと迫力があり、訴えかけられたのかと思いました。
- オンライン開催の可能性を広げたから。
- 初めての参加で、いろいろな方にご協力いただいて、ネットワークが広がった。
- 参加した限りは、「役立つ」ようにしたいから。
- オンラインの大会を成功させたことは、今後のネットワークにとって財産。パネルディスカッションを見る限り、分代会でも良い話し合いができていたように思う。

- オンラインでここまでできたことは、各地の後押しをすと思います。運営のノウハウなどの共有を期待したい。コストをかけなくてどこまでできるかなども共有してもらえれば、ネットワークへの大きな貢献になる。
- オンラインの開催であったが、アイデアを交換したり、またつながりをつくることができた。
- オンラインで出ること、出来ないこと、やるべきこと、やるべきでないことを考えるいい機会になったように思う。
- 自分の中でどうすべきか悩んでいた事について解決につながるヒントが見つけれられた気がするから。
- 全国のジオパークで活動されている方の話を聞ける貴重な機会だったと思う。
- アンケートの中でガイドに活かした事項を記載した。男鹿半島、大分大会に参加したが視野を広げた。今回は深める、極めるに役立った感じであった。

## ② やや役立つ

- 為になりました。
- 今後の活動のあり方について示唆をもらった。
- 全国の事例やコメンテーターの意見を聞くことができた。
- 他のジオパークでの事例は参考になるものがあつたため。
- 参加した分科会やパネルディスカッションでいろいろなヒントを頂いた。
- 他地域の取り組みを知り、自分の地域でアレンジして実施してみようと思うため。
- 学ぶことが多かった。
- 参加した分科会の内容がとても良かったので、今後の活動の参考になった。
- オンライン開催のメリット、デメリットを明確にした。
- ジオパークの活動にというより、全国大会の運営の点で、ですが、アフターコロナにおける今後の全国大会の在り方や運営方法を考える上で参考になりました。
- これからオンラインの部分が増えると思うので、オンラインのいいやり方と悪いやり方の事例になったし、ここで考えさせたことはこれからずっと参考になると思う。
- 様々な問題意識を持つ方と交流することができた。
- それぞれの課題を持ち寄り、これからのことをみんなで考えることは重要であり、この大会で話し合ったことは、これからのジオパークの活動に当然役立つものである。
- オンライン開催の難しさを実感できた。
- 各地域の事例をたくさん共有出来てよかった。
- 各地で頑張って取り組んでいる様が見えた。
- 沢山ある課題をもっと整理すべきかと感じた。
- オンラインでも十分開催できたこと。
- 当地域は今回、防災分科会を担当させていただいた。不手際が続き、参加者にとって消化不良な分科会となってしまったことを反省したいと思う。しかしながら、参加者は熱心に聴講し、問いかけに対して意見を記述してくれた。この提出意見を、今後、われわれが継続していく防災・減災活動に関する研修会等に反映していきたいと考えている。

## ③ あまり役立たない

- 印象に残ったことが少なかったため。
- 他地域との交流がまったくなかったため。主催者、あるいは各分科会の運営サイドであればまた違った見方をするのかもしれませんが。
- 特に目新しいものがなかったため。

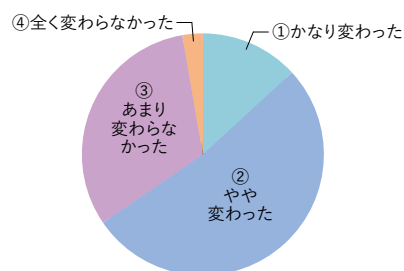
- ジオパークというブランドが日本に広まってきたことを実感しました。
- オンラインで開催することによって多くの方が参加できるようになる。
- 自分が学んできたジオパーク活動ですが、全国のジオパークに関係する方々の色々な情報を聞くことで、ぜひ参考に本ジオパークでも実践できればと思います。共通の問題や悩みをお持ちの方々と情報交換・共有できたので有意義な大会だったと思います。
- 次年度の全国大会開催地として、コロナ禍の中での事業の在り方に示唆をいただきました。
- ジオパークの役割が重要視されている。
- オンライン開催は素晴らしい実績になった。障がいのある方も参加できるようになる！
- 全国大会で多様な参加者が交流することは大事だと改めて感じましたし、新たな発見や出会いもありました。
- オンラインの良い面もかなり見えた。

- 成功体験やノウハウに関しての情報共有ができる点で評価したい。但し、「ジオパークは地球の記憶」という言葉が話されていたが、一方で、「オラが村自慢」でなく、また、単に自然に癒されるだけでなく、国際的にも有意義な場所であり未来の次世代に向けて保全と教育すべきジオサイトについての科学的な意義やこれを支える地元の人々の活動についての情報共有が図ればなお素晴らしいと感じた。
- やはり現地で見えなかった。生での交流の方が楽しさが違う。
- 全国のジオパークの交流によって、よりネットワーク活動が進む。
- 先進事例を学ぶことによって、自分たちの活動に活かそうとするモチベーションができた。
- 人と出会えたから。
- オンラインでイベントなどを開催する時のメリットやデメリットなど、参加者側の感覚を知る機会となりました。
- やる事に意義があると思います。
- 参考になる部分もあった。
- 観光客と共に作って行くジオパークの視点が参考になった。
- やらないよりはやったほうが良かった。
- 分科会でコーディネートした内容が研究テーマになりそうなので。
- リモートでも大会を運営できることがわかったので。
- 他の地域の事例で新たに知ることができたものや、分科会のプレイルームで初めて話すことができた関係者とのつながりは、今後のジオパーク間の協力を進める際に役にたつと思う。
- オンラインの可能性を感じた。
- オンラインであっても意見交換の場は必要と考えるから。
- 初めてのオンライン開催という実績をつくったこと。
- オンラインという新しいチャレンジをして、成果がある程度残ったのはよかった。今後、ハイブリッド開催による多くの方の参加を見込めるだろうと期待している。
- 動画で送られてきた世界ジオパーク連盟事務局長の講演により、ジオパークの目指すものがはじめてわかった。
- 中止となり忙しくオンライン不参加。

- オンラインのため雑談や共有などができなかった。
- ジオパークとしての活動の限界が見えた。
- 面白い、楽しい、だけでは活動していけない。

## (6) 本大会参加前と後でジオパーク活動に対する意識が変わりましたか。

①かなり変わった	29	13.2%
②やや変わった	115	52.3%
③あまり変わらなかった	70	31.8%
④全く変わらなかった	6	2.7%
合計	220	100.0%



### (6) と回答した理由を教えてください。(原文のまま掲載しています)

#### ①かなり変わった

- 地域振興だけでなく、保全・保護に取り組むことの必要性を認識することができた。
- 考え次第で、ジオがかかわることができる内容が大きく広がることがわかったため。
- コロナ禍の後にジオパークに携わったため、ジオパークの基本であるネットワーク活動をしっかりと体験できないまま取り組んできたので、他地域・他団体との繋がりを実感できたことが大きかったです。
- 各地域の特色があるので、参考にさせていただきたいと思いました。
- ジオの実際の場所に訪れたくなった。
- 地元ジオパークを伝えるだけでなく、世界規模のSDGsを意識しなくてはと強く感じました。
- SDGsや環境負荷の軽減など、ユネスコジオパーク的な内容への比重がより大きくなってきたように感じた。
- 本町のジオパーク構想に足りない内容を、他のジオパークの取り組み事例や話を聞くことで気付かされるが多かったです。大変有意義な内容でした。
- ジオパーク交流をもっと重視したい。
- 全国のなかの一地域としての視点をもつことができたから。
- ユネスコ世界ジオパーク概説プレゼンテーションを事前に視聴して大会に参加することができたからです。
- 大会中にジオパークアンが共同してインターネットラジオ配信をする中で「今のジオパークどうよ?」「これからのジオパークどうするべきなのよ?」を熱く語れる機会になった。

#### ②やや変わった

- ジオパーク学習に関する知識を得たからです。
- いろいろな活動事例などに触れることができた。
- 活動の目的が活動事例等により深まり、視野を拡げることができた。
- 新鮮な情報をインプット出来たから。
- 気候変動などにより積極的に関わらねばと思うようになった。
- ジオパークに提供している素材について、各ジオパーク事務局までしか連絡が行かないため、実際に魅力を感じる末端のガイドや学生・院生まで素材の存在が伝わらないため、改善していかなければならないと思ったから。
- 山陰海岸GPでは、様々な立場の人がGPに関わっているが、連携不足が課題。各GP毎に共通目標などを設けるなど、方向性を示す必要があると、再認識したため。
- 自分の中では、日々変わる部分があるため。
- 気候変動や災害など世界規模の取り組みであることを再認識できたため。
- 今回初めて知った取り組みなどが多々あったため。
- これまでの現地参加に比べて効率的な議論がオンラインで有効にできることに気づいたことと、現地で集まることのメリットデメリットを理解する機会となった。
- 「自分の考えや感覚は間違っていないかった」と確信が持てた。
- めげずに頑張ろうと思えた。
- SDGsの重要性をさらに強く感じた。
- 私にできることが見えてきた。
- 全国大会は、参加するたびに成長があります。
- 基本は同じだが、新しい傾向や考え方に触れ、今後の方向性を考えることができた。
- 地域により取り組み方はさまざまですが、地元の特性を見直し更に真摯に取り組む必要性を感じた。
- 知らない知識を得る事と、人に伝えることはべつな問題だとは思いますが、知ったことを伝えたいような、良い時間に感じました。
- ジオパークが今の社会に必要とされる活動であることを実感しました。
- 開催方法、文化・歴史に重きが置かれたことはすばらしい。
- 美しい景観には美しい文学を育む力がある。大地は多様な価値

の創造に関わっている、という思いを強くした。

- 他のジオパークの事情がうかがえて、参考になった。
- 各地のジオパークを、もっと訪れるべきだと思った。
- まだまだジオパークは終わっていないかな、と思えた。
- オンラインの活用の可能性がより広がった。2年ぶりにいろんな関係者と少しだが議論ができたことで、活動が進んでいることを改めて実感した。
- ジオパークに取り組む意義についての知識が拡充したから。
- 今回聞いたさまざまな活動や意見を参考にしたいと思った。
- JGNの今後の10年の活動を考えるきっかけとなった。
- 活動自体を他と比べられ、自分たちのジオパークを見つめ直すきっかけづくりになった。
- SDGsとの関わりを考えていく必要性を感じた。
- ガイドとしての心構えが変わりました。
- 地球温暖化に対する問題意識をジオパークに取り入れたい。
- 参考になる積極的な活動事例を知ることができたため。
- 他のジオパークの方々の意見を聞いて刺激を受けます。
- 見つめ直して、今後も活動をしていきたいと思う。
- あらためて、なぜジオパークに取り組むのかを再確認する良い機

### ③あまり変わらなかった

- 課題が多すぎて活動にどう反映させるべきか悩んでいるため。
- 意識としては変わらないかなあ…活動ヒントは多々得られましたが…
- 印象として、「おらがジオパークのー」と言った視点での対応が多く、国際貢献、デジタル、海洋ごみ等、UNESCO国際ジオパークの方針に対して、どう対応するのかという点での議論が弱いと感じた。
- 方針と同意の内容だったため。
- 日常的に活動に取り組む気持ちに変わりはない。
- 新たな気づきもあったが、意識が変わるほどではなかった。
- 重要であると意識しているため。
- 日常的にかなり濃く取り組んでいるから。
- ジオパークの概念を再認識したので意識としては変わらない。
- ネガティブな意味ではなく、自分のジオパーク活動がジオパークの大事にしなければならないこととずれていなかったため。
- 基本的な考えを変更するような内容はなかったため。
- 参加後、意識はとくに変わっていない。
- 特にこれといって新しい知見を得られなかった。
- 変わるほどのインパクトを受けるものがなかった。
- 私自身の能力不足もあるかもしれないが、全国大会のどこかのセッションの運営担当を任せられると、その準備や実施後の対応に追われてしまい、全国大会の全体内容から学び取る時間が限られ

### ④全く変わらなかった

- 意識が変わらなかったため。

会となった。

- 地域振興やガイドの育成など、今後の活動に活かせる内容があり、どう整理して考えていくかの意識が少し変わった。
- 改めて熱が出た。
- コロナで人と交流する機会が減ってしまった中で同じ思いでやってらっしゃる方々と画面越しでも意見交換が出きたのはとてもよかった。
- コロナ禍のなかでの大会、いろんな工夫がなされ、これからの大会を考えるうえで、様々な可能性を感じるものであった。
- 各地域の実態がわかり、地域で活かそうと思えた。
- 現在のジオパークが大きな変換点にさしかかっているといった感覚が伝わって来た。
- やれば出来ることがわかった。
- 各ジオパークも色々な悩みを抱えている。模範が無いことに共感した。
- やはり先進事例を学ぶことにより、自分が何が出来るかを考えるきっかけとなった。
- 他地域の事例も知ることによって刺激を受けたから。
- ステークホルダーの認識が間違っていたことに気づけたこと。
- 生態系について踏み込んだ点は評価できる。

てしまう。また、全国大会における「学びの機会」の大きな要素は、実際に普段行かない地域のジオパーク活動に触れ、自地域の取り組みと比較検討することにあると実感した。

- やはり、ジオパーク活動が、我が国、我が地域、我が地元の「地域おこし」の一環でなく、国民を含めて、ジオ(地球や自然)に対する意識向上に向けてきちんとした役割を果たす活動になって欲しい。そのためには、個々のジオパーク協議会にこの役割を求めるのではなく、日本ジオパークネットワーク事務局が把握し役割を担うべきかと思えます。44と膨れ上がった各地のジオパークの地元活動と、対外活動を含め俯瞰的にみて活動する事務局との役割分担をしっかりとされては如何と思いました。
- 一応、やっただけ感があります。自分としては。設営の皆さんも残念な気持ちは同じかと思えます。
- やはり現地で対面で交流しないと物足りないです。
- 変わらないと言うか、現在取り組んでいる方向性で良いことが確認できた。
- 十分に参加できなかったから。
- あまり参加していない。
- オンライン開催という形態以外に新しい取り組みがあまり感じられなかった。
- 今、なぜジオパーク?の問いに対する答えが、未来へ繋がるものかどうかわからない。これから日本ジオパークに認定される地域や、これからジオガイドとして活動する人が、どう捉えるかで変わると考える。
- 各地域の情報が入ってこない所。



## (7) 自由記入欄 (原文のまま掲載しています)

### その他、大会参加の感想等について

- ユニバーサルデザインの委員会活動は是非継続してほしい。
- 開催方法の変更など、事務局の方は準備にご苦労されたことと思います。本当にありがとうございました。様々な経験があるジオパークの考え方や事例等を参考にさせていただくことが、どんなに有意義なことなのかをしみじみと感じました。
- 全国大会運営大変お疲れ様でした。感染状況など先行きは不透明ですが、きっとオンラインジオツアーに登場したサイトを見に行きたいと思います。
- 大会関係者様 大変お疲れ様です。
- 初めてのオンライン大会でご準備が大変だったかと思います。強いていうならば、全体を通して休憩時間が少なかったかと思います。オンラインで今後、ジオ全国大会などを行う場合は、その点を気にされて運営の方が良いと思いました。また、パビリオンの関係で大変お世話になりました。本当にありがとうございました。
- コロナ禍における、オンラインでの開催でしたが、参加しやすく楽しく学ぶことができました。他地域とのネットワークを広げ、より良いジオパーク活動を行いたいと思います。ありがとうございました。
- 初めてのオンライン開催で本当にお疲れ様でした。現地に行けないガイドも参加できて大変有意義だったと感じます。但し、分科会のみ1日だけ参加してあのような状況で参加登録料1,500円は高いと言われたので、金額設定が要検討かと思われます。また、準備する事務局の負担を軽減することが重要なことと思いました。
- 開催間近に迫ってからのオンライン変更は開催側にとってかなりの負担が強いたと思いますがそれを感ぜさせないすばらしい大会でした。おそらくいろいろ準備で無理をされたかと思われるので、どうかゆっくり休んで下さい。すばらしい大会をありがとうございました。
- スタッフの皆さま大変お疲れ様でした。
- 現地開催が出来なかったことは大変残念でしたが、当初参加予定ではなかった私も参加させていただくことができました。私はエコパーク事務局員ですが、大変興味深い内容で、楽しく学ぶことができました。いつかジオパークエコパークの垣根も越えて交流できればと思いました。オンラインの良さを感じることができたのは、運営の方々の努力と思いがあったからだと思います。一部のみの参加でしたが、司会も素晴らしく有意義な時間でした。ありがとうございました！
- オンライン参加で運営されるご苦労は大変だったと思います。お陰様で様々な知識を得ることができました。今後の活動に活かしてまいります。
- 今回の全国大会はコロナ禍によりオンライン開催となりましたが、アイデアを交換し共有することは出来たと思います。オンライン研修会はJGN研修会などで既に行われていますので、研修目的のプログラムはオンラインで問題ないと思います。一方、交流会など気軽に話すFace to faceのコミュニケーションの場などを通じて、意気投合してネットワークの仲間を増やせることも全国大会に参加する楽しみの一つです。全国大会を開催するにあたって、それぞれのプログラムの意図する目的を吟味して、例えばジオツアーと口頭発表のポスターセッションや地域住民も含めた交流会など現地開催にふさわしいプログラムと、例えば講演会や分科会や研修などのオンライン開催で目的を達成できるプログラムとに選別することが大切ではないでしょうか。
- 特に、4日分科会保護保全の項に記載した。
- 大会宣言のあり方これで良いのか?!
- ジオパーク教育に携わるものです。今回、ポスター等の発表がとても参考になりました。ありがとうございました。私は一昨年前、大分で行われた全国大会に参加しました。そこで感動体験をして、ジオパークに関する見方や考え方が変わりました。以来、ジオパークの魅力に取り憑かれ、今も細々と小学校で実践を重ねています。1人でも多くの先生方がジオパークの魅力を知り、持続可能な町づくりの担い手育成に興味を持って頂けたら素敵だと、大会参加を通して今回強く感じました。コロナ禍で大変な中、丁寧な対応を頂き感謝しております。ありがとうございました。
- オンラインという形式ではありましたが、とても楽しめる内容でした。特に、ジオツアー。ただ、たまたま私が参加者を取りまとめる立場だったため、完全オンラインに切り替わったというアナウンスを出した瞬間、興味をなくす参加者もあり、オンラインに慣れていない方が多いと感じました。一方、オンラインなら参加したいという方もおり、このあたりの温度感を各地域で深掘りして分析すると、来年以降よりよい形でプログラムを提供し、理想のハイブリッド開催が出来ると思います。
- 一昨年のおおいた大会とほぼ正反対のポリシーで開催された大会で、さまざま考えることができてよかったです。
- 大会事務局の方は、ジオパーク全国大会初のオンライン開催で大変だったと思います。お疲れ様でございました。オンライン開催では動画で各講演を残しておき、後日また見直すことができるなど、メリットも多く収穫も多かったと思います。今後の大会の在り方も考えさせてくれる良い大会でした。
- コロナ禍のため、オンラインだったので、参加しやすかった。できれば現地開催が望ましく、現地に伺いたい、他の日程と重なることもあるので、今後も現地・オンライン併用で開催してもらえとありがたい。
- 大会運営ありがとうございました。落ち着いたら島根半島・宍道湖中海ジオパークを訪ねます。
- 大会が終わって島根半島・宍道湖中海ジオパークに行きたくなくなりました。結局はこれが一番大切だと思う。
- コロナ禍における初となるオンライン開催は様々なご苦労があったことと思います。すべてオンラインにも関わらず、参考になる情報が多い上、情報交換も行うことができ、開催していただき感謝いたします。また、大きな事業におけるオンライン開催の手法についても大変参考になりました。ありがとうございました。
- 完全オンライン化ということもあり少し不安もありましたが、熱い議論を見聞きすることができ大変刺激になりました。また、長年ジオパークの運営にかかわってきたみなさんや首長の皆様、こんなに熱意をもって取り組んでおられるのに感動しました。日本のジオパークは、まだまだ発展中、伸びしろいっぱいなのだワクワクしました。コロナ禍で大会開催が二転三転するなかで、このような素晴らしい大会を開催して下さった関係者の皆様に感謝します。どうもありがとうございました。
- オンラインでの開催準備に苦勞いただいたことに感謝します。
- これから、地元の人や認定エリア外の多くの方々に向け、ジオパークを使っていることを発信していきたいと思ひます。多くの刺激と教えと気づきをありがとうございました。
- オンライン開催となって事務局は本当に大変だったと思ひます。心より感謝します。
- オンラインで戸惑いがちで疲れました。年寄りには難しいです。
- ステージスライド資料もう少し大きくして見やすくして欲しいと思ひました。
- 今回オンライン開催をして頂き誠にありがとうございました。仕事の都合上、大会にいけない時期なのでオンライン参加ができてよかったです。今後でもできれば、オフラインとオンラインと両方とも開催して頂けると大変嬉しいです。ありがとうございました。
- オンラインでジオパークを参加して、とても便利と思ひます。お互い勉強できる機会でした。ありがとうございました。
- 打合せや、自前のツアーなどで参加できる部分は少なかったものの、オンラインだったからこそ、限られた時間だけでも参加できたことに、感謝いたします。ご準備されていた、みなさんに感謝しております。ありがとうございました。
- オンライン開催で、色々大変なこともおありだったと思ひます。お世話になり、ありがとうございました。

- オンライン参加は移動のない分 安易に参加できるが、やはり臨場感に欠けること周りの事象に左右されるなど、やはり現地へ出向いての参加が一番だと思う。
- 運営の皆さん、お疲れ様でした。初めて参加させていただきましたが、チャレンジな部分がとても多い中、防災と言う分科会に参加させていただきながら、とても興味深く、これから地元の人や関わりになる人たちに伝えたいと思わせていただける、たくさんのヒントをいただいた気がしています、このような機会を与えて頂けたことを感謝します。ありがとうございました。
- 大会事務局の皆さま、コロナ禍の中、オンラインでの開催を決めてくださり、様々なプログラムをそのまま進めてくださりまして、本当にありがとうございました。オンラインであることで、通常であれば、交通費などの予算の関係で参加できない方も、気軽に参加できたと思います。大会の内容もとても素晴らしいものでした。事務局の皆さまのお気遣いと工夫が素晴らしかったです。ご準備から運営など本当に大変だったかと思えます。大変お疲れさまでした。新しい全国大会の在り方を示していただいた、エポックとなる大会でした。ありがとうございました。
- 初のオンライン開催、本当にお疲れ様でした。この時代の新たな交流の方法の先進的事例になったと感じます。状況が落ち着いたら、ぜひ現地に訪れてみたいです。再認定審査も応援しています。お体には充分気をつけて、2021年を乗り切ってください。
- コロナ禍のなか、リモートで開催されたことに敬意と感謝を表します。たいへんだったと思います。お疲れ様でした。現地に行かれませんでした。すばらしい大会となりました。
- オンラインを行うことで、旅費の関係で参加が難しかった高校生などの参加が容易になった。
- 限られた時間の中で、果敢なチャレンジを成し遂げた運営者の皆さまに賛辞を送ります。
- 大会関係者の皆様、大変ご苦労様でした。心より感謝します。
- 変化する状況に対応し、オンラインで充実した大会を開催し成果を出されたことに心から敬意を表します。ありがとうございました。
- 事前あまり情報がなく、心配しましたが、大会事務局はご苦労さまでした。防災の分科会が防災WGと無関係で行われるなど、ブロック内だけで大会の企画、運営をせざるを得ない現在の全国大会の運営の課題も、運営会議でも示されていたと思います。いろいろ考えるきっかけになった大会だと思います。お疲れさまでした。
- 初のオンラインでの全国大会という事で大会事務局の皆さんは凄く大変だったと推察します。まずもって皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。今回初めて全国大会に参加させていただきましたが有意義な大会でありました。これがリアルでの大会ならもっと有意義だったのではないかと思いますので、またリアル全国大会が開催できる状況を願うばかりです。大会事務局の皆様、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。
- 年中無休の施設のため、なかなか全国大会に参加することが難しいが、オンラインで開催してもらえると現地に行けなくても参加できるのでよかった。今後も現地とオンラインの両方で開催してもらいたい。
- コロナ禍大変な中 ありがとうございました。
- 初のオンライン開催で、難しいところがたくさんあったと思います。お疲れ様でした。
- 斉藤文紀さんの、地球温暖化で2100年には海面が1m上がり、砂浜海岸は無くなるという予測はショックだった。霞ヶ浦も河口堰による水ガメ化で、湖水の水位が1m上がり、砂浜海岸や葦原がほとんど無くなった。このような視点を今後のジオパーク活動に取り入れたい。
- 全てオンラインで、今までの全国大会と違って、繋がる部分が少なかったが、内容はオンラインだからこそその工夫もあり、楽しみながら学ぶことができた。
- 4月からの配属だったためまだまだ知識不足ですし、発想も乏しいです。多くの方の意見をお聞きできて、よかったです。
- ぎりぎりまで対面とオンライン両方の準備を進められた運営側の方たちのご苦労どれほどかと想像します。本当にありがとうございました。
- ポスターセッションコアタイムの参加の方のお手伝いをしたのですが、事前にマニュアルを読み込んでいなかったため、肝心のポスターの資料をZoomにアップ出来なかったことが心残りです。
- 事務局の皆様のご苦労はいかばかりかとお察いたします。本当にご苦労様でした。全国大会はやっぱり、その土地に行って、その空気感を感じることがとても必要だと感じました。全国大会をしなくてもいいという方もいましたが、しないのは簡単です。そんな中でもどのようにしたら、意義ある大会にできるかを考えることにも大きな意味があるような気がします。
- オンラインで一般公開をする形式は、ジオパークに興味の薄い方でも気軽に見ることができる点が良いと思った。
- 全国の活動しておられる方とお話ができ行ってみたいと感じた。
- 本大会は完全オンラインでの開催のため、本当に実施が出来るのか心配ではあったが、大会事務局の皆さまの尽力により、オンラインでも大会が実施できるという良い実績になったと考える。
- オンラインで気軽に参加できてよかった。
- 大変お疲れさまでした。ブロックパビリオン等、現地開催されたものの会場の様子(写真等)を見たいと思いました。
- 大会のホームページが分かりやすく、参加しやすかったです。
- 島根半島・宍道湖中海ジオパークの皆さまをはじめ、関係者の皆さま、ご準備・運営本当に大変だったかと思えます。誠にありがとうございました。
- コロナ禍の中で、大会開催に漕ぎ着けるまで、大変多くのご苦労があったかと思えます。大会の開催、運営に関わられた島根半島・宍道湖中海ジオパークの全ての皆様に感謝と敬意を表します。本当にご苦労様でした。
- オンラインでの大会として、それなりの成功をしている。今後は、この経験を生かして、様々な局面にオンラインを導入したらどうだろうか。
- 今回島根に行けなかったのは大変残念でした。オンラインもいいけどやはり実体験です。また機会があれば、島根に行ってみたいと思いました。いろいろお世話になり、ありがとうございました。スタッフの皆様にも心より感謝申し上げます。
- 今回は、当協会としての大会の申込窓口を担当したが、各参加セッションとURLの紐づけがわかりにくかった。受付番号とメールアドレスの紐づけがあればよかった。でも、皆さん初めての試みで大変でしたね。本当にご苦労様でした！
- 初めてのオンライン開催ということで様々な困難があったと思われるが、十分できることがわかり、今後の会議開催などの参考になった。
- 大会運営、お疲れさまでした。オンライン開催でも、いろんな意見を聞いて良かったです。(疲れが少ないので、楽でした)オンラインであれば多くの人が参加できる、と思っていましたが、やはり現地で集う方が参加者が多いような気もしています。ファシリテーターの力量で、有意義な分科会に参加できたと思っています。ありがとうございました。
- 2年間に渡り、大会の調整・準備などお疲れ様でした。次回は、現地開催できるといいですね。
- 今回、とても困難な中での開催だったと思います。本当にご苦労様でした。オンラインの開催など、次回にも繋がるものになりました。
- 日本のジオパーク活動は経済活動に特化しすぎている印象を持った。NPO団体や商売人の活動ではなく、もっと一般住民による参画の視点で議論が必要と感じた。
- 2年がかりの全国大会となりましてご苦労も多かったと察します。実行委員の皆様、大変な中、本当におつかれさまでした。いい大会でした。
- コロナ禍での開催で準備や開催方法の検討などで大変な苦労があったと思いますが、各地域に分散しているジオパークにとってはお互いの活動を共有できる貴重な機会であったと思います。大変お疲れ様でした。
- 実際に現地を訪れることができるのを、楽しみにしていました。しかし、満喫ジオツアーのようにオンラインならではの内容はとても良かったです。

- オンライン開催について感じたことを述べさせていただきます。メリットとして、①移動費・宿泊費の制約が外れるので組織として多くの会員を参加させることが出来る。②ジオツアーは短時間で広範囲を観ることが出来る。デメリットとして、①環境が整って無い人は参加出来ない。が掲げられると思う。自身、「体感することに意義があるのだろう、オンラインなんて・・・」と思っていたが、あながちそうでも無く感じた。むしろ上述のメリットを考えると、平常時でもオンライン開催は有効と思う。今回も最初からオンライン開催となっていれば、多くの会員に参加を促せたと思うし、デメリットについても、視聴出来る会場を設営するなど手を打つことは出来たと思う。(10/4のAMは4名に視聴してもらった)これからの方向として“平常時でもオンライン”を私は推奨したい。
- 初めてのオンライン開催に尽力された関係者の方々に敬意を表します。お疲れ様でした。
- プログラム全てに参加する事はできなかったのですが、出席したプログラムでは、とてもいい勉強をさせて頂きました。今後のガイド活動に活用していきたいと思いました。ありがとうございます。
- 参加者各地ジオパークでの推進活動事例を分かち合い、励ましあうことが主目的の全国大会であって欲しい。始原論的あるいは本質論的ご意見展開の傾向になると多少頭が痛くなります(笑)。元氣付け合うこの種の催しで会って欲しい。
- 日本ジオパークの活動が「地域おこし」のためのプログラムになってしまっている現状に憂慮。また、日本ジオパークに「なること」が目的となっている点についても、ネットワーク事務局と国内委員会が改善方針を示し、もっとUNESCO国際ジオパークの基本的な考えや新たな方針を踏まえ、現状の良い点を活かしつつも、改善の為の調整を図るべきかと思えます。
- オンライン参加は、手軽く・簡単なのだが日々の暮らしの中で参加する時間をなかなか作れない欠点があります。大会を行うにあたって運営者はオンラインをおこなったことで、実行出来たということでしょう。
- リモートは開催が容易かと思いましたが、目に見えない(あるいは感じ取れない)ご苦労が、かえってあったのでは、と感じました。開催に敬意を覚え大変感謝しています。
- 1年延期かつ初のオンライン開催となり、試行錯誤や苦労されたことも多かったと思います。大変お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。
- 初めての完全オンライン開催をやりとげるのは、大変なことだったと想像がつかます。一人の参加者としてオンライン大会に参加しましたが、これから先、こちらがオンライン大会の主権者になることもありえるので、今回の大会に参加した経験を活かしていきたいと思っています。有難うございました。
- オンラインで参加できてよかったです。ありがとうございます。
- コロナ禍もあり運営はとても大変だったと思う。スタッフの皆さんありがとうございます。もう少し落ち着いたら、島根半島・宍道湖中海に行きたいと思っています。
- 大会事務局のみなさま、大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 次回大会はオンラインでなく現地で実施できることを願います。開催地事務局には苦労が多かったことと思い本当に感謝の言葉しかありません。
- 普通ではありえない人数が参加するオンライン大会を実施されたのは、とてもすごいことだと思います。不安定な状況の中実施された背景にはたくさんの苦労があったと思います。運営の皆様ありがとうございます。オンラインでの開催は必ず今後の大会の糧になると思いました。ありがとうございます。
- 多忙のため、ほとんど参加できませんでした。申し訳ありません。
- 従来の大会と異なり完全オンラインでの実施となったことから、大会の大きな目的のひとつである参加者同士の対話という点で、物足りない部分があったのではないかと。しかし、運営方法次第では、集合しなくても話し合える可能性があることも示すことができた価値ある大会ではないか
- お世話になりました。次回の大会も楽しみにしています。
- 大学生や多くの世代の意見や協力を依頼することで、オンライン開催の難点に対策できていたのではと感じた。
- 大変お疲れ様でした。大会後、地元の反応はいかがでしたでしょうか。
- 次の大会は、関係者がリアルで顔を合わせて議論できるようになっていることを期待します。
- 新型コロナウイルス感染症の流行という不測の事態に見舞われ、大会延期やオンライン開催への移行など、2年間の長きにわたりご準備、ご対応にあたられましたこと、心より感謝申し上げます。大会事務局としてのご手ごたえと反省、同じ中四国近畿ブロック地域と上手く連携できた点、連携できなかった点、色々お考えの部分があるかと思えます。6年後に再び中四国近畿ブロックへ、全国大会の担当が回ってきます。6年後に担当される地域のためにも、是非大会を終えた後の所感や改善点などを記録として残していれば幸いです。
- 44のジオパークの多くが海に面しております。今回の海岸漂着プラスチックごみへの対応もその良い例ですが、これまで火山防災で世界に名を売った日本であれば、次に、海と海洋を取り上げ日本ジオパークとしての特色ある活動を展開すべきかと思えます。そうすることで、UNESCO国際ジオパークにける日本の存在価値(日本らしさ)をみせていけるのではと思います。
- 島根の皆さん、またいつか必ずお会いしましょう!
- やはり現地に行ってジオツアーに参加したかったです。オンラインで普段参加出来ない方々が見る事ができ、今後も行けない方々が開会式などYouTubeで見れるといいと思いました。色々ありがとうございました。
- たくさん変更があり大変だったと思います。ありがとうございました。
- やはり実際に現地を見て触って、をしたかったです。いつか行きたいです。
- オンライン開催となり、全国のジオパーク関係者と直接会うことができず、少し残念でした。また皆さんと会える日を楽しみにしています。お疲れ様でした。
- 隠岐の島に行きたかった!
- 初めてのオンライン大会大変お疲れ様でございました。貴会お皆様の熱意と意欲、そしてチームワークの良さが成功に導いたのだと思っております。今後の大会にあり方に一石を投じたものと確信致します。
- コロナの感染状況から、いろいろ判断、見極めが大変だったかと思えます。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- やっぱり、実際に集まり、歩き、話すほうがいいです。
- これまでの大会では、初めてリモートで開催されたことに感謝しています。
- 昨年度からの延期やオンライン開催への切り替え等、実行委員会の皆さまは大変なご苦労をされたことと思います。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。お疲れ様でした。
- 紙の上、画面、机の上にはジオパークの活動は無い。
- 来年は参加したいです。
- 辛辣な意見を書きましたが、初めての試みで大会運営に関わった皆さんはたくさんの苦労があったことと思います。第11回のJGN全国大会が無事に幕を閉じたこと、心から感謝しています。本当にありがとうございました。
- 隣県なのに現地で参加できなかったのは残念ですが、時期的にやむを得ないとも思います。
- ブロック別パビリオンに相当の工数がかかっているため、当日の来場者数を教えていただきたい。また、各展示物がどれだけ配布された(持ち帰られた)のかも教えてほしい。それらの数字をもって費用対効果を考えたい。
- オンラインで聞き漏らしないのはいいのですが、やはり各エリアのジオパークの方々と交流が無いのはさみしいですね。来年からは現地開催が再開することを祈っています。今回のオンライン全国大会楽しませて頂きました。スタッフの皆様、関係者の皆様お疲れ様でした。貴重な学びの場を有難うございました。

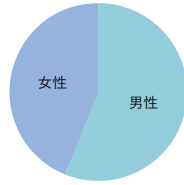
# 3 出雲会場来場者アンケート項目と集計結果

全来場者数206人のうち49人が回答。(回答率23.7%)

## (1) 基本情報

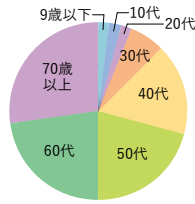
### (1)-1 性別

男性	27	56.3%
女性	21	43.8%
合計	48	100.0%



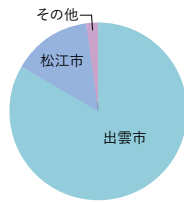
### (1)-2 年齢

9歳以下	1	2.1%
10代	1	2.1%
20代	1	2.1%
30代	3	6.3%
40代	8	16.7%
50代	10	20.8%
60代	11	22.9%
70歳以上	13	27.1%
合計	48	100.0%



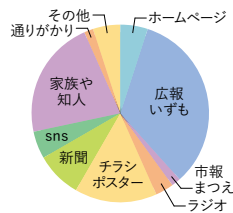
### (1)-3 お住まい

出雲市	40	83.3%
松江市	7	14.6%
その他	1	2.1%
合計	48	100.0%



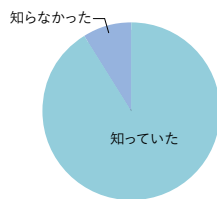
### (1)-4 ご来場になったきっかけ(複数回答有)

ホームページ	3	5.0%
広報いずも	20	33.3%
市報まつえ	1	1.7%
ラジオ	2	3.3%
チラシ・ポスター	9	15.0%
新聞	5	8.3%
sns	3	5.0%
家族や知人	13	21.7%
通りがかり	1	1.7%
その他	3	5.0%
合計	60	100.0%



### (1)-5 島根半島・宍道湖中海ジオパークを知っていたか

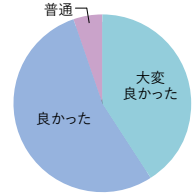
知っていた	41	91.1%
知らなかった	4	8.9%
合計	45	100.0%



## (2) 市民公開講座

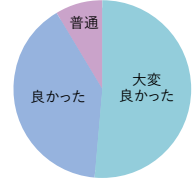
### (2)-1 プログラム全体

大変良かった	16	41.0%
良かった	21	53.8%
普通	2	5.1%
悪かった	0	0%
大変悪かった	0	0%
合計	39	100%



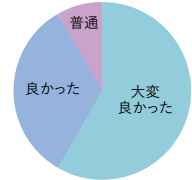
### (2)-2 ジオパーク基礎講座

大変良かった	18	51.4%
良かった	14	40.0%
普通	3	8.6%
悪かった	0	0.0%
大変悪かった	0	0.0%
合計	35	100.0%



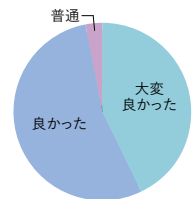
### (2)-3 講演「世界の巨石」

大変良かった	21	58.3%
良かった	12	33.3%
普通	3	8.3%
悪かった	0	0.0%
大変悪かった	0	0.0%
合計	36	100.0%



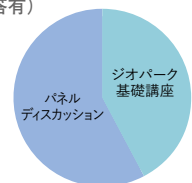
### (2)-4 パネルディスカッション

大変良かった	15	42.9%
良かった	19	54.3%
普通	1	2.9%
悪かった	0	0.0%
大変悪かった	0	0.0%
合計	35	100.0%



### (2)-5 特に良かったプログラム(複数回答有)

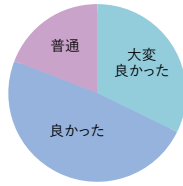
ジオパーク基礎講座	11	42.3%
講演「世界の巨石」	0	0.0%
パネルディスカッション	15	57.7%
合計	26	100.0%



### (3) JGNブロック別パビリオン

#### (3)-1 プログラム全体

大変良かった	12	32.4%
良かった	18	48.6%
普通	7	18.9%
悪かった	0	0.0%
大変悪かった	0	0.0%
合計	37	100%



#### (3)-2 特に良かったパビリオン(複数回答有)

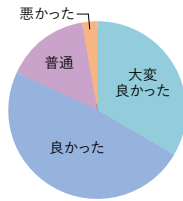
北海道	7	14.0%
東北	11	22.0%
関東	4	8.0%
中部	6	12.0%
中四国	11	22.0%
九州	11	22.0%
合計	50	100.0%



### (4) ジオパーク展示コーナー

#### (4)-1 プログラム全体

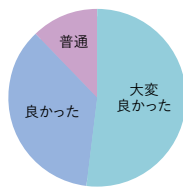
大変良かった	13	33.3%
良かった	19	48.7%
普通	6	15.4%
悪かった	1	2.6%
大変悪かった	0	0.0%
合計	39	100.0%



### (5) 須田郡司写真展「世界の巨石」

#### (5)-1 プログラム全体

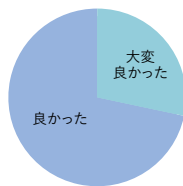
大変良かった	13	52.0%
良かった	9	36.0%
普通	3	12.0%
悪かった	0	0.0%
大変悪かった	0	0.0%
合計	25	100.0%



### (6) オンライン交流コーナー

#### (6)-1 プログラム全体

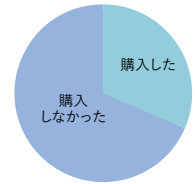
大変良かった	2	28.6%
良かった	5	71.4%
普通	0	0.0%
悪かった	0	0.0%
大変悪かった	0	0.0%
合計	7	100%



### (7) 物産展

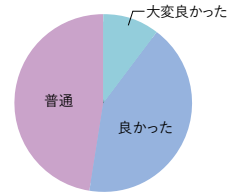
#### (7)-1 購入いただいたか

購入した	11	28.2%
購入しなかった	24	61.5%
合計	39	100.0%



#### (7)-2 品揃え

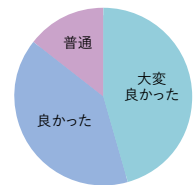
大変良かった	2	10.5%
良かった	8	42.1%
普通	9	47.4%
悪かった	0	0.0%
大変悪かった	0	0.0%
合計	19	100.0%



### (8) スタンプラリー

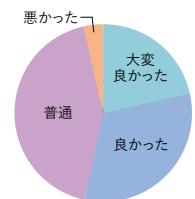
#### (8)-1 プログラム全体

大変良かった	16	45.7%
良かった	14	40.0%
普通	5	14.3%
悪かった	0	0.0%
大変悪かった	0	0.0%
合計	35	100%



#### (8)-2 賞品

大変良かった	6	21.4%
良かった	9	32.1%
普通	12	42.9%
悪かった	1	3.6%
大変悪かった	0	0.0%
合計	28	100%



### ① 市民公開講座について

- 入月先生のお話は分かりやすく良かったです。須田さんの写真のお話も素晴らしかったです。
- クジラ島の現状と今後を知り、少し残念な気持ちでした。
- 出雲のジオパークを全国に知ってもらうことができ良かったです。
- 韓竈、大船山、立岩さん等の説明が欲しい。知らないこともある。スライド説明は分かりやすかった。
- 石神さんを通じ、地域の人達との活動も色々な面でわかり、よかったです。
- 3名それぞれの視点からの発表があり、ジオパーク構想の奥深さを感じました。地形、歴史、人とのつながり、産業、文化など、様々な情報を知ることができ、とても勉強になった。ありがとうございました。
- 写真がきれい。実際に旅しているような気分になった。
- 日本、世界にはすごい巨石があるのが解りました。今後、先生の巨石の写真を見ていきたいと思います。地元との協調等が必要であると思います。(継続性)
- 大変良い勉強をさせて頂きました。スタッフの皆様、お疲れ様です。

### ② JGNブロック別パビリオンについて

- 時間が少なくて、ゆっくりと見るができなかったのが残念。
- (中四国近畿ブロックを特に良いとした理由は) 動線上、見やすかった。全体として、行くときは、ジオパークも考えつつ、動きたい。
- さまざまな地域の観光パンフレットが入手できる良い機会でもあった。なかなか行けないし、すべてを巡るのは難しいであろうが、巡るときの参考として記憶しておきたいことは多い。
- リモートの中、ありがとうございました。
- パンフレットが豊富。写真がきれい。国内にこんなに素敵な場所があることを知らなかった。行ってみたいとなった。
- 実際に北海道や東北に行きたかったので、詳しく知れて良かったです。
- 全国のパネルを見て、行ってみたいと思った。
- パンフレットを沢山頂き、参考にして行ってみたいと思った。
- シールやカードがもらえたことがうれしかった。
- 大地の視点から地域のことが分かり、全国のパンフレットも沢山見ることができ、お得な感じでした。子どもは「自学に使える」とパンフレットをたくさんもらっていました。
- 行った気分になれました。
- 全国各地のジオパーク展示があり、パンフレット資料等持っただけなのに、持ち帰り用のバックなどがあれば良かった。何でも良いので用意して欲しかった。

### ③ ジオパーク展示コーナー

- マップがあり、今後行くときの計画の基になるのでありがたかった。
- 動画を観るとき、パネルが近く、人が立つと気になった。
- それぞれの展示の特徴があつて良かった。
- 展示期間が2~3日あると、もう少しゆっくり見ることができたのに、時間が少なくてパンフレットをもらうのがやっとなのが残念でした。
- 岩の模型が良かった。
- 吉田のアニメの映像が良かった。分かりやすかった。
- 吉田くんの映像で、しっかり勉強できた。
- ジオパークを堪能させていただきました。

### ④ 須田郡司写真展「世界の巨石」について

- 特に近いところで、まだ行ってないものは行ってみたい。
- 石もいろいろな見方がある。
- 各地域の魅力ある石を紹介されていて、実施に行きたいと感じた。まずは近場から。

### ⑤ オンライン交流コーナーについて

- 十勝岳と交流したが、行ったことがない土地のため興味深く、北海道に行くなら行ってみたい。
- 将来の可能性を感じました。楽しいですね。回線の安定が課題です。

### ⑥ 物産展について

- 金額が500円以下のものが少なく、手軽に買えるという感じはしなかった。小さいものでも、手軽ならもう少し買うと思う。
- 全国各地のジオパークの産物を買えてよかった。
- 厳しい中、ありがとうございました。
- 買ってはいないけど、良いものがいっぱいあった。
- 時間がなくてすみません。
- 珍しいものがあり良かった。

### ⑦ スタンプラリーについて

- (賞品が) 地域にかかわるもので良かったと思う。
- ティッシュ 残念!
- 子どもがゲーム感覚で取り組めて、主体的に参加できました。

### ⑧ その他ご意見、ご感想

- 入月先生の話が分かり易く、ジオに興味を持ってました。ありがとうございました。
- 今日は楽しいイベントありがとうございました!
- 一部オンラインになったのは残念だったが、全国のジオパークのことを知ることができて、交流という意味では大変有意義な大会だった。
- 初めてのリモート、良かったですよ。本当にご苦労様でした。
- 全体的にしっかりと企画だと思いました。講演の出演者の熱心が伝わりました。
- 先月、佐香コミュニティセンターの会に興味を持ち今回参加しました。これから勉強します。歩きます。ありがとうございました。
- たくさん学べました。ありがとうございました。
- 準備、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- コロナの影響で大々的にできなかったのが残念でした。もっと多くの人に見てもらう機会になると良かった。
- 今日ここに来て、とても分かりやすかったし、自学に使えるものもいっぱいあって良かったです。
- ジオパークが大好きで書籍も多々買いました。
- 島根県内だけでもバスツアーを企画して下さい。
- いっぱいもらえたことがうれしかった。
- ジオパークそのものにあまり関心が高かったが、色々あってびっくりした。いろいろなところへ行ってみたくなった。

# 第11回 日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会

[ 協賛企業・団体 ]



株式会社 日新



山陰海岸ジオパーク

山陰海岸ジオパーク推進協議会



室戸ジオパーク

室戸ジオパーク推進協議会



伊勢ジオパーク

隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会



四国西予ジオパーク

四国西予ジオパーク推進協議会



南紀熊野ジオパーク

南紀熊野ジオパーク推進協議会



Mine秋吉台ジオパーク

Mine秋吉台ジオパーク推進協議会



HAGIジオパーク

萩ジオパーク推進協議会



田部グループ

田部グループ



Tosashimizu Geopark

土佐清水ジオパーク推進協議会



三好ジオパーク

三好ジオパーク構想推進協議会



Rotary Club of Matsue

松江ロータリークラブ



松江土建 株式会社



Energia

中国電力株式会社 島根支社

第11回日本ジオパーク全国大会  
島根半島・宍道湖中海大会  
実行委員会事務局  
(松江市・出雲市)

[松江市役所地域振興課 ジオパーク推進室]

〒690-8540 島根県松江市末次町 86 番地

TEL : 0852-55-5399 FAX : 0852-55-5665 E-mail : kunibiki-geopark@city.matsue.lg.jp

[出雲市役所政策企画課 ジオパーク係]

〒693-8530 島根県出雲市今市町 70 番地

TEL : 0853-21-6612 FAX : 0853-21-6752 E-mail : seisaku@city.izumo.shimane.jp